SPECIAL DIRECTION!!
2009-2010AW
MASAKI AIBA
HINANO YOSHIKAWA
EMI SUZUKI
MARIE
AKI HOSHINO
SHIHO FUJITA
TSUBASA MASUWAKA
AKINA MINAMI
IMALU
KIKO MIZUHARA
ANNE
ANGELA BABY
JYUNPEI MIZOBATA
KOHJI SETO
SHU
M


ANNA
SUI
www.annasui.co.jp


© 2009 ANNA SUI


ADDICT
T.R.P.


ADDICT
おりこうじゃなきゃ、おしゃれはできない。
わたしらしくをあたらしく
LUMINE
www.lumine.ne.jp



Kindly supported by DBCSC / ad: Colin Schaelli; photo: Noë Flum



早いなあ、一年は本当に早い。
あっという間、びっくり、毎回毎回そんなこと言ってます。
ちゅうわけで、またまた秋冬の季節になりました。
にしても前の号が出た頃からずいぶん色々変わったわー(笑)。
事務所も家もお引っ越し!! ほんと死ぬかと思うほど大変だったー。
こうやって有無を言わさず、ぶんぶん無理やり前に進んでいく感じが自分っぽいなと満足しております。
ダサい嫌なことはなぎ倒し、欲しいものは捕りに行く、やっぱこの姿勢で行きます!!

蜷川実花

SPECIAL EDITOR IN CHIEF
Mika Ninagawa

EDITORIAL DIRECTOR
Shintaro Oku

EDITORS
Maiko Okuhara
Kaori Nakamura
Yukari Ohyama (Rocket Company*/RCKT)
Erina Watanabe (Rocket Company*/RCKT)
Sachie Minamoto (Rocket Company*/RCKT)
Satoko Muroga (Rocket Company*/RCKT)

ART DIRECTOR
Takuya Yamada

CONTRIBUTING STAFF (Lucky Star)
Hidetake Kanaya
UcCHI
MARCO
Minami Goto
Aya Fujii
Yuka Yanazume
Yuji Otawa
Saki Hiraiwa
Rie Yoshida
Hiroko Ninagawa
Shu Ninagawa

AD PLANNING DIRECTOR
Hiroyasu Tanikawa
Daisuke Okazaki

SITE DIRECTOR
Kei Tanikawa

SALES
Ryo Kodama

MATOI PUBLISHING. INC
1-19-20 A03 Hanegi Setagaya-ku Tokyo
156-0042 JAPAN

発行: 株式会社MATOI PUBLISHING
〒156-0042 東京都世田谷区羽根木 1-19-20
羽根木インターナショナルガーデンハウス #A03
TEL. 03-3324-2210

発売: 株式会社実業之日本社
〒104-8233 東京都中央区銀座 1-3-9
TEL. 03-3535-4441

印刷: 大日本印刷株式会社

cover photo
Photographer: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: KUMI SAITO (SIGNO)
Hair&Make-up: HIROKI MUROOKA (Three Peace)
Model: HINANO YOSHIKAWA

fur bolero ¥262,500, pants ¥11,550
both (NINE AOYAMA),
gold × parl long necklace ¥10,290,
silver × parl necklace ¥13,440
green-stone bracelet ¥7,140 all (Rosy-Baroque),
coin necklace ¥9,240, gold × parl necklace ¥6,090,
bead bracelet ¥9,240 coin bracelet ¥10,290,
emblem bracelet ¥8,190 all (CABARET)
others stylist's own



Rendez-vous with MASAKI AIBA

嵐·相葉雅紀

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: DAISUKE IGA (KiKi inc.)
Hair&make-up: ShinYa for SHINYA salon (PRIMAL)
Model: MASAKI AIBA



suit ¥99,750, tie ¥11,550, shoes ¥44,100
all (Paul Smith/Paul Smith JAPAN)
shirt ¥12,600
(PS Paul Smith/Paul Smith JAPAN)
others stylist's own































KODAK 400TX



蝴蝶网
hudie.com







蜷川実花(以下、蜷川)：　いやいや、おつかれさまでしたー。

相葉雅紀(以下、相葉)：　ありがとうございましたー。楽しかった!

蜷川：　今日は幻聴がいっぱい聞こえたよ。

相葉：　なになに?

蜷川：　「実花ファイト!」「もうちょっと!」「グッジョブ!」「ナイスでーす!」みたいな(笑)。

相葉：　「ナイスでーす」って(笑)。

蜷川：　そう、ファンのみなさんから言われてる気がして。うふふ(笑)。感無量だわ。

相葉：　なんかね、今日は何がよかったって、まずはワンポーズだったことだよね。ここではいろいろ動いたり、小物とかタオルとかも使ったりしてたから。

蜷川：　今日何もしてないもんね。ネクタイはずしたくらいで。

相葉：　そう、「ネクタイははずすためにあります」って名言出ちゃったし(笑)。

蜷川：　そうそう(笑)。今日のテーマは……

相葉：　ジゴロ?

蜷川：　そう、ジゴロ(笑)。で、年齢はけっこう上。いくつくらいを想定してた?

相葉：　んーとねぇ、33。

蜷川：　(小声で)もっと高めダヨ!

相葉：　もっと上だった!? じゃあ、38ぐらい?

蜷川：　うーん……38から42ぐらいの間(笑)? だいぶ上にあげて、上の人たちがうっとりしてくれるっていうような作戦だったんです(笑)。

相葉：　半年に一回ペースで実花さんに撮ってもらってますよね。

蜷川：　そうだよね。で、なんか男っぽくなったねって、みんなで言ってたんだけど。

相葉：　ほんと?

蜷川：　何があったんですか?

相葉：　なんだろう(笑)。

蜷川：　ちょっと切り込んでいこうかなと思って。こないだのトークが評判よかったんだって。

相葉：　うそ(笑)。

蜷川：　で、なんかちょっと、妙な使命感があるんだよね(笑)。私ね、あんなに沢山の方から「嬉しい! ありがとうございます!」ってメールもらったの初めてだったもん(笑)。

相葉：　これは頑張らねばと。でもあの時初めて『Mgirl』に出させてもらって、今回もこうやって声かけてくれたのは嬉しかったですよ。

蜷川：　いや～、だってもう、超撮りたくてさ。前回、まだまだいけると思って。相葉くんでやりたかったのが一個できたじゃん? でもまたそうすると、ああいうのもやりたい、こういうのもやりたいってすごく出てくるの。相葉くんて奥が深いんだね。

相葉：　ほんとですか?

蜷川：　ほんと思った。そしてほんとに男っぽくなった。全然雰囲気が違う。

相葉：　ありがとうございます。

蜷川：　前回はちょっと、ややほっこり系だったじゃん?

相葉：　うんうん。

蜷川：　今回は「何? このワルい顔」みたいな(笑)。

一同：　あははは(笑)。

相葉：　こんな顔するんだと(笑)。

蜷川：　これとかヤバくない?

相葉：　うーん、ワルい。

蜷川：　ワルいよねぇ。いやーすごいなあ。ワルですね。

相葉：　ワルですねぇー。

蜷川：　今回、前回よりもっと喜んでもらうにはどうしたらいいのかしらと思って。なんかいらないプレッシャーを抱えてたの(笑)。

相葉：　なるほどねぇ。

蜷川：　でも全然また違う雰囲気だからいいんじゃないかなぁと思うんだけどな。

相葉：　いやでも、ほんと楽しかったな。久々に。

蜷川：　楽しかった。短かい時間だったけどゆったり撮れたね。

相葉：　うん。今度は外行きたいっすね。

蜷川：　外行きたいね。でも、すごい作り込むのも楽しそうだよね。

相葉：　やっちゃいます? また。

蜷川：　ぜひ。今日のはシンプルの極地じゃん? ライトもほとんど足してないしね。

相葉：　なるほどね。作り込みたいですね。

蜷川：　うーん。何がいいかな。カレンダーの時は相当とばしたからなぁ。うふふふふ(笑)。

相葉：　あれ以上(笑)。

蜷川：　ほんとになんかさ、どんどん妄想が激しくなっていくなあ。募集しようかな、何してほしいか。

相葉：　あはははは(笑)。そうすればプレッシャーもちょっとは。

蜷川：　そうなの(笑)。でも大満足だよ。

相葉：　俺も満足しましたね。

蜷川：　こんな遅い時間に出し切ったね。明日もあるっていうのに。

相葉：　いえいえ全然いいですよ。登場シーンからなんかあやしい雰囲気出してましたよね。

蜷川：　出してた(笑)。でもさ、なんでそんなに丁寧でいい感じなの? 相葉くんて。

相葉：　何がですか?

蜷川：　急に話を変えたけど(笑)、なんであんなに丁寧できれいな人なんだろうねって、さっきみんなで話してたんだよね。

相葉：　あははははは(笑)。全然ですよ。

蜷川：　でもこういう人なんでしょ?

相葉：　気は遣ってないですね。

蜷川：　そっか、それが自然なのか。すごくちゃんとしてて、丁寧できれいな人っていう印象だったなぁ、今日。

相葉：　えーーー。そっか。計画してるんですけど、ね? ごはん行こう行こうってね?

蜷川：　あ、そうそうそう。

相葉：　なかなか合わないんですよ、時間が。

蜷川：　すっごい忙しそうだもんね。やっぱりハードだよ。すごいなぁ。でもそれでもちゃんとしてるのってすごいね。やさぐれたりしないの?

相葉：　しないですよ(笑)。

蜷川：　マジ? 私しょっちゅうやさぐれてる(笑)。

相葉：　なんかやっぱり、ひとつのものをやってもらうときに、いろんな人が動いてくれて。今日だってそうだし。ちゃんとしなきゃなって思うんスよ、大人として。

蜷川：　えらいねぇー、さすがだね。

相葉：　いやいやいや。

蜷川：　陰でブーブー言ったりしないの?

相葉：　言わないっすよ(笑)。あんまり言わない。

蜷川：　私はいつもブーブー言ってるよ(笑)。

相葉：　じゃあ聞きますよ俺、今度。

蜷川：　けっこうブーブー言いますよ～(笑)。あ、前回もちゃんとしなきゃなって思ったんだ、相葉くんと話して。

相葉：　ほんと?

蜷川：　今回もまた思ったわ。私もいい加減大人になろう、もう。大人だし(笑)。

相葉：　でも心配だよね。明日(の撮影のイメージ)決まってないんでしょ?

蜷川：　そう、何っっっも決まってないわけ。まあ、『Mgirl』なんだけど(笑)。

相葉：　ヤバいじゃないですか(笑)。

蜷川：　何をやるのかすら決めてない。

相葉：　ほら、この(スタッフが)ちょっとひいた感じ(笑)。そうなの? みたいな(笑)。大丈夫ですか?

蜷川：　明日9時入りなんだけどねえ。

『Mgirl』編集部(以下、M)：　蜷川さん、今日のこの撮影で全力を出し切ったんですよね。

蜷川：　ほんとですよ。相葉くんが撮れるって聞いて、もう超拍手だったんだよ? やったー!!って。

相葉：　ほんとですか? 超嬉しいっすよ。

蜷川：　でもねぇ、ほんと前回の号は、相葉くんのファンがいっぱい買ってくれたっぽくってね、本屋さんに本が並ばなかったんだよね(笑)。

相葉：　いやー、ありがたいっすよそんな。

蜷川：　すごいね(笑)。ウワサによるとみんな何冊も買っているらしく、今アマゾンで1万ちょっとなんだって。

相葉：　えー!

蜷川：　すごいね。ほんとに愛されてるんだね。

相葉：　ねー? 嬉しいですよ。

蜷川：　ほんとに、こんなに反響があったことなくて(笑)。

M：　逆に、実花さんのファンから「今回のMgirl買えないんですけど」っていう連絡もあったりしました。

相葉：　敵にも回しちゃうんですね(笑)。

蜷川：　矢沢永吉さんのファンからも買えないよって連絡きたらしいよ(笑)。でもよかったー。ファンの人たちはまた喜んでくれるし。相葉くんのことをそんなに知らない人っているのかわかんないけど、こんな相葉くんもあるのかってきっと思ってもらえると思うし。超かっこいいのが撮れたわー。

相葉：　ありがとうございます。

蜷川：　今日のスマッシュヒットはこれです(ベッド脇で相葉さんが見下ろしているカット)。けっこう女の人はぐっとくると思う。

相葉：　へぇー。

蜷川：　なぜなら……

相葉：　……

蜷川：　……



相葉雅紀

MASAKI AIBA

って歩いてるのを見る目線なイメージなんだけど。なんていうか、見下げられカット(笑)?

相葉: うんうんうん。

蜷川: こう見上げじゃなくて、見下げられるっていうのがポイントなんだけど(笑)。これけっこうね、くるんです。そんな珍しいことしてるわけじゃないんだけど、新鮮なんじゃないかと思うんだよな。

相葉: 深いなぁ。

蜷川: で、なんか男の子ってさ、女の子がまだベッドにいてもフラフラフラフラ歩くわけ。

相葉: なるほどねー。

蜷川: とっととベッドを出て(笑)。フラフラ歩いてるわけ。だから女の人は多分よく見覚えのある光景だと思うんだけど。

相葉: これは何時くらいの想定ですか? 寝る前?

蜷川: ……12時40分。

相葉: そこまで設定が(笑)。もう、実花さん何聞いても返してくれるからなあ。

蜷川: だってたぶん、来たのが遅いのよ。

相葉: 遅かった? 何時くらい?

蜷川: 9時50分ぐらい(笑)。

相葉: あはははは(笑)。そっか。

蜷川: うん。

相葉: で、何時に帰るの?

蜷川: 帰んないよ。これで帰られちゃったら悲しいよ!

相葉: そうですよね(笑)。

蜷川: 朝まではいる。相葉くんは、起きたらいないかもしんないけど(笑)。

相葉: 切ないね。

蜷川: あと、こんな顔見たことないよね。相葉くんの企み顔。

相葉: そうっすね、あんまりないかも。

蜷川: やっぱりこう、髪あげてるとまた雰囲気が違うね。

相葉: 僕はでも、これかな? こんなワルい顔するんだと思って。

蜷川: これ、ベタ焼きみたらたぶん超～ワルい顔してるよ。そんなの序の口ですよ。

相葉: ワールい顔してたんだ。そういう面を引き出されたんですね、今日は。実花さんによって(笑)。

蜷川: まぁまぁ。

相葉: そうですね、これちょっと、自分でもびっくり。

蜷川: でもね、この最後にね、ネクタイをポッケから出してピーンてしてたのはさすがに「これは使えるかしら?」と思って見てたんだけど(笑)。

相葉: してた。ネクタイどうしようかなと思って(笑)。

蜷川: 面白かった。やっぱスーツは女子は大好きだもん。そして似合うねーやっぱり。

相葉: ありがとうございます。

蜷川: (満足げに)はぁーーー。

一同: あはははは(笑)。

蜷川: 今日さ、相葉くんがニヤっとしたときに、私がニヤっとしたのを(メイキングのカメラで)撮られたなって瞬間があって、「今撮った?」って言ったら「撮りました」って(笑)。でも、相葉くん来る前のだれっぷりったらなかったよね(笑)。

相葉: 俺入ってきた時ちょっとビックリしたもん(笑)。たしかに前の仕事がちょっと遅れてて申し訳ないと思ったけど、来たらもうこんな。「あ、おはよ～」みたいな(笑)。

一同: あはははははは(笑)

蜷川: そう、靴をも脱いでてさ。すごいことになってたよね(笑)。

M: めちゃめちゃお忙しい相葉さんですが、ストレスとかどうやって発散されてるんですか?

相葉: ストレスですか? なんだろうなぁ。……家に帰ってから、ちょっと飲みますね。

蜷川: へぇー。ひとりで?

相葉: ひとりでもちょっと飲みます。ビールでも何でも。ちょっと飲んで寝る。やっぱり、どんな仕事をしてても帰ったらちょっと気が昂ってるんですよね。それを抑えて、覚えることあれば覚えて、寝ますね。それで切り替えられるっていうか。よし、明日も頑張ろうって。実花さんはどうやって切り替えてます?

蜷川: 私……あんまししないかも。このままグルグル行くかも。でも、私自家発電型で、やっぱこうやって撮ってると元気になるし、絶対撮影現場に入ってきた時より終わった時のほうが調子がいいの。体力的には絶対疲れてるはずなんだけど、絶対に元気になって終わる。

相葉: いいですね、それは。

蜷川: 特に今日なんかはウキウキじゃん? 超ホクホクでこのまま帰って寝るじゃん(笑)? で、また明日の準備するじゃん?

相葉: じゃあずーっとつながってるんだ。で、なんかの仕事の区切りでリフレッシュする。

蜷川: あ、リフレッシュもだからあんまりないかも。旅行とか行っても、写真撮って元気になるし。

相葉: すごい。そっかぁ。

蜷川: 基本的には趣味もないし、やっぱ撮ってるのが好き。いいでしょー、自給自足(笑)。

相葉: じゃあまったく、カメラとか持たずに旅行とかは行かないってこと?

蜷川: そうなんだよね。行ってみたいんだけどねぇ。でもなんかいいのに出会っちゃったら嫌だなと思うから、旅行に行く時はやっぱし持ってくね。一度でいいから持たずに旅行に行ってみたいと思うけど、できないねぇ。それは。だから仕事がほんとに、遊びって言ったらあれだけど、好きなことだから遊んでるみたいだし、プライベートも仕事みたいだし、そこはほんとに境目がない。

相葉: なるほどなぁー。

蜷川: だってやっぱこういう時がすごい楽しい。

相葉: 仕事っていう感覚ですか?

蜷川: 今日はそうでもない。わーい♪みたいな(笑)。

一同: あははははは(笑)。

相葉: :俺も、いっつもそうなんですよね。何やっても仕事っていう感覚があんまりないんだよなぁ。

蜷川: ドラマも?

相葉: そうですねぇ。仕事っていう感覚はないです。

蜷川: 楽しいから?

相葉: なんなんすかねぇ(笑)。なんか、仕事って考えちゃうとすごく業務的な気がして。

蜷川: あーなるほどね。

相葉: 「俺なんのためにやってんだろう?」って思っちゃうんですよね。

蜷川: うんうん。

相葉: 一番感じるのが、「～のための事前のアンケート」とかってあるんですよ。番組に出るにあたってこういうことが知りたい、みたいな。そういうのを書いてるときに、たまに業務的な気持ちになることがあって。なんか、ペンを持つとそう感じるんです。

一同: へぇ～。

相葉: 自分を全部出せないというか、線引きしちゃうんですよね。でも、こんなふうに、スタッフの人たちが来てくれて、直接インタビューってなると感じないんだけど。

蜷川: なるほどねぇ。私はでも、撮影してる時以外はけっこう仕事～って感じな気分になっちゃう。特に自分が取材受けるのとかすっごい苦手!

相葉: 苦手なんだ(笑)。そんな感じしないです。

M: 10月9日から、相葉さん主演のドラマが始まるんですよね。

相葉: そう。「マイガール」です。実花さん観てくださいよ。

蜷川: 観ます! 今、絶賛撮影中?

相葉: 撮影中。絶賛かどうかわかんないけど(笑)。

蜷川: 楽しい?

相葉: お話ですか? あ、やってるの? うーん、楽しいですけどやっぱり、体力的にはけっこう堪えますよね。でも、話がねぇ、いいんですよ。

蜷川: どんな役どころなの?

相葉: 高校生の時に付き合ってた彼女にフラれて、6年間傷つかないように生きてるんだけど、その付き合ってた彼女が死んだっていう連絡を受けるんです。で、彼女は留学してるって言われてたんだけど、実は日本にいて、本当は2人の間の子供を育てていて、で、彼女が死んじゃって5歳の娘が急に来るっていう。切ないんだけどあったかい話ですよ。

蜷川: 楽しみ～。パパ役なのね、一応。

相葉: そう、一応パパ役。

M: 仕事はカメラマン助手という設定なんですよね。

相葉: そうそう! 縁がありますわねぇ(笑)。

蜷川: じゃあ次はアシスタントとして入ってもらおうかな(笑)。

相葉: そしたらあのお姉さん(実花さんのアシスタント)の仕事なくなっちゃうじゃん。

蜷川: とっちゃってください(笑)。ちなみに私、けっこう怖いよ。

相葉: そうですね、ちょいちょい垣間見てました(笑)。

蜷川: じゃあ次号はモデルとして登場じゃなく……。

相葉: スタッフとして一冊付き合いますか(笑)。

蜷川: いや～～～今日は本当に楽しかった! 今回絶対ヤバいですよ。

相葉: ほんとですか? 楽しみにしてます。

蜷川: ベタの写メ送りますよ。

相葉: メー

蜷川: うん



相葉雅紀 1982年12月24日生まれ。千葉県出身。今年でデビュー10周年を迎える嵐のベストアルバム「All the BEST! 1999-2009」は発売初日で26.1万枚の売り上げを記録。また、10周年記念ライブ「ARASHI Anniversary Tour 5×10」では、国立競技場では史上初となる3日間連続公演を行った。ソロでは初の主演ドラマとなる「マイガール」(テレビ朝日系)が10月9日からスタート。



FUTURISTIC PARTYING IN TOKYO
PHOTOGRAPHY: MIKA NINAGAWA [LUCKY
STYLING: KEI SHIRAHATA [LOVABL
HAIR: ABE [FAMME]
MAKE-UP: KAZUKO HAYASAKA [FAMME]
MODEL: KIKO MIZUHARA



coat ¥89,250 (Pendleton meets Opening Ceremony/
Opening Ceremony pressroom),
cap ¥115,500 (Stephen Jones/test,),
belt ¥15,540 (motonari ono/ESTEEM PRESS),
glove ¥144,900 (SOMARTA/ESTEEM PRESS)



jacket ¥831,600, *tops* ¥187,950 (BALMAIN/ EIGHT MILLION SHINJYUKU GATES), *hair accessory* (Stephen Jones/test.)



bustier ¥236,250 (Thierry Mugler/RESTIR),
blouse ¥55,650 *pants* ¥51,450 (GLORIA COELHO/dual),
hair accessory ¥92,400 (DRESS CAMP),
shoes ¥82,950 (Christian Louboutin/RESTIR),
tights stylist's own



jacket ¥*126,000* (et momonakia/ALFA),
one-piece ¥*8,925* (TOPSHOP/TOPSHOP TOPMAN),
leggins ¥*19,950* (costume dept/RESTIR),
hair accessory ¥*26,250* (Manoush/CORONET),
necklace ¥*19,950* (Make Believe/dual),
pumps ¥*89,250* (Christian Louboutin/RESTIR)





cjacket ¥831,600,
tops ¥187,950 (BALMAIN/
EIGHT MILLION SHINJYUKU GATES),
hair accessory ¥60,375 (Stephen Jones/test,),
others stylist's own



dress ¥157,500
(SAPHIR EAST/ESTEEM PRESS),
hat ¥78,750 (Muhlbauer/test,),
jacket ¥61,950 (MANOUSH/CORONET),
tights stylist's own

tops sample (GLORIA COELHO/dual),
skirt ¥26,250, under skirt ¥24,150
(SAPHIR EAST/ESTEEM PRESS),
leggins ¥8,400 (costume dept/RESTIR),
shoes ¥108,150 (Christian Louboutin/RESTIR)
sunglass ¥52,500 (LINDA FARROW/test,)





bustier ¥236,250 (Thierry Mugler/RESTIR),
blouse ¥55,650 *pants* ¥51,450
(GLORIA COELHO/dual),
hair accessory ¥92,400 (DRESSCAMP)





dress ¥207,900, *corsage* ¥12,600 (DRESSCAMP),
tops ¥27,300 (SOMARTA/ESTEEM PRESS)
gloves ¥8,400 (TANY/ESTEEM PRESS),
hat ¥60,375 (Stephen Jones/test,)

FUTURISTIC PARTYING in TOKYO
Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: KEI SHIRAHATA (LOVABLE)
Hair: ABE (FAMME)
Make-up: KAZUKO HAYASAKA (FAMME)
Model: KIKO MIZUHARA



Anna Sui × Anne

M

MIKA'S BELLE EPOQUE

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: KUMI SAITO (SIGNO)
Hair: Koichi Nishimura (angle)
Make: Rie Sekine (FEMME)
Model: ANNE
Retoucher: TOMOKO INOUE (IINO GRAPHIC IMAGES)



outer ¥38,850, dress ¥82,950
release on mid-Oct, tights ¥3,150
all (ANNA SUI/ISETAN SHINJUKU),
boots ¥60,900
(ANNA SUI/ANNA SUI OMOTESANDO)
others stylist's own

blouse sample
(ANNA SUI/ANNA SUI SHOWROOM)
others stylist's own





dress ¥68,250 release on mid-Oct,
boots sample
(ANNA SUI/ANNA SUI SHOWROOM)
others stylist's own



dress ¥69,300, tights ¥1,365, both
(ANNA SUI/ISETAN SHINJUKU)
shoes sample
(ANNA SUI/ANNA SUI SHOWROOM)
others stylist's own





blouse ¥46,200 *release on mid-Oct*
(ANNA SUI/ANNA SUI OMOTESANDO)
skirt ¥45,150 *release on mid-Oct, tights* ¥3,150
both (ANNA SUI/ISETAN SHINJUKU)
others stylist's own



jacket ¥87,150, skirt ¥51,450
all (ANNA SUI/ANNA SUI OMOTESANDO)
others stylist's own

Let's Enjoy

NEO '80s

キラキラでパワフルな80年代にフラッシュバック

"Ewoooo"ってテンションをあげたくなるくらい、キラキラなファッションに包まれたい気分。そう、これがfeeling '80s! マイケル・ジャクソンのラメスタッズジャケットやハット、マドンナのレースのレイヤードに大きなハット、アクセ、シンディ・ローパーのようなネオンカラーコーデなど、お手本にしたいスタイリングがいっぱい。ちょっぴりセクシーに、大胆にパワフルに今シーズンを楽しみましょう。レディガガやアギネス・ディーン、ケイト・モスらファッションアイコンたちも早速トライしています。でも、今シーズンっぽく'80sアイテムをワンポイント取り入れて★

'80s Star

King Of Pop Michael Jackson

やっぱり、マイケル・ジャクソンはKING OF POP! 彼の存在感は、トレンドを超えて私たちのインスピレーション。華やかなラメやスパンコール使いは、今シーズン取り入れたいスタイルアイコン



©aflo



©aflo

NEO '80s ICON

KATE MOSS



'80s Music

Thriller

「Thriller」は全世界で1億400万枚を売り上げたモンスターアルバム。14分のミュージックビデオでは、多くのダンサーを従えたパフォーマンス、特殊効果
り込まれた



'80s Movie

Flashdance

1983年公開、プロダンサーを目指す女性のサクセスストーリーを軸にした青春映画。主演のジェニファー・ビールズのフレッシュさが話題となった80年代を代表するシンデレラムービー





©aflo



'80s Animation

Creamy Mami

1983年～84年まで日本テレビ系列で放送されたテレビアニメ。クリィミーマミのレオタード風ドレスなど、80年代当時のトレンドを取り入れた作品としても評価が高い

NEO '80s ICON LADY GAGA





'80s Movie

Cocktail

1988年公開したトム・クルーズ主演のアイドルムービー。とにかく、'80sを代表するイケメン、トム様の華麗なバーテンダー姿がかっこいいんです!

'80s Star

Queen Of Pop Madonna

84年にリリースした「Like a Virgin」は、彼女を世界的なスターダムにのしあげただけでなく、ファッションアイコンとしても存在感を示すことに



©aflo

'80s Music

Like a virgin

84年に発売後、全世界で400万枚を売り上げた。そのときのレースのビスチェドレス、クロスのネックレスのファッションも話題に。





ルミネで恋した '80s QUEEN

Rock'n Rouge by Angelababy

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Prop stylist: SAKURA (Lucky Star)
Stylist: ERI SOYAMA (Commune)
Hair&Make up: OSSAMU (image)
Model: Angelababy



ライダースでやんちゃなガールズロック

今冬もマストハブのライダースを女らしいキラキラトップスと合わせて甘辛コーデ。ライダースジャケット¥44,100（BEAUTY&YOUTH ビューティ&ユース ユナイテッドアローズ／O·SE·M）、トップス¥7,140、ネックレス¥3,990（共にスカーティッシュ／S）、タンクトップ¥11,550（エディション／S）、デニムパンツ¥16,590（スライ／SE·T）、ストール¥18,900（Des Kudibal／アダム エ ロペ／K·S·T·Y·M）、リボンネックレス¥3,990（n°11【11月上旬オープン】／S）、コインネックレス¥5,720（BEAUTY&YOUTH／ビューティ&ユース ユナイテッドアローズ／O·SE·M）、グローブ¥16,800（ALDO E IVO PORTOLANO／ユナイテッドアローズ／O·S·T·Y）、2連スタッズベルト¥5,040（アナザーエディション／O·SE·T·I）、デニムにつけたスパンコールバッジ（3つセット）¥3,990、スマイル&トリコロールバッジ¥1,260（共にアダム エ ロペ／K·S·T·Y·M·I）、パンプス／参考商品／カリアング）



モードな装飾が放つ、ナポレオンJKのオシャレオーラ

タイトなシルエットと印象的な装飾が女性らしい、ミリタリースタイルの新顔。ナポレオンジャケット¥17,640（アナザーエディション／O·SE·T·I）、トップス¥11,550（Khaju／シップス ジェットブルー／SE）、スカート¥55,650（Sheri Bodell／ナイン／S）、ベレー帽¥6,880（KariAng／カリアング／S）、フリンジピアス¥4,200（GOVIL）、タイツ¥2,940（SLY／共にスライ／SE·T）、ビジューネックレス¥22,050（WHAM GLAM／ルシェルブルー／Y）、ビーズネックレス¥8,400（CITRUS）、バッグ¥10,290（Quelle Chance／共にアダム エ ロペ／K·S·T·Y·M）、グローブ¥8,190（ANTONIO MUROLO／n°44／S·Y）、ベルト¥9,240（SLY／SE·T）



情熱のバラはちょっとハードに そしてタフに

女度が上がる艶やかな赤いバラは、人を輝かせるパワーが。スタッズ使いでちょっとハードに。ワンピース¥11,550（MOTEL／ローズ　バッド　SE・Y）、スタッズベスト¥13,650（クルーン　ア　ソング／S）、カチューシャ¥9,975（グレースコンチネンタル　O・S・Y）、ピアス¥14,175（DOUBLE STANDARD CLOTHING accessoire　ダブルスタンダードクロージング／S）、パールネックレス¥3,990（スカーティッシュ／S）、ベルト¥7,140（KariAng／カリアング／S）


スパンコールをデイリーに
カジュアルダウンする方法



キラキラ&メタリックを味方につけて。

'80sの代名詞、キラキラ&メタリックをコーディネートに加えて、インパクト勝負でPOP QUEENに。ライダースジャケット¥49,350（アダム エ ロペ／K·S·T·Y·M·I）、フリルキャミソール¥18,900（ナイン／S）、スカート¥15,750、クラッチバッグ¥8,190（共にKariAng／カリアング／S）、バッグにつけたストール¥3,045（CODELLO）、レギンス¥4,095（ROSE BUD／共にローズ バッド／SE·Y）、ネックレス¥21,000（DOUBLE STANDARD CLOTHING accessoire／ダブルスタンダードクロージング／S）、スニーカー¥23,100（ディーゼル／SE）、ピアス／スタイリスト私物



ヴィヴィッドカラーでつくる
リュクスなグリッターROCK

ネンタル／S）（グレースコンチネンタル／O·Y）、ベルト¥5,145（JENEVIEVE je／グリーン アソング／S）、ブレス¥5,250（GOVIL／スライ／SE·T）、チュールグローブ¥5,880（DOUBLE STANDARD CLOTHING accessoire／ダブルスタンダードクロージング／S）、バッグ¥8,925（CROLLA／アクアガール／O·K·S·T·Y·M）、パンプス¥13,440（ダイアナ／O·K·SE·T·Y、ダイアナ トータル ルック／S）、ソックス／スタイリスト私物



ゴージャスファーで
スターのオーラを纏って

この秋冬はインパクト勝負に。このGOOD PRICEならデイリーユースに。ファーコート¥30,450、(ENCHANTEMENT...?/ルシェルブルー/Y)、ブラウス¥14,490、パンツ¥13,440(共にFREE'S PHRASE/フリーズ ショップ/O・K・S・T・M、インタースケープ フリーズショップ/Y)、ハット¥5,460(ICAS/ローズ バッド/SE・Y)、グローブ¥10,500、ベルト¥14,700(共にFlammeum/クルーン アソング/S)、パールネックレス¥12,600(DOUBLE STANDARD CLOTHING accessoire/ダブルスタンダードクロージング/S)、ポーチ¥19,950(アンテプリマ・ミスト/K・S・Y)





ガーリーワンピには小物使いでロックスピリットをオン

インパクトレギンスには、あえてガーリーアイテムをミックスして甘辛コーデの完成。サテンワンピース¥27,300、レギンス¥9,975(共にナイン/S)、カチューシャ¥3,150、パールブレスレット¥2,100(共にアナザーエディション/O·SE·T·I)、ピアス¥12,600(DIAGRAM/ダイアグラム グレースコンチネンタル/S)、パールネックレス¥19,950(グレースコンチネンタル/O·Y)、チェーンネックレス¥29,400(ACB/エディション/S)、チュチュスカート¥12,600(スライ/SE·T)、グローブ¥13,650(DOUBLE STANDARD CLOTHING accessoire/ダブルスタンダードクロージング/S)、ベルト¥3,150(JILL by JILLSTUART SELECT/ジル by ジルスチュアート/SE、ハウス オブ ジルスチュアート/K)、リボンポーチ¥19,950(アンテプリマ・ミスト/K·S·Y)



迫力のファー、レオパードで魅せる圧倒的な存在感

格段と女度アップのファー。今年はレオパード柄でスタイリングにさらなる魔性と品格を。レオパードボレロ¥47,250(ザイン/S)、ブラウス¥12,600(KariAng/カリアング/S)、ベスト¥25,200(BACCA)、スカート¥15,750(OKIRAKU)、ネックレス¥33,600(ACB 全てエディション/S)、ベルト¥5,250(JILL by JILLSTUART SELECT ジル by ジルスチュアート/SE、ハウス オブ ジルスチュアート/K)、タイツ¥2,940(スライ/SE・T)ヘッドアクセ/スタイリスト私物



ミリタリースタイル[illegible]
新 ジャケット[illegible]

ゴールドボタン[illegible]のミリタリースタイルは[illegible]ジャケット¥22,050（JENEVIEVE je クルーシアンング S）、ブラウス¥12,600（シップス O-M）、（シップス リトルブラック S）レギンス¥12,600（Oppure シャンデリエ S）、ジャケットにつけたブローチ¥6,300（GOVIL スライ SE-T）、ピアス¥5,085（GRACE CONTINENTAL）、グローブ¥16,800（Gloves 共にグレースコンチネンタル O-S-Y）、ストール¥8,295（[illegible]ーズ バッド SE-[illegible]）

'80s QUEEN

☆編集後記☆

M girl×LUMINE×Angelababy スペシャルシューティング

今回の撮影は、セットを組んでのスタジオ撮影。
キラキラグリッターな、'80s気分満載のカラフルスタジオにテンションもアゲアゲ!
メイクアップ、スタジオセッティングから撮影終了まで現場の様子をレポートしちゃいます。

Photography: UcCHI (Lucky Star)

Hair&Make up スタート!

'80s気分でメイク心も刺激?! OSSAMUさんの手にかかれば、あっという間に'80sQUEENの完成。



肌に立体感を持たせてくれるパウダー

印象を劇的に変えるアイラッシュ

インパクトある美しさを放つ赤のLIP



今回のテーマはThe '80s☆メイクもスタイリングも'80sな気分で。クールでハイファッションなコスメで、メイクアップ。ドラマティックでセクシーなベイビーちゃんが完成♡

LUMINE NEWS!!

ハイセンスでクールな『M・A・C』この秋ルミネに待望のデビュー

2009年10月15日 数量限定発売!!

セクシーでハイファッションなコスメブランド「M・A・C」が、ルミネ新宿店(ルミネ2・2F)にOPEN!! 今秋コラボレーションしたのが、「DSquared2」。グレイッシュなトーンが印象的な大人の世界へといざなうコラボ商品は10月15日(木)から数量限定発売。今シーズンは、ドラマティックな目元にピュアな口元のコントラストが際立つメイクで、イメージチェンジしてみて!!

1.ヌードローズでピュアな唇をつくって♡ ¥2,940 2.リップコンディショナーを重ねてよりドラマティックな唇に ¥1,890 3.強い発色のアイカラーで目元にツヤ感を 各¥2,940





商品問い合わせ先
O：ルミネ大宮店 048-645-1411(代)
K：ルミネ北千住店 03-3888-7552(代)
S：ルミネ新宿店 03-3348-5211(代)
SE：ルミネエスト新宿店 03-5269-1111(代)
T：ルミネ立川店 042-527-1411(代)
Y：ルミネ横浜店 045-453-3511(代)
M：ルミネ町田店 042-739-3111(代)
I：ルミネweb shop i LUMINE
http://i.lumine.jp(PC)
http://mi.lumine.jp(Mobile)

'80s漂うセッティング

**蘇ったパワフルな時代に
タイムスリップしちゃった!?**



最先端のファッション、激しい恋愛。誰も強い印象を残すメイク。その時代にあったのは自由な発想と遊び心。転がるミラーボールに、カラフルな電球、キラキラのスパンコールカーテン。スタジオは一気に華やかな夢の世界へタイムスリップ!!

撮影本番!!

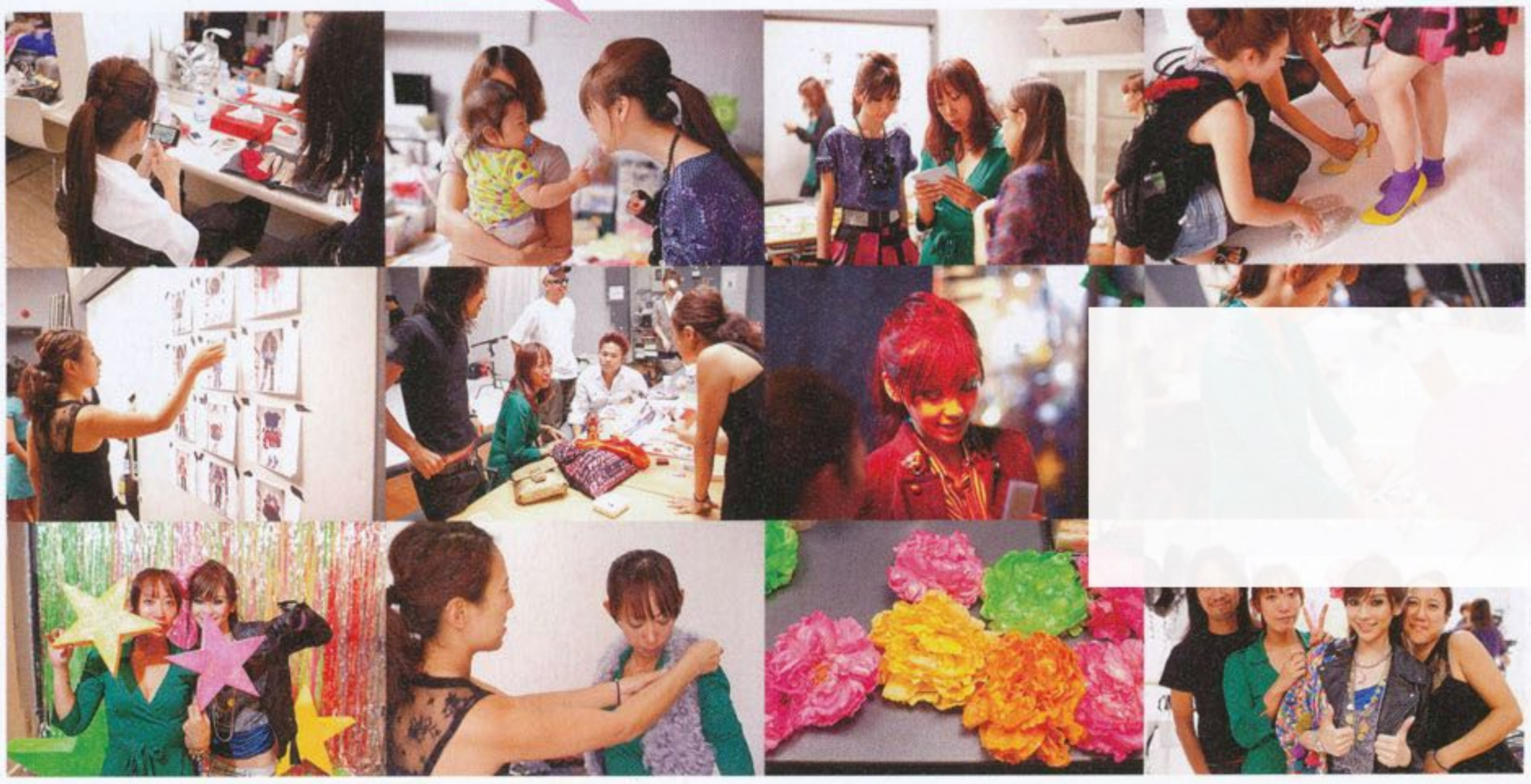
**セットに負けないテンションで、
いざ撮影開始!!**




今回の撮影が初対面となった、蜷川さんとベイビーちゃん。軽快なシャッター音と共に、スタイリングに合わせたポージングで、色んな表情を魅せる、とにかくキュートなベイビーちゃんにスタッフみんな釘付け♡

撮影中のオフショット

**緊張がほぐれる撮影の合間は、
ほっこりモード♡**



SAKURAさんのお子さんと遊んだり、かわいいコーディネートにお買い物心くすぐられたり、恋愛トークに花が咲いたり。最後にスタッフみんなで記念撮影!お疲れ様でした!!




Barbie™
50™
FIFTIETH
ANNIVERSAR
M grl
SPECIAL ISSUE



one-piece ¥8,400 (Barbie)
necklace ¥15,540 *hat with bijoux* ¥29,400 (CABARET)
others stylist's own

Japanese Barbie in Fancy House

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: KUMI SAITO (SHIGNO)
Hair&Make-up: HIROKI MUROOKA (Theree Peace)
Model: HINANO YOSHIKAWA





one-piece ¥*7,875* (Barbie)
hat ¥*26,040* (Rosy-Baroque)
others stylist's own

t-shirt ¥5,250 jacket ¥10,500
pants ¥7,350 bag ¥6,300
leggings ¥3,675 (Barbie)
others stylist's own




Barbie
50
FIFTIETH
ANNIVERSARY



stoll ¥3,675 *skirt* ¥6,825 *necklace* ¥3,675
bracelet ¥4,200 *belt* ¥4,935 (Barbie)
head dress ¥3,990 (The Merchant of VENICE)



t-shirt ¥4,200 skirt ¥6,300
leggings ¥2,940 suspenders ¥1,995 (Barbie)
head dress ¥17,640 (Rosy-Baroque)
others stylist's own



one-piece with studded ¥9,975
doll sample (Barbie)
head dress purple ¥12,600 *pink* ¥29,400
led ¥12,600 (The Merchant of VENICE)


Barbie
50
FIFTIETH
ANNIVERSARY
蝴蝶网
hudie.com



one-piece with studded ¥9,975
doll sample (Barbie)
head dress purple ¥12,600 pink ¥29,400
led ¥12,600 (The Merchant of VENICE)



t-shirt ¥4,200 skirt ¥6,300
belts ¥3,675 (Barbie)
head dress ¥15,540 (Rosy-Baroque)
others stylist's own



one-piece ¥8,925
hat with ribbon
sample color ¥3,675 (Barbie)
others stylist's own

Barbie 50 FIFTIETH ANNIVERSARY

Barbie's INTERVIEW

蜷川実花(以下、蜷川): ほしのさん、何でそんなに可愛いんですか?(笑)

ほしのあき(以下、ほしの): みんなが可愛くしてくれるんです♪(笑)

蜷川: もー、登場したときから可愛かった。やっぱりいろいろケアしてるんですよね? 体型もすごくきれいだし。

ほしの: もともと骨格がちっちゃいっていうのもあるんですけど、でも30越えてからは、ちゃんとしないとゆるむ一方だなと思って、トレーニングしてます。

蜷川: 今おいくつなんですか?

ほしの: もう32なんです。

蜷川: 見えない〜っ! お食事も気をつけてるんですか?

ほしの: 食事はそこまで気を使ってはいなくて、時間の空いた時にちょっとつまんだりとか。

蜷川: 仕事してたらそんなに厳密にできないもんね。いやぁ、ポーズもすごいきれいだったーーー。やっぱりほしのさんは番長だった!

ほしの: ありがとうございます!

蜷川: ほんと、おっぱいっていいなって思った(笑)。私男子だったら、絶対におっぱい狂だったと思う。"おっぱい"って名前も可愛いし。ピッタリだなって思っちゃう(笑)。

ほしの: 私も、実花さんに撮ってもらってすごい嬉しかったです。実花さんの世界観がほんとに好きなんですよ。女の子なら絶対好きじゃないですか。こういう可愛い空間の中で撮影って、グラビアだとなかったので。女の子女の子してる方が自分的にはすごく好きだから嬉しい。しょこたんの写真集撮っていらしたじゃないですか。うらやましいなぁと思ってたんです。でもしょこたんだから、ああいうのも出せるのかなぁと思って。

蜷川: ほしのさんだったら、私いっくらでも思いつく!!

ほしの: えーほんとですか!?

蜷川: 営業していいですか(笑)!? ぜひまたやりたい!

ほしの: 私も! なんか、女性に見てもらうグラビアっていうのをやりたくて。やっぱグラビアの写真集の撮影ってなると、スタジオでもロケとかでも、95%は男性目線で撮られるし。でも私、女性にも見てもらいたいっていう思いがあるんです。

蜷川: ほしのさんのこと、女の子は好きなんじゃない?

ほしの: でもやっぱ、写真集って買いづらいじゃないですか。だから実花さんみたいなこういう世界でできたら……。

蜷川: グラビア! っていう感じの写真集だと、確かにちょっと買いづらいよねー。

ほしの: 衣装がグラビアでも、世界観が女の子らしかったらそういう人にも見てもらえるのかなぁと思って。

蜷川: みんなやっぱり、キレイな女の人の体もすっごく見たいし、なんて言うんだろう、女の人って、女の人にすごく興味あるんだなってつくづく思うんですよ。

ほしの: ありますよね? きっと。

蜷川: えー、やろうよーーーー(笑)!! 絶対みんな見たいし知りたいと思う。だってもう、今日、超感動だったもん。

ほしの: いろんな人にも見てもらいたいから、ぜひ! 男性誌では見せたくない部分とかも、女性に向けてだったら、もっと露出しても、いやらしくないかなっていうのがあって。

蜷川: じゃあその時にいっぱい秘密を聞こうかな(笑)。プロ意識とか日頃の鍛錬とか……。

ほしの: でも私、若い時に家が厳しかったから、今頃になっていい成果が出てるのかなと思ってます。夜遊びとかさせてもらえなかったし。でも20代はスゴい焼いてたし、グラビアの撮影も多かったから、10年後は絶対シミだらけだと思うんですよね……。だから、今から40代に向けていろいろやっていかなきゃと思ってるところ。

蜷川: やばいよー、私なんて、毎その日暮らしだよ(笑)。全然そばかすもないですもんね。

ほしの: いや、濃くなったんですよ。中から全部出すようなやつに2年かけてちゃんと通って、そしたらメイクさんに「コンシーラーいらなくなったね」って言われるくらいになってきたんで。

蜷川: だって今日、登場シーン印象的だったもん。すっぴんなのに。私もすっぴんだったけど(笑)。ほしのせんせーい、もうどうにかしてください(笑)。

ほしの: まかせてください! 私ができることは全部(笑)。

蜷川: こうやってお話ししてても素敵だけど、撮られてる時のオーラはやっぱしNo.1! っていうか、すごかったなあ。

ほしの: ありがとうございます。今日はヘアメイクも新鮮でした。今日、なんでこんなに手がブルブルするんだろう? って思ったら、頭が重いからその分手でおさえてるんだって気づいたんですよ(笑)。首を曲げると折れるんじゃないかと思いましたもん(笑)。

蜷川: 史上初の盛りっぷり。アゲ嬢なんて吹き飛ばす盛り具合だったよ(笑)。ねえ、お休みの日とかは何してるんですか?

ほしの: あずき(愛犬)と一緒に公園に行ったりとか。でも今は、週一回はお休みをとるようにして、自分の時間を大切にしようかなと思って。

蜷川: じゃあ、あずきちゃんとお散歩行く時、うちの息子も一緒にお散歩しようよ(笑)。

ほしの: 行きましょう!

蜷川: だいぶ騒がしいですけど、うちの(笑)。

ほしの: いや、あずきもなんです(笑)。

蜷川: すっごい可愛いよねー。でもほんとに女の子っぽいものが好きなんですね。超バービーな感じ。スタイルにしても、世界観にしても。

ほしの: ほんとですか? バービー人形は自分の中の理想像。ああいう体になれたらいいなってずっと思ってますよ。お家にもいくつか飾ってあったりとか、バービーさんからお洋服いただいたりもしてて。女の子なら絶対憧れるボディですよね。

蜷川: うんうん。じゃあ次は本当に、写真集を、女性向けのグラビアをね。

ほしの: ほんと、上の人に言ってみる(笑)。次の写真集の時はぜひぜひ!

蜷川: 今日はありがとうございました。朝から幸せでした〜(笑)。

ほしの: あきも幸せです♪ ありがとうございました!

ほしのあき　タレント。1977年3月14日生まれ。東京都出身。高校時代にティーンズ雑誌「プチセブン」(集英社)の専属モデルとして活動。24歳の時からグラビア活動をスタートさせる。現在はバラエティ番組、CM、舞台などでも幅広く活躍中。DVD「初恋」、「ほしのあき2010年カレンダー」(TRY-X)が絶賛発売中。レギュラー番組に「みんなのケイバ」(フジテレビ)などがある。





ほしのあき

AKI HOSHINO



藤田志穂

SHIHO FUJITA



藤田志穂（以下、藤田）：　最初バービーって聞いた時、私そういう可愛いキャラじゃないからどうなるんだろうと思ってたんです。でも、すごい新鮮だったし楽しかった～！　タータンチェックとか、中に着たフリフリのレースとか、アイテムそれぞれはすっごい可愛い感じなのに、コーディネイトするとカッコよくなったのでビックリでした。特に最近は農作業とかでもっぱら外に出て、アクティブに過ごしていたので、新鮮さもひとしおでしたね。

蜷川実花（以下、蜷川）：　そっかぁ。週一で田んぼ行ってるの？

藤田：　今は静岡の畑に行ったりとか。来月は稲刈りです。

蜷川：　へぇー。作ってみると違うでしょ？　やっぱり。

藤田：　なんか、野菜とか食べ物の違いっていうのがわかるようになったかも。食べることがすごく好きなんですけど、今までは食べることに対してそこまで考えなかったのが「旬のものを食べたい」とか、「こういう体調だからこういうもの食べよう」とかって考えるようになりました。

蜷川：　藤田さんは、すごく元気で前向きな、ポジティブな人なんだなーっていう感じがしたな。ちょっとの時間だったけど、やっぱりパワフルだね。

藤田：　私も前から蜷川さんとお話してみたかったんです。女の人でバリバリやってる人って、すごいなぁって。

蜷川：　楽しいからできるんだけどね。農業の仕事だって大変じゃない？

藤田：　収穫とかはすごく華があるんですが、それまでの作業はすっごく地味なんですよね（笑）。午前中ずっと雑草とりですよ。夏とか「黒くなったね―！　海とかどっか行ったの？」って言われて、海もプールも一回も行ってませんけど……みたいな（笑）。昨日なんて海が恋しすぎて、あれ買っちゃいましたから。部屋にライトを当てると、波が映し出されるやつ。

蜷川：　あははは（笑）。ねえ、ところでギャルの定義って、そもそも何なのかな。

藤田：　ギャルの定義は、いろいろなギャルの種類が出てきたことによって、もはやなくなったんじゃないかって思うんです。つーちゃん（益若つばささん）を見てギャルって言う人もいれば、ギャルじゃないって言う人もいると思うし、外見での判断は難しいのかなって。でも、内面的な気持ちは変わってないと思うんです。例えば、みんなすごく一途だったり、新しいものにも敏感だったり。あと仲間意識が強いですね。そういう部分は、多分昔からギャルの中では変わってはないと思うんです。

蜷川：　なるほどね～。ギャルって、基本は体育会系なんだよね？　思考は。

藤田：　そう、先輩後輩とかも厳しいし、挨拶しなかったらダメみたいな。だからほんとヤンキーみたい。ギャルのサークルには「何代目代表」ってあったりするぐらいだし、引退式とかもやるんですよ。

蜷川：　ヤンキーだよね、それ（笑）。

藤田：　あと、ある意味オタクとも紙一重だと思う。私たちは興味のあることがメイクやファッションだっただけで、それがもし人形とかアニメだったら、オタクって呼ばれてたと思う。内面は似てるんですよね。好きなものに対して、一途になっちゃうみたいなとことか。

蜷川：　ギャルはやっぱりおしゃれが好きなの？

藤田：　基本は好きですよ。そういうところから入る子も多いと思います。あと、人とかぶりたくないとか。昔はアルバを来てればギャルだったから、とりあえずアルバの洋服を着るみたいな感じだったけど、今は「どこで買ったの？」って言われる方がおしゃれって感じですよね。









蜷川: [illegible]

藤田: [illegible]古着とかも流行ったんだと思うんです。マルキューの新しいものと古着とを組合わせる、「[illegible]ミックス」みたいな。

蜷川: [illegible]世界って「すごく閉じてるっていうか、狭い世界なんだね。だって古着は昔からあるじゃない? ギャルじゃないところからしたらさ、古着は当たり前なわけじゃん(笑)。まあたぶん、分母はすごく大きいんだけど、ものすごく閉じた世界なんだね。

藤田: そうですね。で、流行のスピードがものすごく速い(笑)。

蜷川: ダメになるのも速いの?

藤田: そうですね、なくなるのも全然速いし。例えば社長をやってた時にマルキューのブランドもプロデュースさせてもらっていたんですけど、流行が2週間おきみたいな感覚でしたね。それに、私たちの中で流行るものは、雑誌に出た時にはもう売り切れてるんですよ。だから、雑誌に自分の買ったものが出ているのを見て「あ、やっぱ間違いじゃなかったんだ」みたいに思います。

蜷川: なるほどねー。そういえばなんで社長辞めちゃったの?

藤田: もともと最終目標が社長というわけじゃなくて、ギャルでも出来ることを証明したい、大人を見返したい、みたいな気持ちから始まったんです。その頃バイト先で「仕事できなそう」って言われたりして。すごく単純だったんですが「じゃあ会社作っちゃえば世の中の人はビックリするし、ギャルの子でも働ける場所ができるんじゃないか」って思って社長に行き着いたんですよ。で、4年間やって、今まで無かったギャルマーケティングっていう事業がある意味ひとつの形になったのかなぁって考えたんですね。

蜷川: なんかすごい、しっかりしたビジネスをしてるよね。

藤田: 一緒にやってくれる子とかが年上でしっかりしてて、私が興味があったり、ギャル革命を通して伝えたいことをもっと伸ばして行こうって背中を押してくれたんです。エコの活動をしてく中で、大人と若い人の架け橋みたいなことが今の自分に一番合ってるのかなって思うようになりました。それで、伝えていくのをメインにしたいと思った時、やっぱり社長っていうポジションは責任も大きくて……。私の一言で会社や社員のみんなに迷惑がかかっちゃうと思ったんです。

蜷川: まぁ社長が目的じゃなかったら、より合理的に動けるほうがいいもんね。

藤田: すごく考えて悩んだんですけど、まわりの人には「せっかく社長になったのによくそんなにパッと辞められたね」って言われますね(笑)。

蜷川: でもこだわりはないでしょ? 権威主義というか。

藤田: そうですね。でも、自分が言ったことが何か形になるのは楽しかったです。

「Mgirl」編集部(以下、M): 藤田さんは、若い子たちだけじゃなくて、大人からの支持も多いって聞きました。

藤田: 私ブログとかでもコメント多いのは結構年上の人で、「実はやりたいことがあったんだけど自分はできなくて、違った道を……」みたいな。「だから自分も新しくチャレンジしてみます」ってコメントが多かったですね。サラリーマンみたいな人とか。大人の人にわかってもらうことが目標だったから嬉しかったです。始めたばかりの時は、「オメーなんかにできねーよ」みたいによく言われて。でも私の場合、応援もすごい嬉しいけど、叩かれたりして悔しい思いをした方がバネになるっていうか。負けず嫌いだから。

蜷川: 私もそう。ちょっと言われた嫌なことをすんごい大事に育てます(笑)。

一同: あはははは(笑)。

蜷川: アートの世界もいろいろあってね。大衆的に、みんなに人気があることはダサい、みたいなのがあって。俺らだけが知ってることこそ高尚だ、みたいな。まぁ現代アートの世界にもあるんだけど。その人たちに、「蜷川さんはコマーシャルの人だからね」って言われたのが超～ムカついて。「ゼッタイ見返す! やってくださいって言わせる!」と思った(笑)。

藤田: あはははは(笑)。そう、見返したいんですよね。

蜷川: そうそう。見返したいっていう言葉は激しいかもしれないけど、すごく重要なことだと思うんだよね。藤田さん、憧れの人とかはいる?

藤田: 芸能人でいうと……どうなんだろう、みんな尊敬するし。あとはまぁ、ありきたりだけど親かも。私の前でケンカしたことないんですよ。

蜷川: そっかぁ。いい子なんだね。なんか社会全体が、いい子に向かっていってる気がする(笑)。ちゃんとすることがカッコいいっていうことでしょ?

藤田: そうですね。でも見た目はこうだよ? みたいな。

蜷川: でも本来、外見と内面のスキルは関係ないからね。

藤田: そういうのもわかってほしいし、そういう風に大人の世界でも通用するのがカッコいいって考える子が増えましたよね。

M: そもそもなんで農業にいこうと思ったんでしたっけ?

藤田: 社長をやってる中で、「このままでいいのか、自分?」みたいなことを自分の中で思っていて。あと、会社始めてすぐにエコとか食育を勉強しながら、いろんな人から話聞いたりして。去年ニュースで餃子事件とかあったじゃないですか。あれ、実家の近くのスーパーだったんですよ。そういうのも、「ヤベーんだな」って気にするようになって。だから、今こそ若い子のパワーが必要なんじゃないかなって思ったんです。自分自身も、大人から教えてもらったことを若い人たちに伝えていきたいと思ったし。自分が仕事するまで、そういうことってなかなか気つかなかったですよね。大人は私たちの話を聞いてくれないし、大人は大人でどうせこいつら聞かないだろ、って思ってましたし。
でもいろいろな人と接してみて、良いことや知っといた方がいい事って沢山あるんだなって思いました。

蜷川: 最終的にはみんな大人になっていくしね(笑)。なんか、そこで分断されちゃうのはほんとにもったいないんですよね。私も、大人に対して「バカじゃない?」って思ってた、ずっと(笑)。でもね、「最近の若い者は」って、平安時代の人も言ってたんだって。だからね、人間の本能みたいなものだと思う(笑)。

藤田: 言いたくなっちゃうみたいな(笑)。

蜷川: それを踏まえて、ちょっとでもお互いが歩み寄ればいいんだけどね(笑)。いや～なんか、今日の感想は「みんないい子だなぁ～」っていう感じ(笑)。もうちょっとお話したかったなぁ。

藤田: 私も、もっとお話したかったです。

蜷川: ありがとね～!

藤田志穂 [illegible]年[illegible]月[illegible]日生まれ。千葉県出身。[illegible]「ギャル革命」を思い立ち、[illegible]。ギャルに特化した[illegible]イベント企画や講演会など[illegible]。エコ運動や[illegible]に[illegible]を行っている。http://ameblo.jp/[illegible]



益若つばさ（以下、益若）： 今日の撮影、すごく楽しかったです。世界観が可愛かった。

蜷川： よかったー。やっぱり、自分の顔をよく知り尽くしている気がしました。あと、可愛くいることに対する美容意識が高いよね。ライン1個でも全然顔って変わるんでしょ？ そういうのって、研究するの？

益若： 研究しますね。してるつもりはないんですけど、知らない間にたぶんしてる（笑）。好きだから、どんどん調べてる。

蜷川： さっき、バービー人形とかを参考にするって言ってたじゃない？ まつ毛の感じとかってこと？

益若： そう、まつ毛の感じとかシャドーとか。撮影の雰囲気っていうか、自分がお人形っぽい撮影をしたい時への提案とか、こういう色合いだとドールっぽくなるんだとか、雰囲気を見ます。

蜷川： そういうところから、自分の美意識っていうか、こういうのがいいなあっていう軸があるわけじゃない。益若さん、いろんなプロデュースをしてたりするじゃん？ そういうのはどういうところから拾ってくるの？ 街の中から自分の好きなものをピックアップしてくるの？

益若： 結構そうですね。基本的に、流行とかは一切考えないで作ってます。自分がその時ピンクが好きだったら、ピンク多くなっちゃうし。そういう感じで、一番自分が「欲しい」「可愛い」って思うものを作ってますね。バービーとか写真集見たりとか、あとは外国行った時に、看板とかの写真いっぱい撮ってます。

蜷川： そういうのはもう、じゃあ、ホントに感覚的なこと？ そういうことよく聞かれない？

益若： 「なんで、そんなに（アイディアが）出てくるの？」って言われるんですけど、当日まで何も考えてないんですよ。打ち合わせの場で今まであったものを見せてもらって、そしたら、知らない間にもう口から出てくるみたいな（笑）。

蜷川： 今の女の子たちって、なんかこう、雑誌とかみてもそうなんだけど、「これがマストハブだ」とか、「こういう格好しなきゃ」とか、そういうのがあるじゃない？

益若： ありますね。

蜷川： で、たぶん益若さんに憧れる人もさ、益若さんみたいになりたいっていう気持ちがあると思うんだけど。そうじゃなくて、自分がやりたいように、「自分が好きなものが好き」って思ってやってるわけでしょ？

益若： はい。

蜷川： その自信というか、なんで他の情報に踊らされないで、「私はコレだ」っていう風に思えたのかな。

益若： なんだろう。でも最初は流行に乗ってましたよ。

蜷川： そういう時期もあったんだ！

益若： 全然ありましたよ。「似合わなくても流行ってるから着なきゃ」とか。でも私、昔からほんとはお人形っぽいのがずっと好きだったんですよ。周りから「えっ!? お人形？」って言われると思っててずっと言えなくて。で、一度撮影で自分の好きなものを持ってきて、好きな風に撮ってあげるって言われたんです。その時、赤いギンガムチェックとかリボンを持っていって、顔にラメとかつけてキャンディー持って撮ってもらったの。そしたらそれが、その読者のアンケートで1位になったんですよ。

蜷川： 1位になったんだ！

益若： それがすごい嬉しくて。「恥ずかしいって思わずに、もっとやっていいんだ」って思ってからかな。イメージが付いてからはやりやすくなりました（笑）。

蜷川： なるほどねぇ。

益若： 好きなものをどんどん出していいんだ、と思って。

蜷川： なんかさ、「こうしなきゃいけない」っていう恐怖感に満ちた世界だと思うの。自分の好きな格好すればいいじゃない？ だけど、特に日本ってそうだと思うんだけど「こうじゃなきゃいけない」っていうのがすごくあって。でも、そういうきっかけがあったんだね。最初っからそうなわけじゃないのか。

益若： もう全然。最初は人の顔色ばかり伺ってましたよ。でも今は、「変でもいいや」って思えてきて。好きなことしようって。そしたら、あんま流行とかも追わなくなってきて、毎年使えそうな好きなものを集めだしたりとか。そこに、ちょっとトレンドを混ぜたりとか。

蜷川： 安いものでね（笑）！

益若： ですね。古着とかも好きだったけど、雑誌出てた時は封印してたんですよ。「ギャルっぽくないからダメ」、「古着はダサイ」って言われて。

蜷川： へぇ～。

益若： でも雑誌を卒業して、やっぱり好きだと思ってからまた着始めて、TVとか出させてもらうようになったら、「古着おしゃれじゃん」って言ってくれる人がたくさんいて、時代が変わって……。そしたらまた着やすくなって、みたいな。

蜷川： そういうもんなんだねぇ（笑）。たぶん益若さんのようになりたいって憧れている子がほんとに多いと思うんだけど、そういう子たちへのメッセージってある？ 「自分の好きなようにしよう」とか。

益若： そうですね。TPOに合ってないとか、あまりにも自分に合わなくて無理してる感じだったら、それはオススメしないんですけどね。自分がお母さんになった時も、「なんで髪の毛金髪なの？」とか言われたりとか、最初すごいバッシングされてました。

蜷川： あるんだね、そういうの。

益若： でも自分なりに、お母さんになってからはペタンコのものしか履かないし、仕事の時にしかヒールは履かないって決めてるんです。

蜷川： ああ、そうなんだ！ 私、全然普段もヒール履いて抱っこしてるけど（笑）。えらいねぇ。

益若： 私はそれが楽しくてやってて。で、ネイルとかも、結婚してからはスカルプ一切やめました。

蜷川： それ何かに書いてあった！ ラインストーンも使わないんでしょ？

益若： そう。ストーンも3Dもやめて、ジェルのみ。だけど、そこまでしてでもおしゃれはしたかった。周りがどうやって見ようが、自分がしっかりしてれば間違ってないって思うようになって。今は家族とか友達が、つばさはちゃんとしてるよねってわかってくれれば、好きなことしていいんじゃないかなって思って。

蜷川： その通りだと思う。でもたぶんさ、金髪でもいいんだ！とかって、ようは外見の問題なだけで、効率は変わらないじゃない？ 髪が金髪だったらご飯がマズくなるとか、母乳がマズくなるとかだったらしないけど、関係ないわけじゃん？ っていうことが、すごく浸透しているし、たぶん勇気をもらってる人たちもいっぱいいると思うんだけど。

益若： 「妊娠中に髪の毛染めちゃいけないんでしょ？」とかスゴイ言われて。

蜷川： ほんとはいけなくないんだよね？

益若： そう、いけなくないんですよ。だからそれも、自分で調べて美容師さんにも相談して、ブログに書いたりとか。そういう間違った知識が多いから、ちゃんと理解して、みんなで楽しくおしゃれすればいいじゃんって思うんですけど。まだ難しい世の中なので。

蜷川： 偉い！

益若： ホントに（笑）？ 「つばさちゃんだったら好きでも安心だ」って思えるような人にならなきゃ。学校の先生みたいな感覚でみんな見てるんだろうなぁっと思って。一歩間違うと、超真似しちゃうじゃないですか？ 性格とかまで。

蜷川： そうか、リアルにティーンエージャーに人気があるから、実はすっごく責任をしょっちゃうんだねぇ。もっと大人の人たちだったらねぇ、「つばさちゃん好きだけど、でもこうだ」ってわかるだろうけど、結構ダイレクトにいっちゃうんだね。

益若： そうなんですよ。性格とかしゃべり方まで真似する子もいたりして。だからブログの書き方気をつけたりとか、「家族は大切にしようね」とか言ったりすると、皆「ハ



益若つばさ

TSUBASA MASUWAKA

Barbie 50 FIFTIETH ANNIVERSARY

イッ!」って言うこと聞くから、それでみんな良い子になったらいいなぁって思って。

蜷川:　若くして、いろんなものをしょっている(笑)。

益若:　でもそれがきっかけで、お父さんが新聞の切り抜きとかを取っておいてくれたりして、そこで会話が生まれたりするのが結構嬉しくて。

蜷川:　嬉しいよねぇ、それは。

益若:　そうそう。なんか、「テレビ出てるよ」って、お母さんが毎日起こしてるみたい。うちは家族がスゴイ仲良かったから、皆にも仲良くなってほしいって思って。

蜷川:　昔っからそんなに真っ当だったの? こうやって、今こういうビジュアルで「益若つばさちゃんだ」と思ってるからあれだけど、目つぶって話だけ聞くとさ、学校の先生が話しているような……。すごく当たり前で大事なことなんだけど、それを言う人によって全然聞くか聞かないかって、あるよね。

益若:　あはは(笑)。

蜷川:　昔っからそうだったの? それとも、ある影響力を持って?

益若:　自分では思わないんですけど、昔からお母さんには、ずっと真面目って言われてて。レールは外れない子っていつも、言われてました。

蜷川:　超ワルだった時はないんですか(笑)?

益若:　ないですねぇ。髪の毛は金髪とかだったんですけど、学校も行ってたし、生徒会にも入ってました。

蜷川:　へー! 生徒会!?

益若:　学級委員とかやったりしてて。

蜷川:　80年代とかだと、「金髪＝ヤンキー＝悪」みたいなイメージがあるじゃない? たぶんつばさちゃんの親の世代とかモロそうだと思うんだけど。

益若:　そんな感じですね。

蜷川:　でもつばさちゃんの場合はファッションとして可愛いから、好きだから、ってことなんだよね? ジャストファッション? こう、「ムカつくぜ! だから金髪!」みたいな何か反骨精神があるわけじゃないんでしょ?

益若:　ないですね。安室ちゃんが可愛いとか、浜崎あゆみさんが超可愛いみたいな、そういう憧れ。雑誌のモデルさん超可愛い〜と思って、こうなりたいなって最初は思ってやり始めて。ファッションが大好きで。

蜷川:　だとすると、世間に出て行く時に、なんだかんだ大人が多いじゃない? そうするとさっき[illegible]「ギャル＝バカ」みたいに思う人もいるわけじゃん? すっごい[illegible]があるじゃない(笑)?

益若:　言われますよね。

蜷川:　[illegible]っていう風に誤解されることもきっといっぱいあって、嫌な思いもしたでしょ?

益若:　あります。普通に、電車で並んでるだけで舌打ちされたりとか。

蜷川:　でもそれは、可愛い格好がしたいから全然気にならないってこと? 差し引きだとやっぱり自分の美意識を貫きたい?

益若:　一瞬、お母さんになったから私落ち着かなきゃいけないんだって思って、メイクは前より薄くしたんです。だけど薄くても可愛くないとイヤだし、基本地味にはなりたくない(笑)。

蜷川:　それわかる。私の息子も、つばさちゃんのお子さんと年齢が近いんだけど、私は「丸くなりたくない!」って思ってて(笑)。地味になったねとか、お母さんぽくなったねって言われるのもイヤ。もちろん、子供といる時は超お母さんだし、愛情は120パーセントあげてるつもり。仕事をしてたって、すごく可愛がってるから大丈夫! って私も思ってて(笑)。いろいろ悩むじゃない、仕事始める時って。わかるわ〜と思って。やっぱり可愛くいることってものすごく重要?

益若:　最重要です。でも家にいる時はどうでもよくて、もうスウェットにスッピンで、髪の毛一本縛りみたいな(笑)。

蜷川:　スッピン超可愛かったーーー! また全然違って(笑)。

益若:　いやいや(笑)。なんか周りの人に「人気だね」って言われるようになってから、意識がすごい変わりました。今までは普通に、渋谷に週3で遊びに行ったりとか、今どきの子と変わんない生活をしてたんですよ。自分がまわりの人に影響を与えてるっていうのも全然意識してなくて。でも編集長に「渋谷行かないで」みたいなこと言われて、その時はすごいショックでした。「行ったら迷惑がかかるんだよ」とか、「人がたくさん来ちゃって混乱しちゃってケガでもしたらどうすんの?」って言われて。今まで当たり前にしてたことをしたら、周りの人に迷惑をかけるんだと思ってから、外出ないようにしようとか、渋谷は人気の少ない時間に行こうと思うようになりました。頑張れって言われたから頑張ってきたのに、逆に迷惑みたいに言われちゃって……。そこからですね。コラボとかも、最初はなんか名前貸してとかよくあるじゃないですか。

蜷川:　うんうん。

益若:　『益若つばさも使ってるダイエット薬』とかって、勝手に名前使われたりして。「買いました!」とか言われて、買っちゃったんだーって思って。

蜷川:　責任とれないもんね。

益若:　そう、だから「私は使ってません」ってブログに書いたら、その会社の人から怒られて。そっから、コラボとかも異常なまでに口出すようになったかも。

蜷川:　健全だね。

益若:　子供を妊娠する直前くらいにそういうことがあって。で、ちょうど妊娠して、すごい人生に悩んでたんで、やめようと思って一回スパッとやめたんですよ。だからこの仕事は好きだけど、みんなにもう会えないんだなーとか、撮影とかもうないんだなーとか思ってたんです。だけど、それでもお仕事したいって言ってくれる人がいて、「家庭一番でいいよ」って言ってくれたので、やってみようかなと思ってまた始めたのがキッカケです。でも半年前と半年後で、自分の意見が180度変わっちゃったから、復活した時は超バッシングされましたけどね。「ウソツキ!」みたいな。

蜷川:　でもさ、ギャルのコミュニティってすっごい人数はいるんだけど、極地的っていうか、すっごく狭い世界じゃない? だから余計にすごくそういうのがあるんだろうね。なんて言うのかな、もうちょっと広くゆるい環境だとそういう風にならないけど、ダイレクトに影響があるし、「やめるって言ったのになんでよ!」みたいなことがすごくある。すごく大変な、責任のある世界にいるんだね。

益若:　結構責任あるねってよく言われます。

蜷川:　でも直接そういう風に影響を与えられるってすごいし、そしてそれがちゃんとされてるっていうのは素晴らしいことだと思うね。真面目だもん、すごい。

益若:　ありがとうございます。さっき(『Mgirl』の前号に)写ってたのって息子さんですか? 超〜可愛いですね!

蜷川:　そうなの。子どもの話ももっとしたかったな〜。でもすごく面白かった!

益若:　ありがとうございました。

蜷川:　ありがとね〜!

益若つばさ　モデル。1985年10月13日生まれ。東京都出身。雑誌『Popteen』(角川春樹事務所)の読者モデルとして注目を集め、女子中高生から20代前半の女性を中心に、絶大な人気を誇るカリスマモデルとなる。2007年にモデル仲間の梅田直樹と結婚し、翌年には第1子を出産。現在はモデルとして活躍する傍ら、商品プロデュースなども手がけている。





IMALU

イマル



蜷川実花（以下、蜷川）： 大人っぽいですね、IMALUちゃん。色っぽかった!
IMALU： ありがとうございます。嬉しいです、ほんとに。
蜷川： なんかすごい雰囲気があるよね。テレビで観てる感じとまた全然違ったし。
IMALU： イメージと違うってよく言われます。あと想像より小さいって（笑）。
蜷川： 私も第一声は「可愛い～! ちっちゃい～!」だったもん（笑）。なんかやっぱ雰囲気が独特だね。なんで? なんでそんなに落ち着いてるの?
IMALU： でも、はしゃぐ時はちゃんとはしゃぎますよ（笑）。
蜷川： ずっと、芸能界に入りたいと思ってたの?
IMALU： うーん、芸能界に入りたいって思ったっていうよりも、両親共にやってたので、自然と映画だったり音楽だったり、表現することとかエンターテイメントが好きで。
蜷川： そっか、表現者になりたいと思ってたの? っていう聞き方の方が正しいね。
IMALU： 自然に音楽が好きだったり、ファッションが好きだったり、そういうことがつながったのかな。芸能界に入りたくてっていう感じでもなかったですね。気づいたらこうなってた感じで。
蜷川： それはなんとなくわかるんだよなぁ。私も母親が昔女優さんやってて、父も演出家でしょ? 小さい時からよくみんなさぁ、将来の夢は「お花屋さんになりたい」とか「ケーキ屋さんになりたい」とか、「看護婦さんになりたい」とか、そういうのあるじゃない? 私は一回もそう思ったことがなくて、自分が女優さんになるか、絵を描く人になりたいって思ってたんだよね。
IMALU： 私なんか、セーラームーンとかでしたよ。あとペットショップ屋さんとか。蜷川さんは小さい頃からお父さんの舞台とか観てました?
蜷川： うん、すごいちっちゃい頃から観てた。私が小さい時って、母親が稼いできて、父が私の面倒みてたんですよ。で、父親の舞台をやる時も劇場に連れて行かれて、ロビーで遊んで待ってたりとか。だからほんとに物心つく前から観てて、今も必ず観てるから、（IMALUちゃんの）お母様の舞台もいっぱい観てる（笑）。
IMALU： 私も同じ感じです。ロビーで遊んでるっていうの、すごいわかります。
蜷川： IMALUちゃんは「デビューしたんだぁ」って思った時から絶対一回撮りたいし、どっかで会いたいと思ってたから、今日はすごい嬉しい。
IMALU： 私も、蜷川さんに撮っていただけるっていうことで、もうテンションがすごい上がって、衣装も可愛かったし、スタッフの皆さんもほんとにフレンドリーで、すごく楽しかったです。
『Mgirl』編集部（以下、M）： IMALUさんは、バービー人形で遊んだことありましたか?
IMALU： みんなリカちゃん人形をメインで持ってて、バービー持ってる子はちょっとカッコいい、みたいなのがありましたよ。そして私はどっちかっていうと、ゴジラとかで遊んでたかも（笑）。でも、バービーちゃんは髪の毛をいじるのがすごい好きでしたね。ショートカットにしてみたり、髪の毛に色塗っちゃったりとか（笑）。
M： 今日ちょっと緊張してました? マネージャーさんから、IMALUちゃんは落ち着いて見えるけれど、実際はすごい緊張してるって聞いて。
IMALU： 今日はそんなにしなかったんですけど、ほんとはものすごく緊張しいなんですよ。なのに、あんまり緊張してないように見えるらしくて。緊張しすぎてむちゃくちゃ気持ち悪くなったりとか。
蜷川： 私も、撮影がある日はいまだに緊張するかも。でも、その緊張がなくなるっていうのは、よくないことかなって思ったりしてるんだけど。
IMALU： そうですよね。いい感じの緊張感だから。まぁでも、緊張してるように見えないのはいいことだなって思ってます。
蜷川： すごい落ち着いてるな～（笑）。なんて言うのかしら、私全然テレビ見ないんだけど、それでもIMALUちゃんがデビューしたんだなってすぐ知るくらい鮮烈なデビューだったけど。そういう渦中にいるとどんな気分?
IMALU： いやーもう、全然観れなかったですよ。怖くて。前日まで普通に遊んでばっかりの子だったのに、デビューしたら、テレビにガーンって出てて。で、思った以上に反応がおっきかったんですよ。最初とか、自分が画面に映ってるのも変な感じで。怖かったですね、なんか変わっちゃうんじゃないかと思って。
蜷川： 実際はなんか変わった?
IMALU： めちゃくちゃ変わりました。自分自身も生活も。お仕事するのが初めてだったし、去年まで学生でしたから、学校に行って遊びほうけてっていう毎日だったんで、それがいきなりこういう世界に入って、最初の2、3ヶ月はわけわかんないまま過ぎていったっていう感じでした。最初は写真だけしか出なかったんですよ。だからみんなの想像が膨らんで……。トークはさんま譲りか? とか、演技はできるのか? とか。それでなんか、一言ポロっとしゃべるだけで緊張しちゃって。
蜷川： そうだよねぇ～。私、まだお会いしてない時から、この状態じゃすごい緊張するんだろうなぁと思って見てたの。
IMALU： でも、得たものはすごく大きくて。ほんとにまだ5ヶ月なんですけど、周りも自分も変わりました。いい意味で。
蜷川： 良かったね。でもやっぱりね、あれぐらいすごいパワーでいろんなことが一気に押し寄せて来て、それでもそういう風にすごくいい経験でよく変われたって言えるのは、強いんだと思うわ。
IMALU： ありがとうございます。大変だけど、良いことも同じくらいあるんですよ。憧れのバンドのグリーンデイにいきなり会えたりとか。
蜷川： 今は何をしてる時が一番楽しい?
IMALU： ラジオとか、モデルとか連載だったりとか、あと、洋服のデザインとかやらせてもらってて。全部楽しいです、ほんとに。ファッションと音楽関係だったり、MCだったり。ラジオもほんとに好きなことやらせてもらってるので、めちゃくちゃ楽しいです。
蜷川:いいねぇ～。何が一番好きなの?
IMALU： 今はどうでしょうねぇ。アメーバスタジオでインターネットラジオをやってるんですね。番組名が「自由時間」て言うんですよ。ほんとに自由で何でもしていいっていう（笑）。で、私がずっと仕事を一緒にしたかったバンドの方と一緒に出て番組を持ってて。
蜷川： じゃあ、これからさらにしてみたいことは?
IMALU： やっぱり音楽が好きなので、音楽に近づけるような仕事をしたいですね。いろいろ勉強中なんですけど。蜷川さんは何してる時が一番楽しいですか?
蜷川： 私は写真撮ってる時かな。あとは息子とイチャイチャしてる時（笑）。うん、やっぱり写真撮ってる時かなぁ。こうやって現場で元気になっていくんだよね。朝すごい疲れてて、「おはようございまーす……（疲）」みたいに入ってきても、帰る頃には元気になってたり。だから好きなことが仕事になってるって素晴らしいなぁって日々思うんだけど。
IMALU： 心の底から仕事が好きなんですね。写真は小さい頃から常に撮ってたんですか?
蜷川： 写真が好きだっていうよりは、何か作るのが好きで、絵を描いたりとか、コラージュみたいにして遊んだりとか。高校生ぐらいの時からかなぁ、写真がおもしろくなってきたのは。
IMALU： でも、たしかに蜷川さん、「写真家」っていうよりも「作る人」っていう感じがします。写真を撮ってそれをアートとして表現してるってよりも、丸ごと世界観を作ってるみたいな。
蜷川： そうかも。小道具とかも全部
写ってくれればそれでいい（笑）。それ
演したいとかはないの?
IMALU： あんまり、思ったことはな
蜷川： なんかね、「世の中には
た、私女優さんやろうと思わなくて」っ
IMALU： あははははは（笑）。
蜷川： 私はどうせやんなかったけど、同じ土俵にあがんなくて良かったって思う（笑）。
IMALU： でもたぶん、両親と同じことするのってけっこう大変だと思います。
蜷川： そうだよね～! わかるわかる。うちは演劇の家だから、それでやんなかったっていう

のも私はあるかなぁ。なんか違うことがいいなぁ、っていうのをすごく思ってた。すごくビッグなお父さんとお母さんじゃない? そういうことで潰されそうな気分になったりすることはないの?

IMALU: プレッシャーとかですか? 最初はありましたよ。デビューのすぐ後とか。自分は全然普通に何にも気にしないで暮らしてるつもりだったんですけど、親の名前も全然関係ないって思ってて。

蜷川: わかるわ、私もそう思ってた。ははは(笑)。

IMALU: 自分は自分だっていう、"ゴーイング・マイウェイ"みたいなのもあったんですけど、出た瞬間に、やっぱりこんなに両親てすごい人だったんだとか、大きい存在だったんだっていうのにビッタリして。だからプレッシャーもすごく感じて、正直怖かったっていうのもあって。でも今は、好きなことをやらせてもらってるし、そこで抜け出せればいいなぁと思ってます。

蜷川: 私は全然関係ない職種なのに、周りからすっごく言われたの。やれ親がなんとかだからっていう、誹謗中傷みたいなのもすっごく多くて。ずっと嫌だったんだけど、でもまあしょうがないやって思ってて。だけどインタビューとか受けてもむちゃくちゃ親のこととか聞かれるわけ。私の個展に取材で来てるのに、9割が「で、お父様はなんて言われましたか?」って。早くそこから抜けて、"蜷川実花"っていう風に認識して欲しいっていう思いがむちゃくちゃ強かった。でもそれって今になって思うと、すごく早いうちから「じゃあ、私って何なんだろう」とか、「私ってこういうことなんだ」っていうことを考えるキッカケになって、最終的にはすっごくプラスになったなぁと思うの。それだけじゃなくても、状況としても恵まれてるんだけど、気分的にイヤなこともあったりして。私はすごくみっともないくらい反発してた時期があったんだけど、なんて言うんだろう、IMALUちゃんてすごくスマートな感じがするからいいなぁと思って。

IMALU: いや～、私もたまにイラっときたりはします(笑)。同じような質問ばっかりなんで。ほんとに、9割親の名前っていう。「自分て何なんだ?」って考えるキッカケにももちろんなるんですけど、なんだろう、例えば「お母さんとはどういう話をしますか?」とか、「こういう時お父さんはどうしますか? どう思うと思いますか?」とか……。

蜷川: 親に聞いてくれよ! ってなるよね(笑)。

IMALU: 「お父さんが怒ったらなんて言いますか?」とか普段は考えもしないし会話にも出ないから、「えー?」って考えちゃうんですよね。一番よく聞かれるのは、「家ではどんな感じですか?」っていう質問なんですけど、お父さんは家にいなかったし。しかも、実際そんなに(テレビと)変わんないんですよね。だから何も言えなくて(笑)。そういうことを余計に考えちゃう。もちろんありがたいのもあるんですけどね。

蜷川: 大人だねぇ。スマートで美しい。私なんか、「そんな親のこと聞くんだったら帰ってください!」とか言って、あっという間にキレてたの。いっつもケンカ腰だったもん(笑)。

IMALU: 一人でやられてたっていうのが、すごい大変じゃなかったですか? ストップしてくれる人がいないっていう。

蜷川: うん、大変だった。だから自分でぶちキレてた(笑)。

IMALU: でも私、たぶんすごい生意気だったりとか、態度が悪いイメージなんで。それやっちゃったら、完全にもう……。「もう帰って!」とか言ったら、「ああやっぱり」ってなっちゃうんで(笑)。

蜷川: みんながそういうふうに思いたがってるからね(笑)。そこは今ぐらいスマートでいいのかもね。私はすごい子供だったけど(笑)。

IMALU: いや、めちゃくちゃわかりますよ。

蜷川: 血の気が多いもので(笑)。ケンカ、何回もあるもん。テレビの収録の時も、マイク付けたまんま、「もうやってらんない!」とか言って立って。そん時は一緒にいた人たちに「何それ、バカじゃないの!?」とかってワーって言ったら全部マイクが拾ってて(笑)。

一同: あははははははは(笑)。

IMALU: あはははは(笑)! でも、気持ちすごいわかります。

蜷川: そうなの。だから勝手に親近感があって。でも名前の知れ方が違うもんね。IMALUちゃんの場合、お父さんとお母さんのことはみんな激しく知ってると思うから、大変じゃないかしらと思って。でもなんかすごくスマートに、すすすーっていってる感じがしていいなぁと思いました(笑)。

IMALU: そう言ってもらえるとすごく嬉しいです。

蜷川: なんかあったら、連絡ください(笑)。私すぐキレるけど、話を聞くくらいはできるんで(笑)。

IMALU: ぜひお願いします!

IMALU 1989年9月19日生まれ。東京都出身。[illegible]として活躍。雑誌など活動の幅を広げている。現在、ラジオ「@pepe ミュージック RADIO」(FMヨコハマ)、「IMALUと[illegible]の超超超!!!自由時間」(Ameba Studio)にてレギュラーを務める。2代目ポッキープリンセスに決定。最新情報はwww.imaru.jpをチェック。

南明奈

AKINA MINAMI





南明奈(以下、南): バービーみたいな可愛いお洋服、興味はあっても自分には似合わないってずっと思ってたんですけど、今日は楽しかった～! あんな帽子とかめったにかぶることないから、新鮮でした☆

「Mgirl」編集部(以下、M): 今までのお仕事で、思い出深いコスプレってありますか?

南: 今「ジャンプ」やってるから、最近はアニメのコスプレをすることが多いんですよ。アニメ系、けっこう好きですね。特に男の子のキャラクターのコスプレの方が楽しいかな。昔から女の子女の子したことがあんまり好きじゃなくて、男の子っぽいものの方が好きなんです。それにしても、蜷川さんとの撮影は何回やっても緊張しますね～。

M: 前回撮影した時はまだ19歳でしたよね。この前20歳になられたんですよね。

南: そうですね。夜にご飯を食べに行くと、「あ、大人だなぁ」って思います。今までは誰かとご飯行っても、12時までには帰りなさいって言われてたので。この前人生初のオールをしました。朝7時とかまで友達と喋ったりして、すごく楽しかったです。

M: お酒は飲んでます?

南: なんだろう……飲もうっていうチャレンジ心はあるんですけど、普段ジュースばっかりだから、ちょっとの苦さでもすごい苦く感じちゃって。好きではないかな～。今特訓中です。

M: 目指せ「まずはビール!」ですね。

南: ビールダメですね～。飲めるようになりたいな。

M: 最近はどんなふうに息抜きしてますか?

南: 今までは休みがあったらとにかく寝てました。でも最近になって、「このままじゃ私の人生やばい!」ってことに気づいたんです(笑)。だから、休みができると友達に連絡して遊ぶようにしています。109行ったり、カラオケ行ったりとか。学生の頃にそういうのが全然できなかったから、それだけで楽しいですね。あと、家族みんなでお出かけもします。私の運転で。

M: 運転されるんですね!

南: 運転、超好きなんです。けっこう遠出します(笑)。

M: さすがアッキーナさん(笑)。これからチャレンジしたいことは何ですか?

南: そうだな～、何か新しい趣味を見つけたいですね。今の趣味はゲームなんですよ。「龍が如く3」とか、「喧嘩番長3」とか。基本、喧嘩する系。それが楽しいんですけどね。ちなみにドラクエとかモンハンとか、RPG系はやらないです。レベルアップとか、こいつを倒さなきゃ進めないとかは、めんどくさい! って思っちゃう。ただひたすら叩いてるだけとか、殴り合ってるだけの方が好き(笑)。でも、そういうゲームばっかりじゃなくて、もっとアクティブな趣味を探してるんですけど、なかなか見つからなくて。

M: アクティブな趣味っていうと?

南: 今興味があるのが、ジェットスキー。

ループみたいなのに入りたいなとも思ってま

M: 睡眠時間はどのくらいとれてるんですか

南: 最近は3～4時間くらい。

M: ひゃ～。今日はお忙しい中ありがとうご

南明奈 [illegible] 神奈川県出身。愛称「アッキーナ」で親しまれ、[illegible]「クイズ!ヘキサゴンII」[illegible]への出演が決定している。



鈴木えみ

EMI SUZUKI

『Mgirl』編集部（以下、M）：　オールドバービー風のヘアメイクと、近未来的なコーディネイトが絶妙でしたね。
鈴木えみ（以下、鈴木）：　普段のファッション撮影ではできないような作り込んだヘアメイクで楽しかったです！ グラデーションのスパンコールワンピはさりげなく後ろにリボンがついてたり、衣装も可愛かった～。
M：　あのヘアはどうでしたか？ ここまでの高さは初めてだったのでは？
鈴木：　初でしたね～（笑）。身長測ったらすごいことになったんじゃないかな。ブーツも履いてたし、2m超え！ みたいな（笑）。
M：　蜷川さんとはこれまでにも何回かご一緒されてますよね。
鈴木：　今日も、蜷川実花ワールドが炸裂してましたね。毎回お喋りも楽しいし、蜷川さんの撮影はすごく好きです。
M：　最近、凧揚げにハマってると聞きましたが、何かきっかけがあったんですか？
鈴木：　コストコに買いものに行った時、可愛いカラフルなタコが売ってたんで、ふと「そういえば、大人になってからタコ上げてないなぁ」って思って（笑）。
M：　あと、"工場"がお好きだということも小耳に挟みましたが……。
鈴木：　好きですね～。川崎辺りの工場地帯とかいいですよ。夜に見たんですけど、すごいキレイでした。
M：　ご実家の京都には帰ってますか？
鈴木：　なかなか帰れてないですね。もうすぐ紅葉がキレイな時期なので、帰ろうかなと思っているところです。
M：　オススメの紅葉スポットはどこでしょうか？
鈴木：　嵐山はかなりきれい。オススメですよ～。
M：　年末にかけてのご予定は？
鈴木：　毎年クリスマスは、友達を家に呼んで、仮装パーティーをやってるんです。バットマンの女バージョンが好評だったな。今年は何着ようかな（笑）。
M：　9月に24歳になったばかりですよね。今年何かやってみたいことってありますか？
鈴木：　うーん、何かやってないことあったかなぁ。あ、ホワイトタイガーに会いたいです！
M：　ホワイトタイガーですか！ どこに行ったら会えるんでしょう？
鈴木：　どこでしょう……（笑）。なかなかいないですからね。
M：　調べておきます！

鈴木えみ　モデル。1985年9月13日生まれ。京都府出身。13歳でモデルデビュー。その後、雑誌『SEVENTEEN』の看板モデルとなり注目を集める。現在は各ファッション誌で活躍する傍ら、TVドラマへの出演、アパレルブランドとのコラボアイテムを発表するなど、多方面で活躍中。

マリエ

MARIE

蜷川実花（以下、蜷川）：　私撮る時そんなに「いいねー」とか「キャー」とか「すごい」とかって言わないじゃないですか。でも今日は外人みたいに「超可愛い～！」とか言いながら撮ってた（笑）。そう、思わず声が出てしまうくらいすごかった。
マリエ：　ありがとうございます。私ず～っと蜷川さんと一緒にやりたいやりたいと思ってて。でもなかなか会えなかったから、なんかダメなのかなーとか思いつつ。でもお仕事のお話をいただいて超嬉しかった！

蜷川：　たまにそういう巡り合わせの人がいるんだよね。毎回海外に行ってていないとか。マリエちゃんもそうだったから、この間も一緒にできて超嬉しかったし、今回もすっごいかっこよかった！
マリエ：　ね、めちゃめちゃかっこよかった！ しかも色がすごい素敵だった。
蜷川：　今回のコーディネイトとかどうだった？ こんだけおっきい頭になったことって、なかなかないでしょ？
マリエ：　ないないない、一切ない（笑）。けっこう大胆なことが好きなんですよね。やっちゃおうよ！ みたいなノリが好きだから、今回のスタイリングはすごく自分に合ってた気がする。
蜷川：　『Mgirl』って日本の無法地帯になってるもんね（笑）。ほんとはシャツの下にワンピースかなんか着る予定だったのに、脱いでくれちゃって。シャツとジャケットと、パンティー（笑）。でも絶対その方がバランスもかっこよかった。この間撮らせてもらった時とはポーズとか表情が全然違ったけど、そういうのは自分の鏡に映ってる感じを見てパッと思いつくの？ すごく勘がいいなと思って。
マリエ：　なんだろ。モデルを本格的にやり始めたのとタレントをやり始めたのって同時くらいなんだけど、もう、可愛い子なんていっぱいいるでしょ？ 私は別にそうじゃないし、どうしようかなって思ってて。でも、何かで一番になりたいってずうーっと思ってたの。それだったら、私が目立てるのはテレビだったり、しゃべりを活かせる場所だったり。で、モデルの中でどうやって目立てばいいんだろうと思ってて。他の人と一緒になった時には、その人の撮影とかずーっと見てましたね。今でも「ViVi」の後輩の撮影とかも全部見るんだけど、「珍しいね」ってよく言われる。とにかくずーっと見てるの（笑）。メイクルームにすら入ってないですもん。
蜷川：　へぇ～、意外！ それはさ、彼女がこうなら私はこうしようかなっていうことを、データとして集めてるわけ？
マリエ：　別にマネしようとして見てるんじゃなくて。違うのをやってやろうっていう感じかな。あとは、みんながどういう風にやるのかをわかってたいっていうのもあるし。あと、こんな風に見られたいっていう気分で決めるかも。今日のこのバービーの衣装だったら、こんな風に見られたいっていうのをイメージする感じ。
蜷川：　へ～～。なんかね、モデルの子もいっぱい撮るんだけど、マリエちゃんはそういう子より派手なんだよね。やっぱりすごい目を惹くっていうか、思わず見入ってしまう派手さがあって。そういう意味ではもしかしたらほんとに映像向きなのかもしれない。あんなにスタッフが釘付けになって見てるのって、すごく少ないなと思ってて。やっぱり、華があるんだと思う。
マリエ：　嬉しいです。ありがとうございます。
蜷川：　……私がデビューした時ね、女の子写真家ブームっていうのが当時あって。みんなそれぞれ違う写真撮ってるんだけど、"女の子で写真撮ってる人たち"ってグループにさせられて。メディアってそういうところあるじゃない？ で、その中でどうしたら頭一個抜けられるかなとか、私らしさってどうしたら出るんだろうってすごく悩んだの。23歳くらいの時かな。そういう中で、私も他の人の写真をすごい見たんだよね。この人たちがこうなら、私はどうしたらいいんだろう、蜷川実花って何なんだろうっていうのを最初から考えなきゃいけない状態だったから、今のマリエちゃんの話に、なるほどなぁって思ったというか。
マリエ：　なんかこう、世代って絶対あると思ってるんですよ。例えばだけど、タモリさんがいて、紳助さんがいて、さんまさんがいて、この方たちがお仕事を続けていると、中途半端な年代のお笑いの芸人さんは一生そこに行けないまま死んでいっちゃうでしょ（笑）？
蜷川：　わかる、篠山紀信さんとか荒木さんがなかなか死なないのと一緒でしょ（笑）？
マリエ：　そうそう、そういうことそういうこと（笑）。世代的に、今小学校くらいの人が大きくならないと、そこには行けない、みたいな。
蜷川：　わかるわかる（笑）。で、元気なんだよね、その人たちは（笑）。
マリエ：　そうそうそう！ いつまでもお元気だなあ、みたいな（笑）。でもそれって、いろんな職業にある気がして。私は何の真ん中なのかわかんないけど、きっとあると思う。いろんな才能がその間の年代にはあるのに、それってもったいないでしょ。だから、自分をどう違う方向で見せていけばいいのかな、っ
蜷川：　へぇ～。すごい面白い！ マリ
マリエ：　双子座の兎年（笑）。今22
蜷川：　22だ、若いね～（笑）。写真
マリエ：　あ！ 写真展やるんです。ぜ
蜷川：　わぁー！「やらなくてもいいこ
マリエ：　企画書から全部自分で書
てお願いします」って言って。
蜷川：　へぇ～～。行く行くー。どこでやってるの？
マリエ：　ガーブピンティーノっていうカフェで、東京タワーの向かいにあるお店です。風

景がメイン。ステンドグラスっぽいシールを窓に貼ったりもします。で、この写真をネットで売って、カンボジアに写真集の図書館を作るの。

蜷川: すごいねぇ〜。

マリエ: 最初は図書館を作るって言ってたんだけど、向こうは文字を読めない人もたくさんいるってことに気づいて。私たちがアフリカの景色とか見ると、行ってみたいな〜とか、すげーっ! って思うけど、逆に向こうの子たちが都会の写真を見たら、きっと「こんな世界があるんだ」って発見がたくさんあると思うから、そういうものばかり集めた資料館みたいなものを作りたいなと思ってるんです。

蜷川: 楽しみだね〜。フィルムで撮ってるの?

マリエ: フィルムとデジカメどっちも。フィルムは暗室で手焼きしてます。

『Mgirl』編集部(以下、M): フジロックとサマソニの公式カメラマンとして入ったりもしてるんですよね。

蜷川: そうなんだー! すごい。ねね、マリエちゃんはどんなとこが好き? オフはいろんなところ行ってるの?

マリエ: 私は……けっこうどこでも好きで。純粋に休日だけ楽しみに行くなら、無難にグアムとか大好きだし(笑)

蜷川: グアムさあ、いいよねぇ!? みんなけっこうバカにするけどさぁ(笑)。近いし。私も意外とプライベートで行くのはグアムが一番多いかも(笑)。

マリエ: わかるー! 何もすることないからプカプカ浮いて、寝て、ごはん食べて。

蜷川: ドライブで少し離れたとこまで行けば日本人とかいないから、全然人に会わないしね。で、Kマートで洗剤とか買ったりして。日本にも売ってんじゃん、でも安いんだもん! みたいな(笑)。今は子供いるからそんなパッて行けないけど、前は3日くらい空いたら「行ってきまーす!」みたいにして行ってた。近くていいよねぇ?

マリエ: そうそう。

蜷川: あとね、今日マリエちゃんの爪が超可愛くて。「短いのもいいね」って言ったら、三味線してるからなんだって! びっくりしちゃった。

マリエ: 海外に行った時に、「コレ!」って見せられるものが欲しくて。何かなぁって思って。三味線は昔から興味あったし、じゃあやってみようかなと思って、習ってます。

蜷川: 大人になってからやりだしたの?

マリエ: そう。だって、今年入ってからだもん。もう、楽しくて楽しくて。

蜷川: 楽しいんだ? いいねぇ。なんかマリエちゃんて意外なことがいっぱいだね。

マリエ: 多趣味もあんまりよくないと思うんですけど。

蜷川: 他にもなんかやってることあるの?

マリエ: 写真と三味線……いまハマってるのはそれくらいですかね。あとは、ジムとか。ウェイトトレーニングくらい。今一人ぼっちだから、仕事してない時の時間をどうやって潰そうかって最初必死だった(笑)。

蜷川: そっかそっか。私はすごい隙間恐怖症で。

マリエ: 隙間恐怖症(笑)?

蜷川: そう。半日とか時間が空くと、マジどうしよう! みたいになる。パンパンに詰まってないとすごい嫌で。

マリエ: その病気って、一生治んないみたいですよ(笑)。

蜷川: まあ、今は息子がいるから、もうそれどころじゃないわけ(笑)。だから今は、その病気はちょっと収まってるかな。むしろ暇な時間が欲しいと思うけど。

M: マリエさんは、自己プロデュースをすごいちゃんとされてるんですね。海外で誰かに見せたくて三味線とか。

マリエ: ある程度やりたいことができるようになってきたのって、ほんと今年入ってからくらいで、それまではずっと我慢ですよ。仕事も、自分の時間も。もう、3年は我慢だと思って。

蜷川: どういう仕事が多かったの?

マリエ: うーん……、例えばテレビで"セレブキャラ"みたいになったけど、自分が思っているよりも一般の人に定着するのって先だったりするじゃないですか。だから、もうやり切っただろうって思ってからも、そのキャラでずっとい続けたりしたり。でも、今は自分のペースで自分がやりたいことをやれるようになってきたかな。別に仕事の内容的にはそんなに変わってないんだけど、自分のキャラだったり、こうやって実花さんとずっと仕事したいと思ってたらできたし。写真展もできるようになったし。

蜷川: ある程度自分が自分らしくいられるようになった。

マリエ: うん。

蜷川: でも、ほんとにセルフプロデュースしてるんだね、いつも。絶対重要だよ、自分でできたほうがいいよー。そのうちなりたいようになれるし。

M: お酒も断ってるんでしたっけ?

マリエ: いや、それが無理だった(笑)。私、お酒大好きなんですよね(笑)。

M: 今日もスーツケースに一升瓶入ってましたもんね(笑)。

蜷川: あはははははは(笑)! ほんといいねぇ、マリエちゃん。いっつも可愛い格好してるし。かっこいい。

マリエ: 全然です。だらしないですよ。ベッドシーツとかあんまり替えないし(笑)。

蜷川: 私も。っていうかベッドシーツってだいたいどれくらいで替えるものなの? みたいな。

マリエ: あはは、そうそうそう(笑)!

蜷川: あとタオルは何回使ってもいいのか、とか(笑)。

マリエ: 超わかるーーー(笑)!

蜷川: タオルって1回1回洗わないよね? バスタオル。シーツは? 下手したら、うっかり1ヶ月替えてないとかあるんだけど。

マリエ: あります、あります(笑)。

蜷川: みんなはどんな感じ? みたいな(笑)。布団カバーにいたっては……もしかしたらワンシーズン? みたいな。ねぇ、どうなの? そこらへん(笑)。

マリエ: でも長谷川理恵さんとか、毎日替えるらしいですよ。

蜷川: まぁーーじーー(笑)!?

マリエ: じゃないと気がすまないんですって。毎日、全部。すごいですよね。

蜷川: それってさ、パンパ〜ンってやって(手を叩いて)誰かに替えてもらってるんじゃない? 自分で替えてるのかなあ(笑)。

マリエ: わかんない。

蜷川: 私嫌いなんだよね〜、布団カバー替えるの。

マリエ: わかる。縦と横違った! あ〜〜! みたいな(笑)。

蜷川: けっこう微妙じゃん? でっかいベッドとかなるとさぁ。

マリエ: わかる(笑)。

蜷川: 展覧会の次にやりたいこととか、何かあるの?

マリエ: 大学生になりたいです。

蜷川: あ、そうなんだ。何勉強するの?

マリエ: マーケティングとか、デザイン。ファッションマーケティングを学びたいですね。

蜷川: マリエちゃんは、ほんとに自分をプロデュースできてるんだね。私もマーケティングだったらちょっと勉強したいもんなぁ。わかんないけど、私勝手に、この会社が良くなるにはどうしたらいいかなとか、もし私が「この商品を超売ってくれ」って言われたらどうするかな、とか考えるのが好きなんだよね(笑)。そういうの大好き。

マリエ: 蜷川さんて、海外アーティストみたいですね。

蜷川: そーお?

マリエ: なんか、そんな気がする。日本て、事務所があってのアーティストさんが多いけど、蜷川さんは、自分があっての会社っていうか……

蜷川: そう、個人事務所だからね。自分の城がある。

マリエ: ステキ〜。

蜷川: 事務所、超派手だよ! 引っ越しして家と一緒になったから、いつでもいるから遊びに来て。

マリエ: 行きたい! いろんなもの置いてありそう。なんか宝の山っぽい。

蜷川: 超いろんなもの置いてあるよ(笑)。事務所の引っ越しと、自宅の引っ越しと、倉庫の引っ越しと3回引っ越ししたんだけどね、事務所の分だけで段ボール箱300個あったらしい。

マリエ: ほんとに!?

蜷川: 服とか本とか開けるたんびに、どこに入ってたんだろうコレ、みたいな(笑)。

マリエ: えーっ、今度遊びに行かせてください、マジで。

蜷川: ほんとに連絡して! 待ってるからね♥

マリエ　モデル、タレント。1987年6月20日生まれ、東京都出身。10歳の時、スカウトされたのをきっかけにモデルデビュー。以来、バラエティ番組、CM、雑誌などで幅広く活躍中。現在、「アッコにおまかせ!」(TBS)、「笑っていいとも!」(フジテレビ)、「THE HILLS」(テレビ東京)など、レギュラー番組多数。http://lespros.mobi/(携帯サイト)、http://sblog.pw.tv/marie/(オフィシャルブログ)



50 FIFTIETH ANNIVERSARY



ほしのあき

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: TAKAO (angle)
Hair&make-up: RYOJI IMAIZUMI (FEMME)
Make-up: YUKI (FEMME)
Model: AKI HOSHINO


dress Y[illegible]0 ribbon [illegible]5,250
p[illegible]racele[illegible]75 [illegible]pearl bracelet [illegible]2,100
corsarge bracelet Y840 [illegible] Y3,[illegible]
necklace [illegible]940 sandal [illegible],675 (Barbie)
pink headdress sample headdress with corsage sample each
(Stephen Jones/[illegible]LINE TOKYO)
cocktail hat [illegible]63,[illegible] (Prudence/test,)
purple headdress Y31,500 (misa harada/test,)
fan sample (test,/test,)
purple glove Y2,625 yellow glove Y2,625
each (Baby Doll)
Barbie™
7



cardigan ¥7,350 t-shirts ¥3,150
bracelet ¥5,250 hat ¥3,990
corsage ¥2,625 (Barbie)
gloves ¥2,625 (Baby Doll)
necklace model's own

藤田志穂

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: TAKAO (angle)
Hair&make-up: KOICHI NISHIMURA(angle)
Make-up: KA[illegible] HA[illegible] (F[illegible])
[illegible]del: S[illegible]HO F[illegible]JITA



vest ¥7,875 dress ¥8,400
underwear ¥6,825(Set up price) shoes ¥12,600 belt ¥3,675
chain necklace ¥3,675 necklace ¥4,200 bracelet ¥2,940 (Barbie)
headdress ¥126,000 (Stephen Jones/test,)
gold necklace model's own
leather gloves stylist's own



益若つばさ

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: TAKAO (angle)
Hair&make-up: KOICHI NISHIMURA (angle)
Make-up: KAZUKO HAYASAKA (FEMME)
Model: TSUBASA MASUWAKA



roomwear ¥7,350 (Barbie)
headdress ¥155,400 (Stephen Jones/test,)
tulle ¥21,000 (test,/test,)
cameo top necklace ¥16,800
long necklace ¥8,900
flower necklace ¥32,000 (Baby Doll)



t-shirts ¥3,675, jacket ¥10,500 (Barbie)
belt ¥18,900 (NUDE TRUMP/NUDE TRUMP)
hair accessory ¥46,200 (Stephen Jones/test,)
others stylist own

IMALU

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: SHINO SUGANUMA (tsuji management)
Hair&make-up: RYOJI IMAIZUMI (FEMME)
Make-up: KAZUKO HAYASAKA (FEMME)
Model: IMALU



dress ¥9,450 apron ¥4,200 all (Barbie)
hat belt stylist's own



dress ¥7,875
pierced earrings ¥2,415 (Barbie)
roller skates ¥26,040
(NUDE TRUMP/NUDE TRUMP)
tights stylist's own

南明奈

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: SHINO SUGANUMA (tsuji management)
Hair: RYOJI IMAIZUMI (FEMME)
Make-up: KAZUKO HAYASAKA (FEMME)
Model: AKINA MINAMI



camisole ¥6,825 (set price)
jacket ¥9,975, *skirt* ¥8,400
suspenders ¥1,995, *multi color can badge* ¥315
blue can badge ¥315, *bracelet* ¥3,150 (Barbie)
scarf ¥2,940 (NUDE TRUMP/NUDE TRUMP)
hat ¥102,900 (JACQES LE CORRE/test,)
shoes stylist's own



dress sample
white bracelet ¥1,575, bijou bracelet ¥1,575
pyramid bracelet ¥2,940, fur bracelet sample
shoes ¥14,700 (Barbie)
headdress ¥136,500 (Stephen Jones/test.)

鈴木えみ

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: TAKAO (angle)
Hair&make-up: KOICHI NISHIMURA (angle)
Make-up: KAZUKO HAYASAKA (FEMME)
Model: EMI SUZUKI



dress ¥9,975 *necklace* ¥3,775
pierced earrings ¥1,050 (Barbie)
headdress sample (Stephen Jones/FALINE TOKYO)



マリエ

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: SHINO SUGANUMA (tsuji management)
Hair&make-up: RYOJI IMAIZUMI (FEMME)
Make-up: KAZUKO HAYASAKA (FEMME)
Model: MARIE



blouse ¥5,250, *jacket* ¥10,500 *both* (Barbie)
hat ¥189,000 (Stephen Jones/test,)
others stylist's own

バービー生誕50周年スペシャル

世界中からラブコールを受ける バービーの50周年をお祝い!



ANNIVERSARY

Barbie 50 th. Anniversary

ガールズの永遠の憧れバービーが今年で50周年を迎えました! それをお祝いして世界各地で開催されたさまざまなスペシャル企画を本誌がお届け。

Barbie 50th. Anniversary

バービー50周年を記念して
人気クリエイター10人と夢のコラボアイテムが発売!

photographer: SACHI KATAOKA(PPI)

10人の人気クリエイターがバービーの50周年を記念して作ってくれた、バービー作品をプリントしたキュートなTシャツ&エコトートバッグが発売!

シュナーベル・エフェクツ
SCHNABEL EFFECTS

アーティスト





ロングニットと合わせて
スマートに着こなして!

バービーはトレンディでエレガントなイメージというシュナーベルさん。テーマが、「バービーさんがパリコレに～～♪」。作品内のテーマはいとこのフランシーさんが応援に駆けつけてくれたという設定。ロマンティックな色使いとおませなバービーとフランシーのプリントワンピースは、ロングニットと合わせてロマンティックに着こなして。

Tシャツワンピース¥5,250、トートエコバッグ¥2,625(共にBarbie)

槇村さとる
SATORU MAKIMURA

漫画家





クチビルの赤をアクセントに、
レギンスと合わせてセクシーに

アーティスティックなデザインの槇村さんの作品は、バービーのセクシーなクチビルの赤をテーマに描いてくれたもの。バービーの独特な上クチビルのラインは、特にこだわったそう。ブルーアイと真っ赤なクチビルが印象的なTシャツとバッグは、シャイニーなレギンスと合わせて'80sなディスコガール風に着こなすとセクシー。

Tシャツ¥3,990、トートエコバッグ¥[illegible]5(共に[illegible]e)

猪口燈
AKIRA INOGUCHI

アーティスト



クリエイティブな女の子に、着て欲しい乙女ワールド

乙女チックな世界観を塗り絵や人形等に用いられるフラットな表現方法でレトロに描いてくれた猪口さんの作品。最近の女の子は手足も長くてスタイルがバービー化してきている印象を受けたことから、そんなスタイルの女の子やクリエイティブな子に着てほしいとか。たちまち乙女ワールドに完成しちゃう魔法のようなTシャツ&トート♡

Tシャツ¥3,990、トートエコバッグ¥2,625（共にBarbie）

平松昭子
AKIKO HIRAMATSU

イラストレーター



古典的な水彩画バービーで、エレガントな女性を演じて

着物を着るようになって10年くらいになるという平松さんは、世界中で愛されるバービーに着物を着てもらって、着物の良さをもっと広げたい！ という想いから着物姿のバービーを描いたそう。いつもカラフルなバービーだからこそ、あえて色のない水彩画で表現。古典的なバービーのTシャツ&トートはエレガントな雰囲気に

Tシャツ¥3,990、トートエコバッグ¥2,625（共にBarbie）

桜沢エリカ
ERICA SAKURAZAWA

漫画家



カラフルなレギンスを合わせて、ファンクなレディを気取って

バービー＝着せ替え人形というイ[illegible]イルが水着姿だったそう。自分が着ることも考え、コーディネートしたすいようにモノクロに。Tシャツはカラフルなレギンスと合わせてファンクなスタイルにするとクール！ エコバッグは、スタイルを選ばないのでヘビーローテで使えちゃいそう。

Tシャ[illegible]ートエコバッグ¥2,625（共にBarbie）

花くまゆうさく
YUSAKU HANAKUMA

漫画家・イラストレーター



デニムやジリとコーデした、カントリールックにトライ

バービーと言えば"アメリカ"というイメージ花くまさんは、"芝生の庭付き家に住んで、小さな畑でもしたい"というマイドリームをバービーとおなじみのハゲ&アフロの3人で描いたそう。テーマは、カントリーライフをしている3人。デニムやジレと合わせてカントリー調に着こなすと花くま流バービーが再現しちゃうかも!?

タンクトップ¥3,990、トートエコバッグ¥2,625（共にBarbie）

エナ
ENA

イラストレーター



ポニーテールバービーは、ガーリーに可愛いく☆

バービーは大人の女性がコレクションとして楽しむアート作品のようなイメージを持つというエナさんは、パーフェクトすぎるポニーテールのバービーをアートしてくれました。ブラックカラーのロングTシャツはパールと合わせてシックなガーリースタイルに、トートバッグもガーリーなスタイルに合わせてキュートにキメて!

Tシャツ¥3,990、トートエコバッグ¥2,625（共にBarbie）

氷見こずえ
KOZUE HIMI

イラストレーター



リアルなバービーで、グラマラスにブラッシュアップ

バービーをリアルに表現したらどうなるだろうという挑発的な部分からパッと浮かんだ、このバービー。リアルに描くことでバービーが持つイメージをくずさないように、洋服や髪型に気を遣ったというとても繊細な作品。ブラックカラーでクールなTシャツトートバッグはプラットフォームのパンプスと合わせてグラマラスに。

Tシャツ¥3,990、トートエコバッグ¥2,625（共にBarbie）

カズモトトモミ
TOMOMI KAZUMOTO

アーティスト



'60sのバブルカットバービーで、個性的なスタイルをエンジョイ!

一番好きだった60年代に製造されていたバブルカットをモチーフにシルクスクリーンで描いてくれた、とてもレトロな作品。このバブルカットバービーのように、Tシャツは、ひざ竹のタイトスカートをジャストウエストに合わせたり、大ぶりのイヤリングやバングルを合わせたりして、'60sなレトロなバービーに変身して!

Tシャツ¥3,990、トートエコバッグ¥2,625（共にBarbie）

Barbie 50th. Anniversary

バービーマニアの野宮真貴さんに直撃!
50周年を迎えたバービーへの想いとは。

“東洋のバービー”という呼び名がつくほど、バービー好きで有名なアーティスト・野宮真貴さん。幼い頃からずっと一緒だったバービードールは、彼女にとってどんな存在だったのでしょう? バービー生誕50周年を迎えた今、改めてバービーへの想いを語っていただきました!

幼少時代から憧れていた夢のような存在

子どもの時、初めて買ってもらった着せ替え人形がバービードールでした。その頃同時にリカちゃんも出てきたんですが、子どもながらに、リカちゃんはお洋服が子どもっぽい気がしていて。バービーの方が断然おしゃれで精巧にできていたし、私はずっとバービー派でしたね。妹がいたので、家には2体のバービードールがいました。妹のバービーとお洋服もかぶらないように違うものを選んで、組み合わせを変えたりして遊んだのを、よく覚えています。

私、もともとミニチュアが好きなんですが、それもすべてバービーから始まっていると思います。バービーの小物は、アメリカのキッチンにあるような小さなカトラリーやキャンドルなど、可愛い上に作りもすごく精巧なんです。当時は、ほとんどの人が畳の部屋の家に住んでいるような昭和の時代。ちょうどアメリカのホームドラマをTVでやっていたりして、“アメリカの豊かな生活”というものに対して憧れのようなものがありました。バービーのグッズは、子どもの私が唯一触れることのできるアメリカのものだったので、夢のような存在でした。

子どもの頃に持っていた大好きなバービーのお洋服は、今はもう手元にないのですが、記憶の中では鮮明に残っています。だから写真集を見ると、それを思い出してすごく懐かしく感じますね。バービーが好きだからってこともそうですが、バービーの衣装は時代性を映し出しているし、色の組み合わせやデザインにハッとさせられることもしばしば。例えば、「70年代のサイケってどんな色を使っているのかな」と思った時に写真集を見ると、とってもわかりやすいんです。60年代、70年代、80年代など、それぞれその時代の流行を的確に追っているしクオリティも高いです。それで、バービーの写真集を資料として見ることもよくあります。その他の資料よりも本当に参考になるし、使えますね。

大人になってからは仕事で関わるように

ピチカート・ファイヴ時代、ある曲の中で「好きなものはバービードール」と答えて以来、ファンの方からバービードールを何度かプレゼントしていただきました。そのアルバムは翻訳され、世界中で発売されたので、ワールドツアーの時にもよくいただきましたし、お国柄が感じられるバービーをツアー先で買ったりもしていました。そうやって少しずつバービードールが集まって、今でも30体以上持っていると思います。中でも印象的だったのは、ヴィンテージバービーに、私がレコードジャケットで着た衣装とヘアスタイルをそのまま手作りで再現してくれたスペシャルなバービーをプレゼントでいただいたこと。作ってくれたのは男の子でした(笑)。すごく嬉しかったですね。そのあと参加したチャリティイベントでは、ピチカートのライブで着た10着の衣装を私自身がすべてバービーサイズで作り、オークションに出しました。ちょっとした空き時間を使って、実際に着た衣装の切れ端で作っていましたね。ちなみにそのバービードールは、最も高いもので、1体18万円で落札していただきました。

今回のバービー生誕50周年のコラボレーション企画では、大好きなアイシングクッキーを使ってバービーワールドを表現しました。お話をいただ

いた時、他の参加者はイラストレーターの方ばかりだったので、イラストではないもので参加したいなと……。それで、たまたまその時期に私が関わっているブランドの10周年パーティーでお土産にアイシングクッキーを作ったことを思い出して、クッキーでバービーのイメージを作ろう! と思いつきました。もともとアイシングクッキーって、バービーの世界観に通じるようなビジュアルの可愛らしさがあるんですよ。クッキーのデザインは、写真集を見ながら50年代とか60年代のバービーコーデを参考に、ちょっぴりアレンジして作りました。

そういえば蜷川実花さんと2、3年前にお仕事でご一緒させていただいた時も、バービーをテーマにした撮影をした記憶があります。私は被写体としてだけでなく、バービーとケンのお部屋を作ったり、スタイリングの用意をしたりもしました。佐藤江梨子さんや土屋アンナちゃんなど、モデルとして登場してくれた人たちも皆可愛くて、とても楽しかったのを覚えています。

50歳になっても褪せることのない バービーの魅力とは?

私にとってバービーは、「おしゃれライバル」です。以前、私の本にバービーがコメントを寄せてくれたことがありましたが、バービーも私のことを「おしゃれライバル」だと言ってくれていたんですよ(笑)。自分とほぼ変わらない年なので、学年が一緒みたいな感覚もあります。彼女は50歳になってもスタイルも変わらず、羨ましい限り。でも、50年もの間ずっと最先端のファッションを象徴する存在であり続けるということは、本当にすごいことだと思います。何よりも、自分が子どもだった頃の思い出にリンクしているということが、バービーに魅かれる大きな理由だと思います。これからも、おしゃれライバルとしてずっと見守っていきたいですね。いつの日か、マテル社から自分の人形を出してみたいなぁと、密かに思っています。



PROFILE 野宮真貴 ミュージシャン、エッセイスト。90年代、ピチカート・ファイヴのヴォーカリストとして国内外で活躍。現在はソロシンガーとして、音楽、ファッション、エッセイなど幅広く活動。最新刊は対談集『エレガンス中毒ぎりぎりの女たち』。今年9月に行われた、第3回となるリサイタルは大盛況のうちに幕を閉じた。公式HPでは動画やブログもあり、新しい情報も随時更新している。
http://www.missmakinomiya.com/

バービー50周年を記念! 10人のアーティスト× バービーの限定アイテム

Barbie 50 FIFTIETH ANNIVERSARY





野宮真貴さんがバービーをイメージして作ってくれたアイシングクッキーがプリントされた、超キュートなロングTシャツ¥3,990、トートエコバッグ¥2,625(共にBarbie)

Barbie 50th. News

世界中で開催されたスペシャルなバービーニュースをお届け!

バービー生誕50周年を記念して
世界各国で今年行なわれた記念イベント&企画。
そんなスペシャルなバービーニュースを
カテゴリーごとにご紹介!

50 years party

世界で開催したバービーナイト!

ロサンゼルスの郊外にあるマリブで行なわれた50周年パーティ。
バービーカラーのビートルやバービーが一面にディスプレイされたバーなど、
バービーカラー1色のバービーナイトとなった。
ローレン・コンラッドやハイディ・クルムなど数多くのセレブも訪れた。

in L.A.



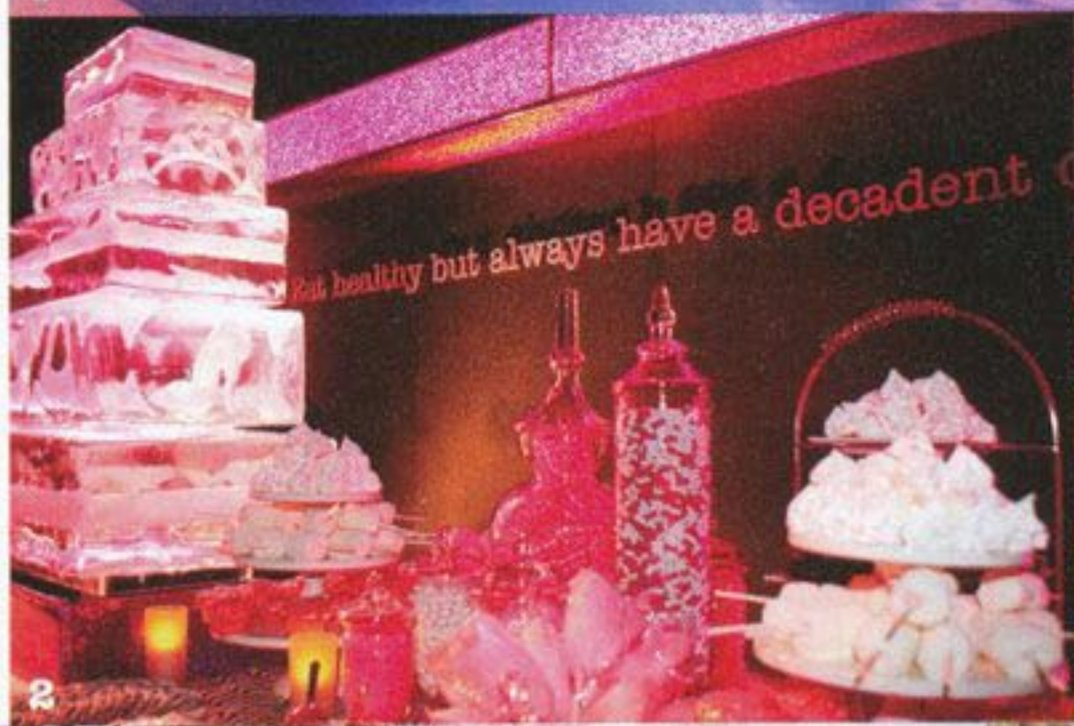
7

8

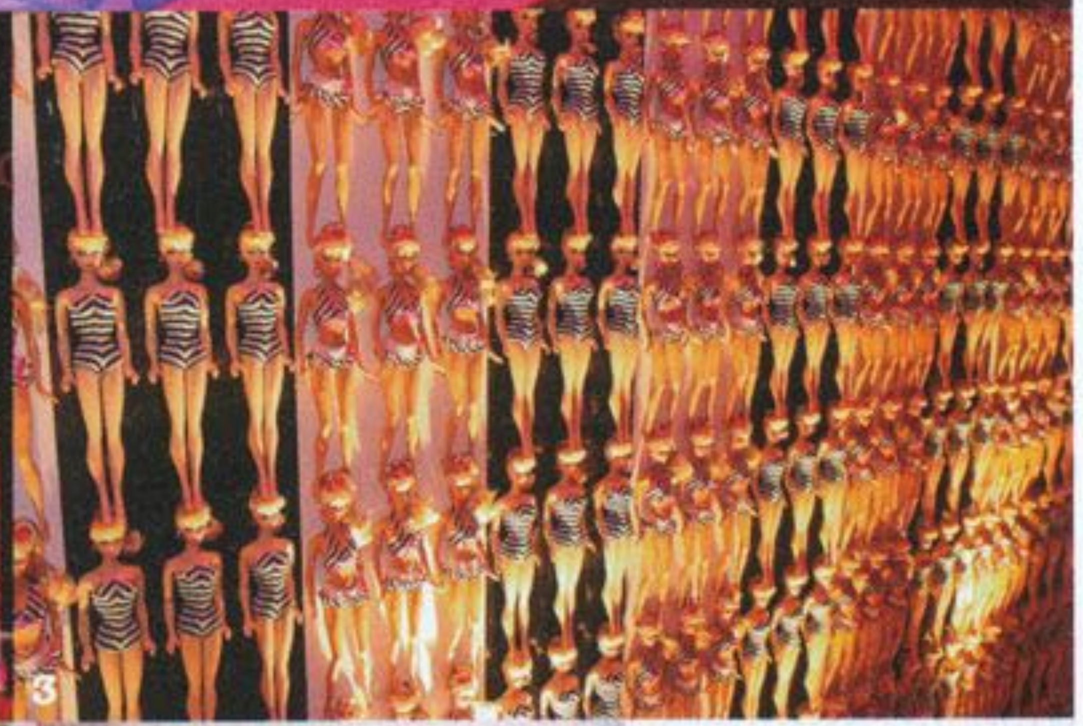
9



1



2



3



4

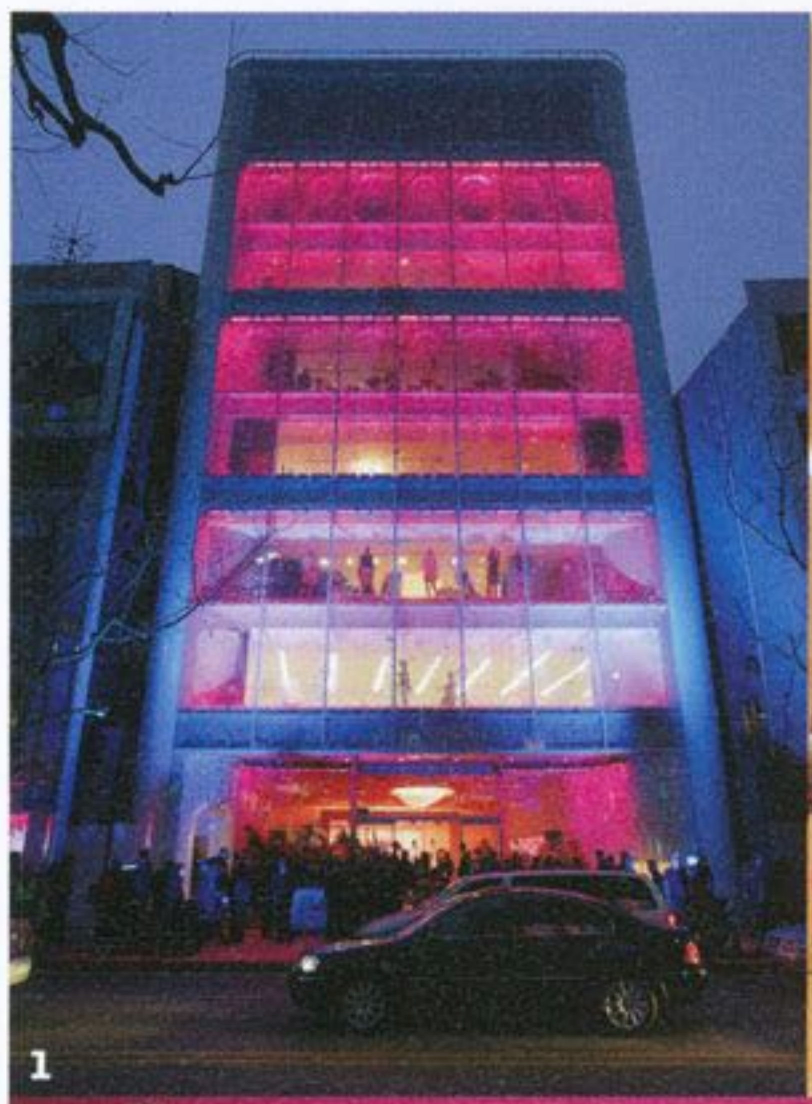
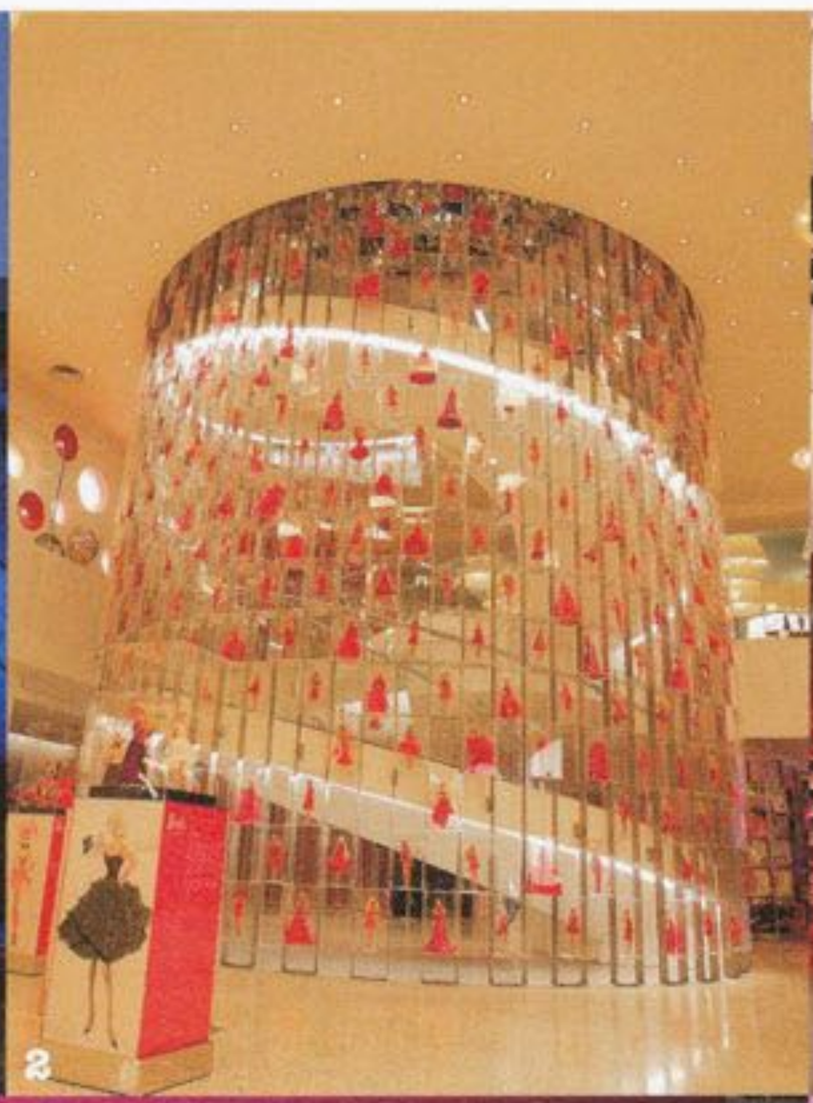


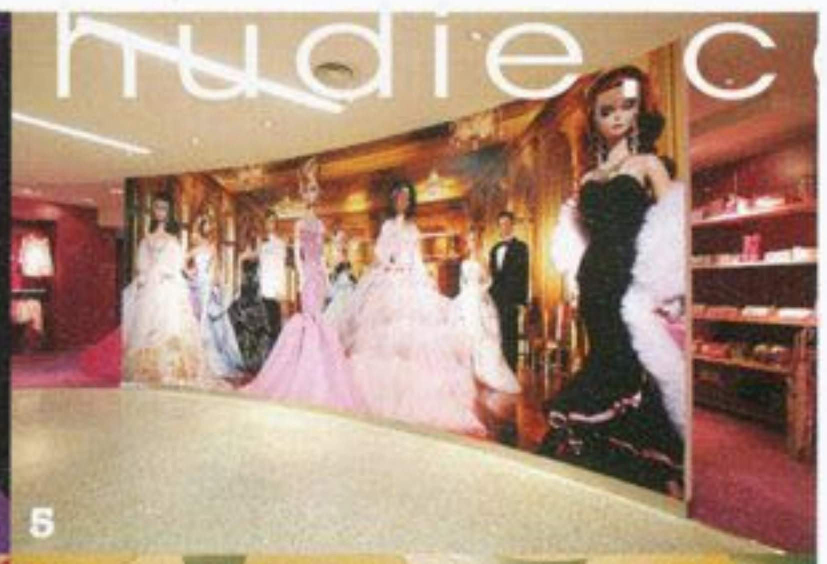
5



6

1.プールサイドで行なわれたバービーナイト。2.バービーをイメージしたデザートテーブル。3.バービーズバーに展示されたディスプレイ。4.バービーのアーカイブがお出迎え。エントランス。5.バービーカラーで塗装されたビートルズ。6.来場したお客さまに配られたギフトバッグ。7.愛犬と一緒に登場したオーブレイ・オーデイ 8.セクシーなピンクドレスのショーシャンナ・ブッシュ。9.ピンクカーペットにて。カラディ・イングリッシュ。






in Shanghai

1.バービー上海店のビル。全ての階がバービー! 2.バービーがディスプレイされた巨大ステアケース。3.バービー上海店のオープニングセレモニー。4.フューチャーリスティックな雰囲気のエントランス。5.バービーのグラマーウォール。記念撮影が可能。6.バービードールのディスプレイコーナー。7.チルドレンエリア。バービー本や人形などが中心。

dream house

夢のようなバービーのドールルームが実現!

こんなお部屋があったらな～と少女の頃思い浮かべていた、
夢のようなバービーの"ドリームハウス"が生誕50周年を記念してマリブとパームスに建てられた。
残念ながら一般公開はされなかったようだけど、実物大のバービーハウスは超ドリーミーでうっとり♡

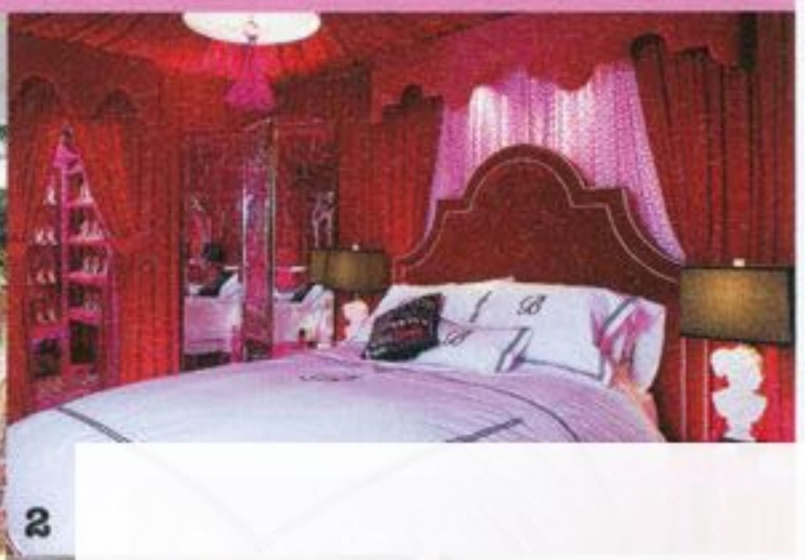
in Palms






1.バニティエリア。シルバーの壁紙がゴージャス。2.パームスのシックな装いのリビングルーム。3.クリアなバービーカラーのチェアが印象的なダイニング。4.バービーカラーのベッドがキュートなベッドルーム。

in Malibu



1.バービーヘアシャンデリアがアクセントのリビングルーム。2.ベルベッドでまとめられたムーディなベッドルーム。3.バービーミラーがディスプレイされたリビングルーム。4.バービーファブリックのチェアがキュート。

Barbie 50th. News

バービーの展示会がコレットで開催!

有名セレクトショップ「コレット」で3月に期間限定で大々的にバービーグッズが販売。各時代の復刻バービー、ジェレミー・スコットバージョンのバービーの限定品や、カール・ラガーフェルドによるバービーとケンをテーマにした写真展が同時開催して、華やかな展示会に。



1.バービーコスメや限定品が販売されたバービールーム。2.壁紙から棚までバービーカラーで一色に!　3.バービーとケンのコスチュームでバチリ。4.ジェレミー・スコットとカール・ラガーフェルド。5.等身大のバービーと新作のクローゼット。6.ケンのディプレイ。カールによるケンの写真展も開催。

collet exhibition

N.Y. collection

有名ブランドが集結したNYコレクション

2月19日に人気デザイナーが競演した、バービー50周年を記念したNYコレクション。ランウェイでは、アナ・スイ、アレキサンダー・ワンなど人気デザイナー50人がバービーをイメージして創ったドレスに身を包んだ、バービーヘアメイクのモデルが登場!



1.フューチャリスティックなバービーを演出したマイケル・コース。2.アイドルのようなミニドレスを披露したレベッカテイラー。3.モニーク・リュイリエーはドーリーなブライダルドレスを披露。4.1959年に発表されたバービーのスイムウェアを再現。5.トミー ヒルフィガーは、グラマラスなミニドレスでセクシーに。6.ナイーム・カーンはマーメイドのようなシャイニーなドレスで。7.ウェディングドレスのようなボリューミーデザイン。8.バービーファッションショーのファーストルック。

MOSTI × SWAK



MOSTI 限定の ビニールバッグセット

MOSTIとファッション誌「SWAK」がバービー50周年を記念して、とってもお得なバービーのスペシャルキットを発売! MOSTI.tvしか買えないプチプライスのビニールバッグセットは、秋のワードローブがいっぱい詰まったスペシャルセット! 見逃した方は今すぐアクセス!



ビニールバッグの表と裏。何でも入るビッグサイズが嬉しい!

【MOSTI×SWAK限定スペシャルセット】
50th anniversary Barbie set ¥7,500
お得感満点な豪華8点セット!内容は、バービーのフェイスプリントTシャツに、50周年アニバーサリーTシャツ、リップ柄のビニールバッグ、ハート柄の巾着&トートに、カラフルなマルチーボーダーのソックス、モコモコなシュシュ、ハンドタオル、と大充実なラインナップ!

Barbie 50 FIFTIETH ANNIVERSARY



Barbie STORE

バービーストアが この秋続々オープン!

8月のラフォーレ原宿を皮切りに、越谷レイクタウン、池袋エソラにも続々OPEN!（※池袋エソラは11月予定）50周年記念アイテムはもちろん、ステーショナリーやリネンラインも数多くラインナップ! バービー好きにはたまらないレアなアイテムがいっぱい!

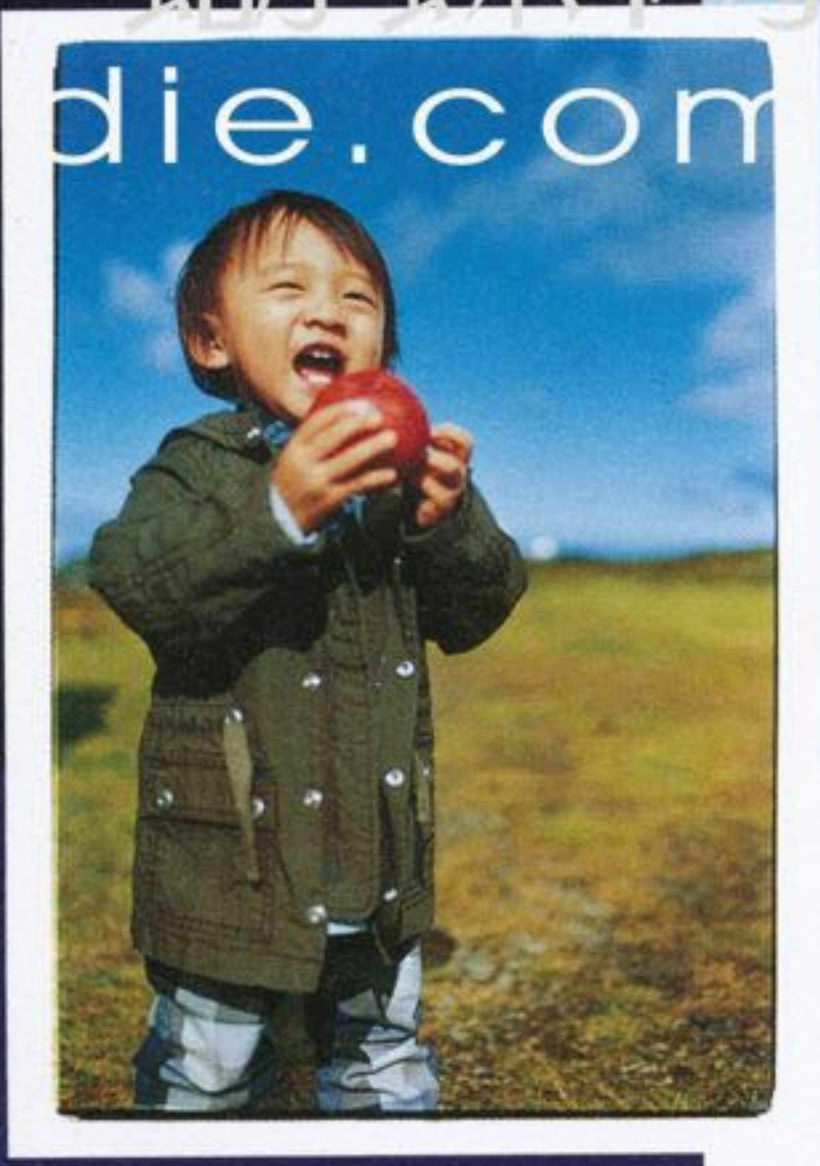
「ライフスタイル&エンターテイメントストア」をコンセプトとしたバービーストア。ポップでキュートな内装で品揃えも充実! バービーファンには必見!

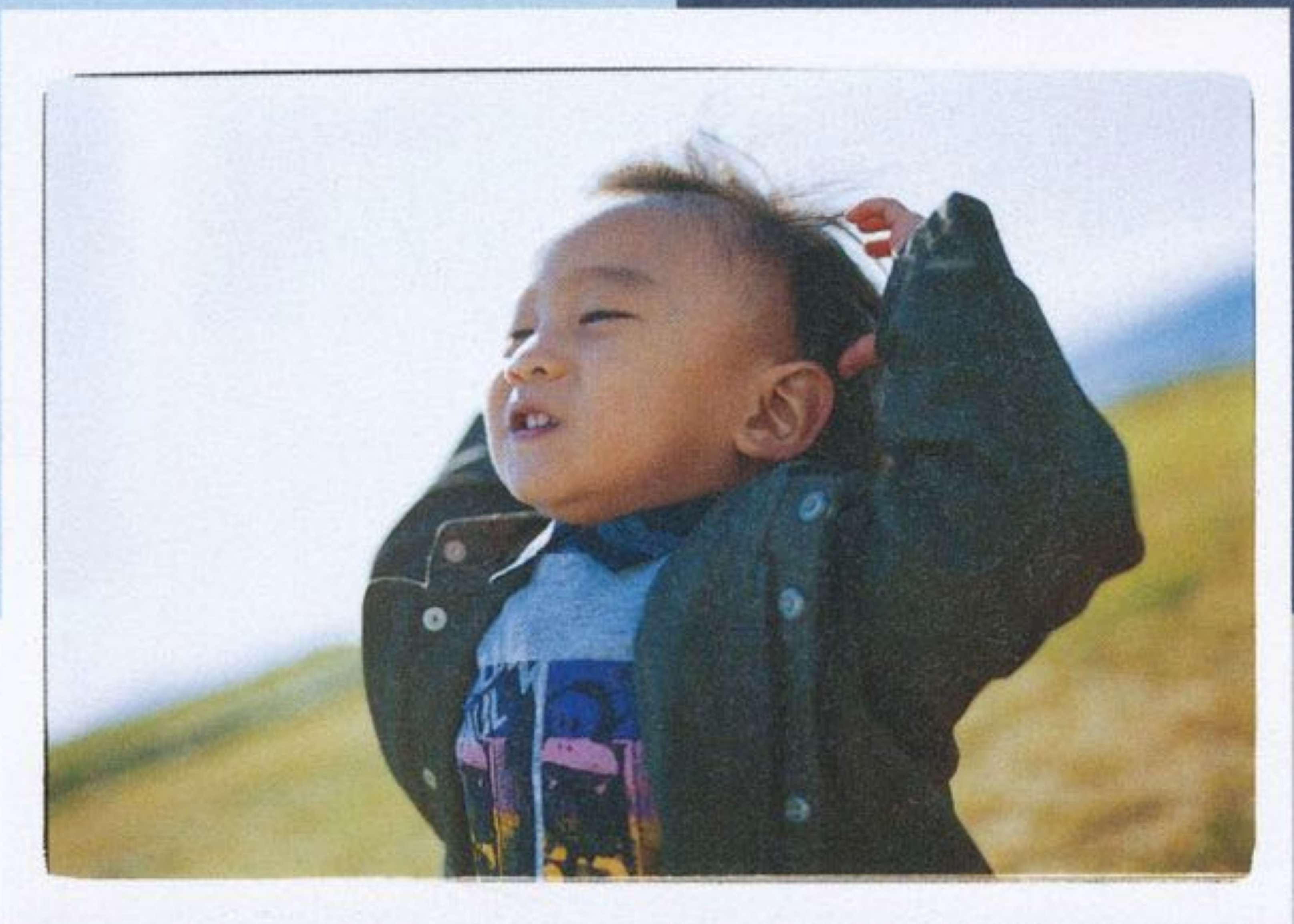


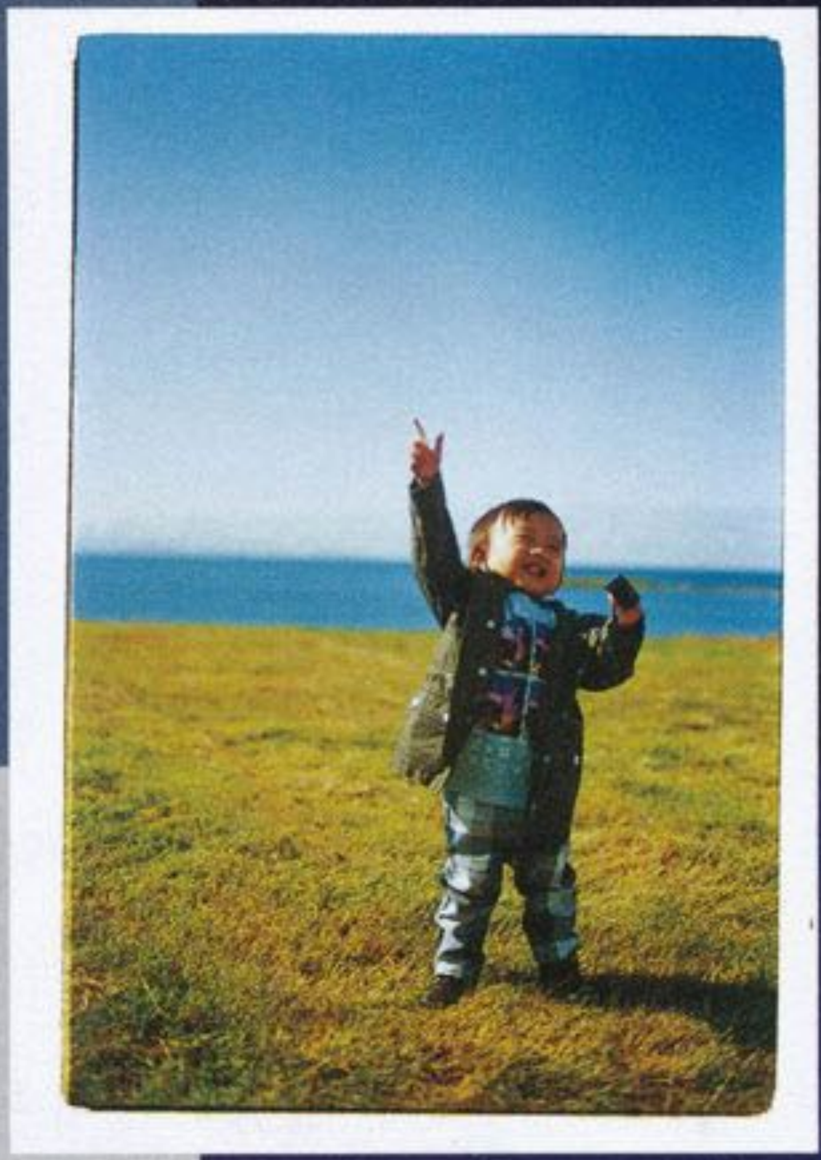
50周年記念で作られたビニールバッグ。どれもキュートで目移りしちゃう4種類の展開。ビニールバッグ各¥5,985、一番下にあるパッションピンクのバービバッグのみ¥4,200（全てBarbie）


Barbie™
50™
FIFTIETH
ANNIVERSA











ブルゾン¥8,190、Tシャツ¥3,465、シャツ¥5,040、パンツ¥6,090、ブーツ参考商品（ポール・フランク／ナルミヤ・インターナショナル）

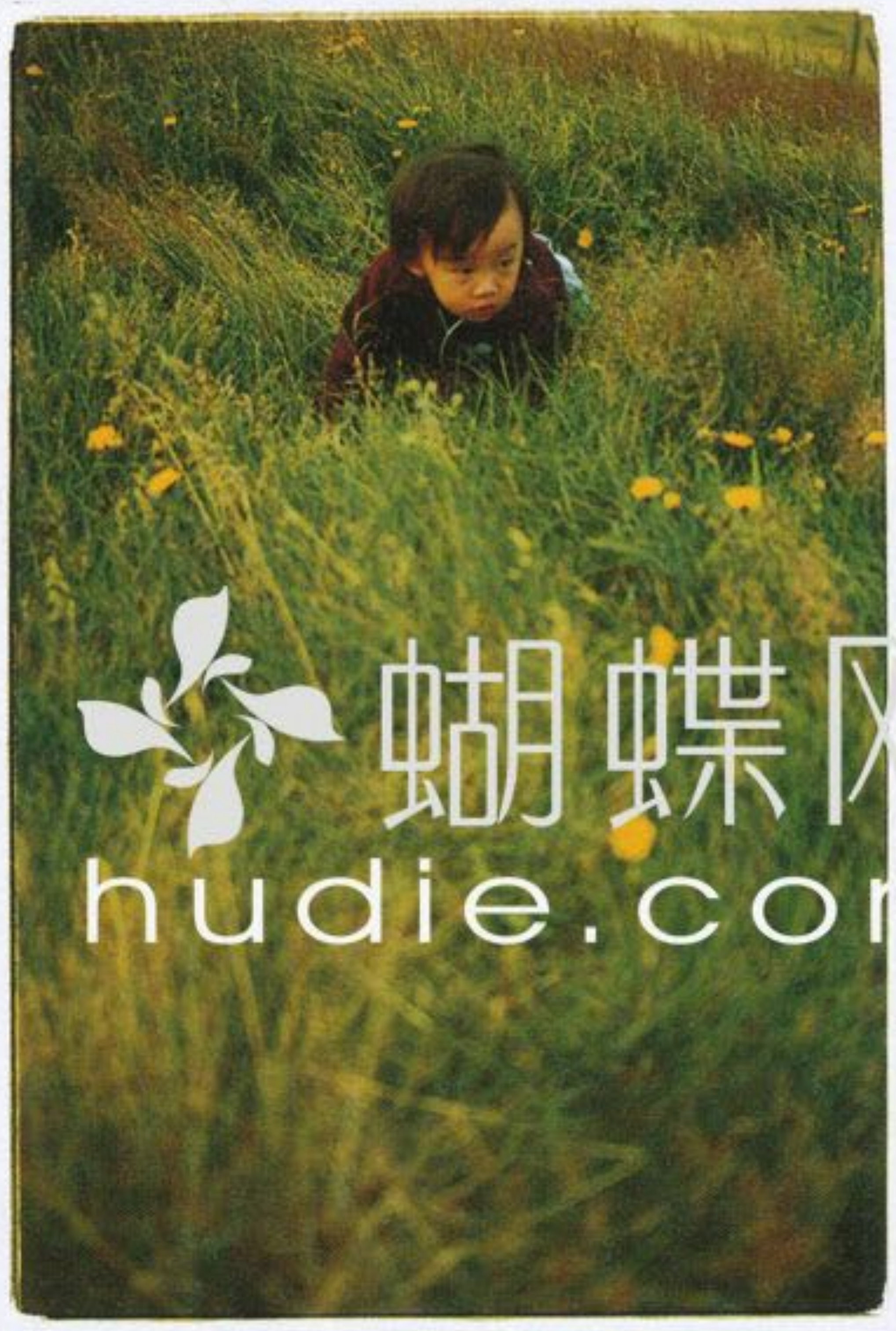
ポール・フランクで過ごすアイスランドな冬休み

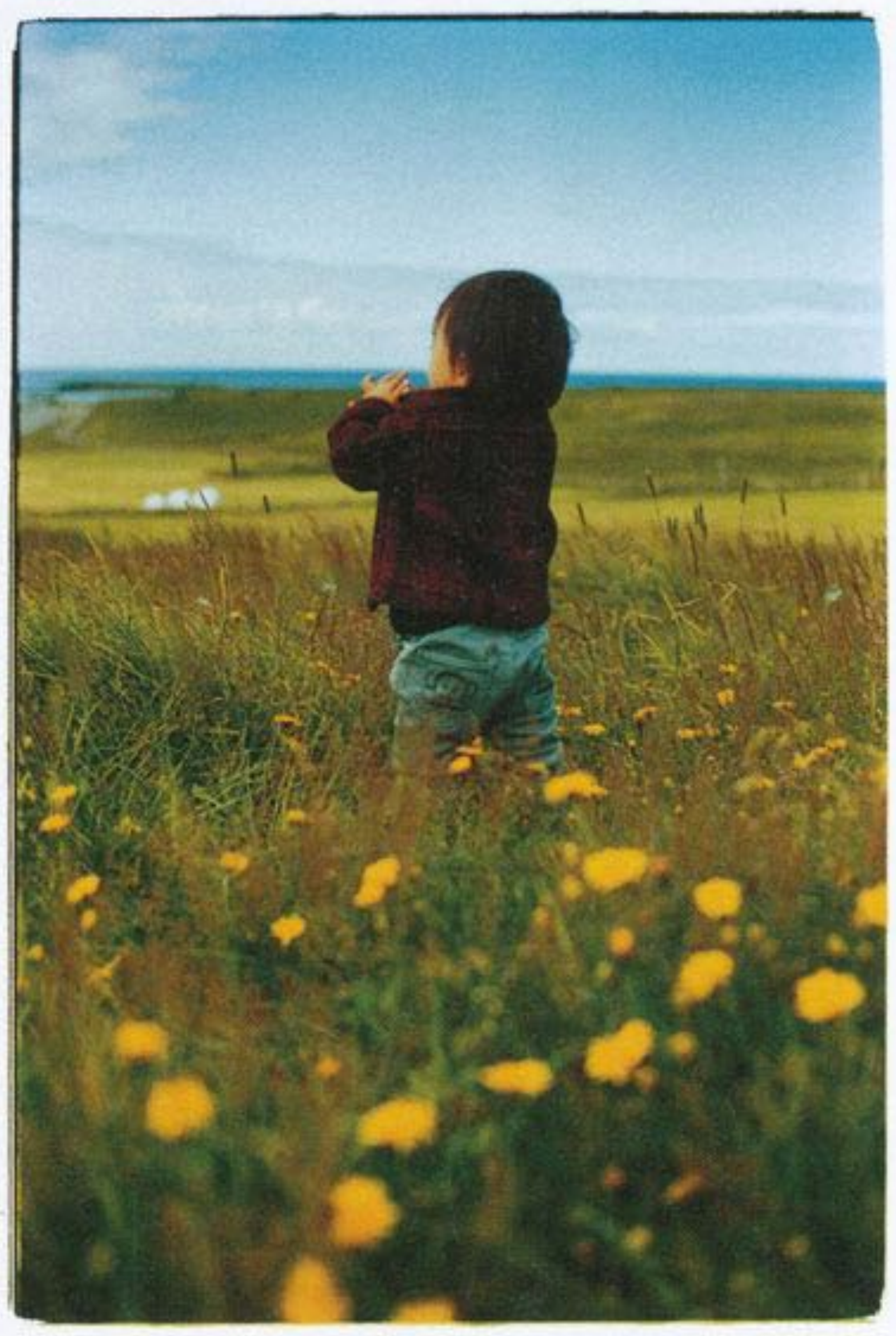
Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star) Model: SHU

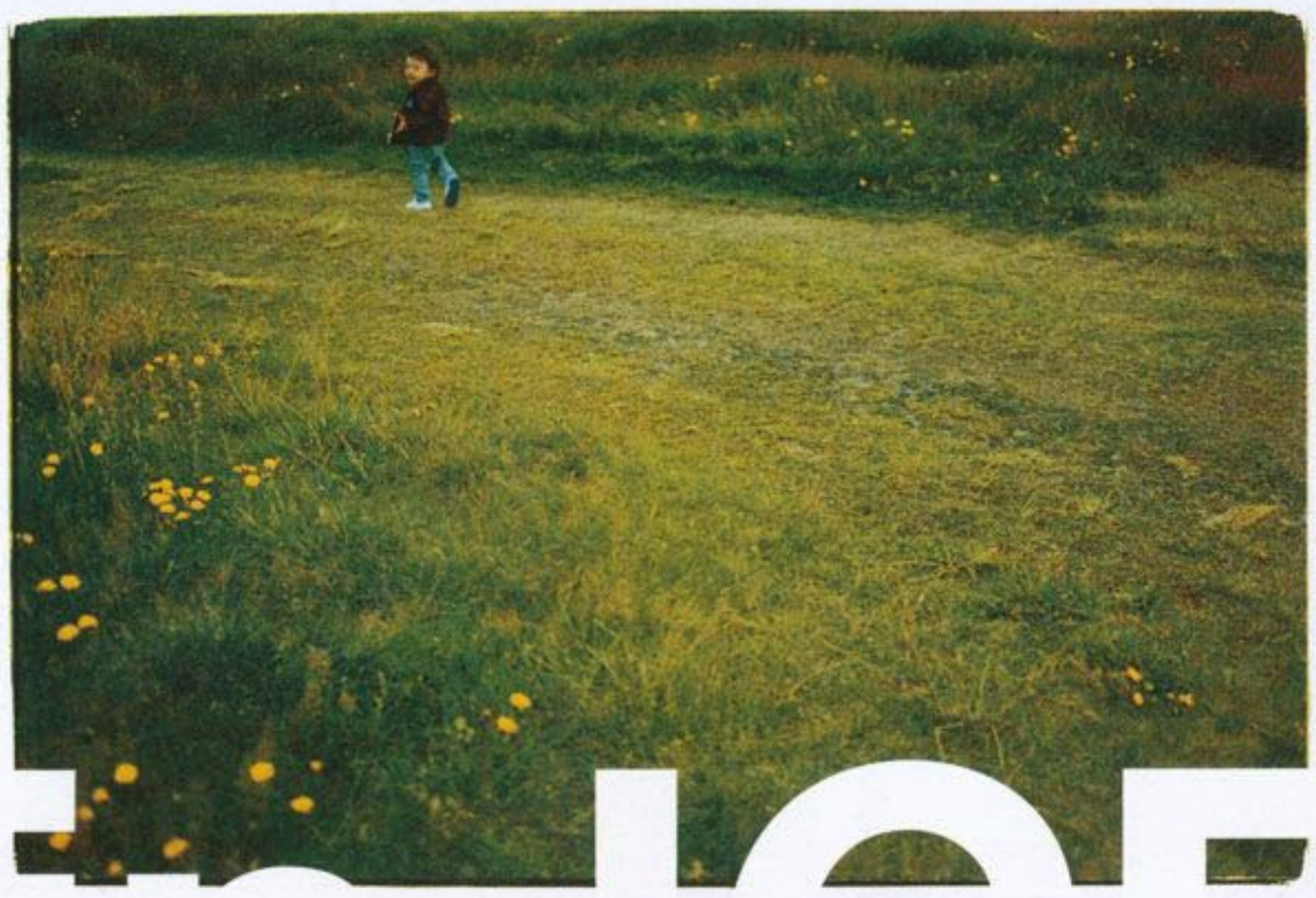
LIBERTY BO



ジャケット¥10,290、Tシャツ¥2,520、パンツ¥5,040、スニーカー参考商品（ポール・フランク／ナルミヤ・インターナショナル）

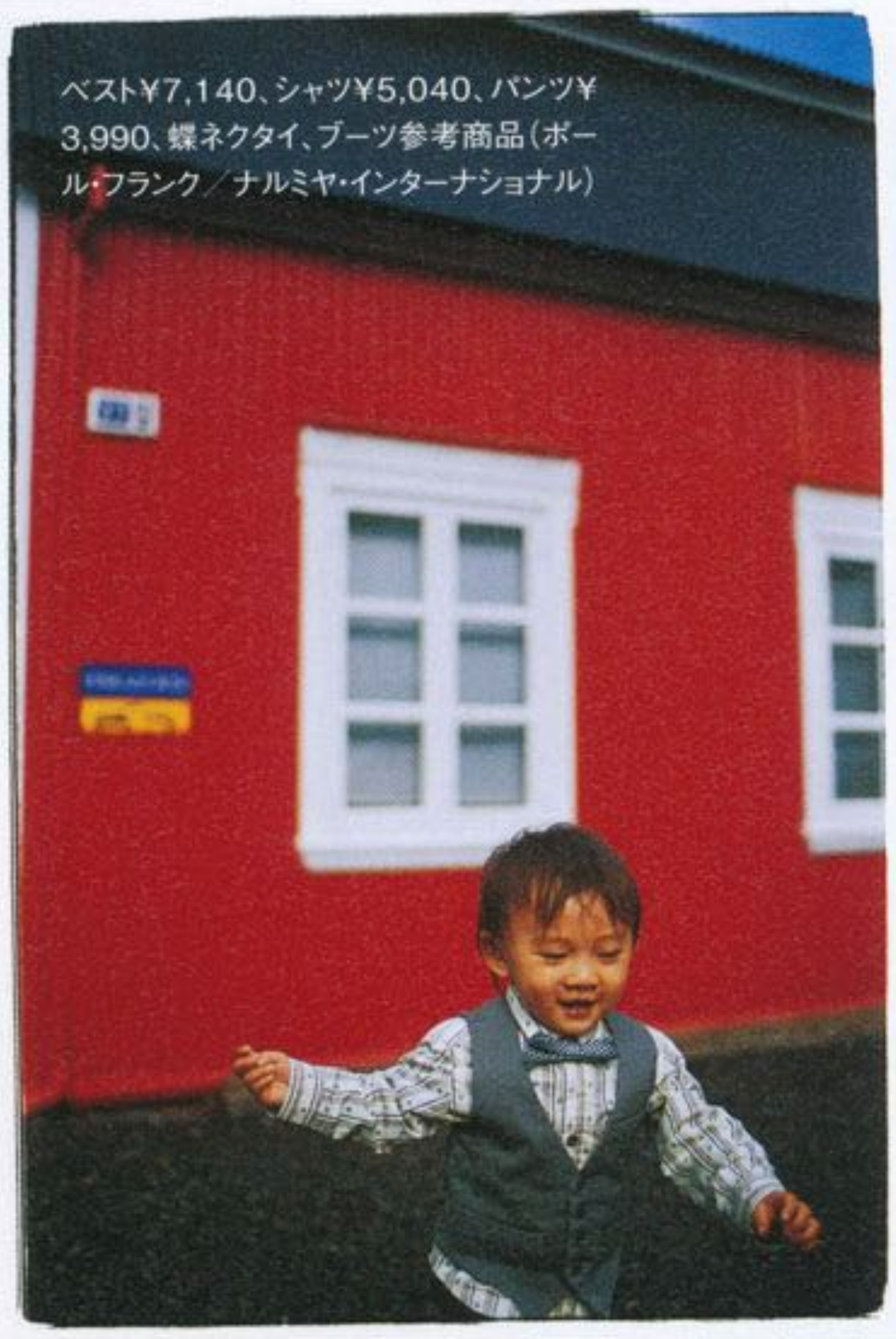






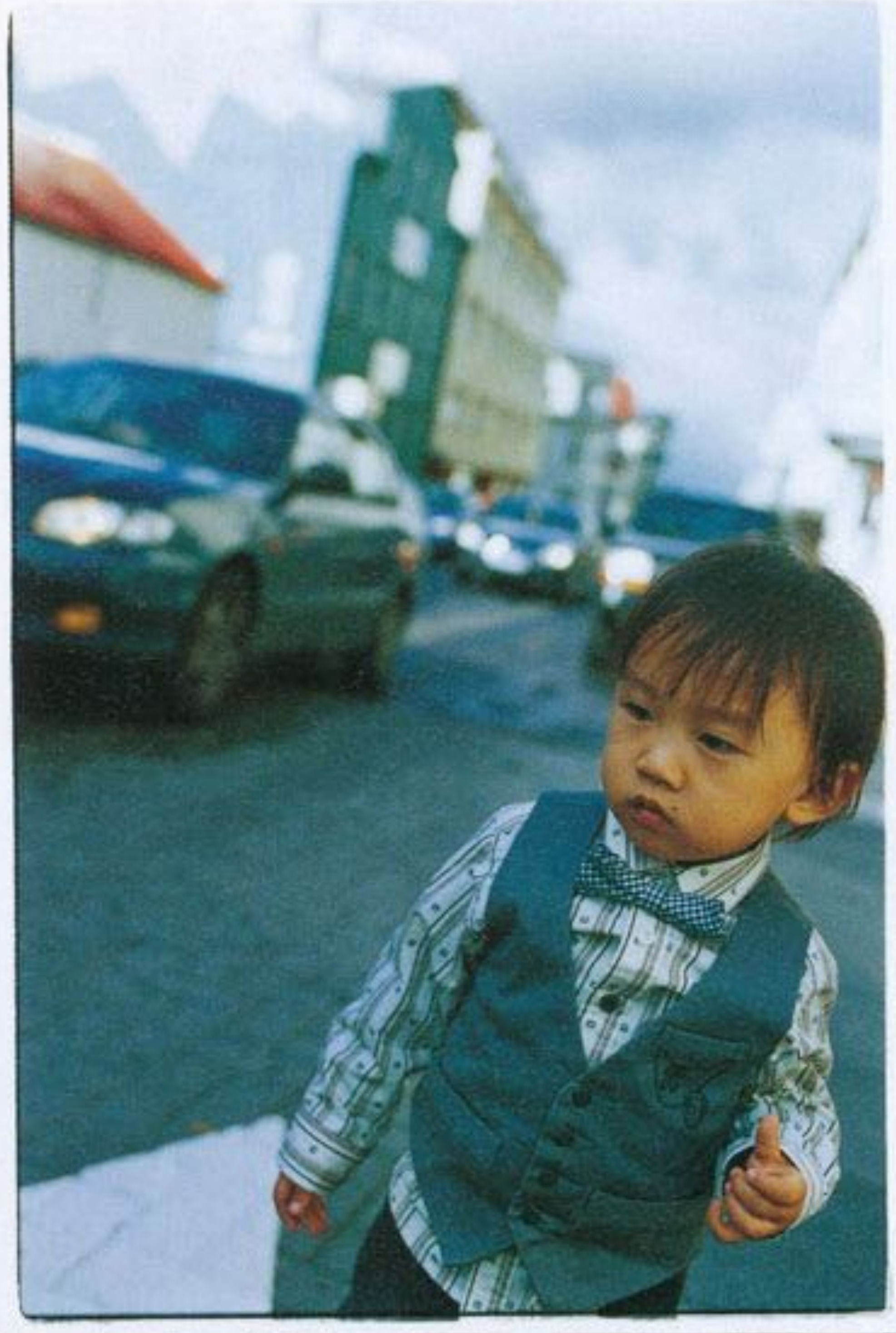


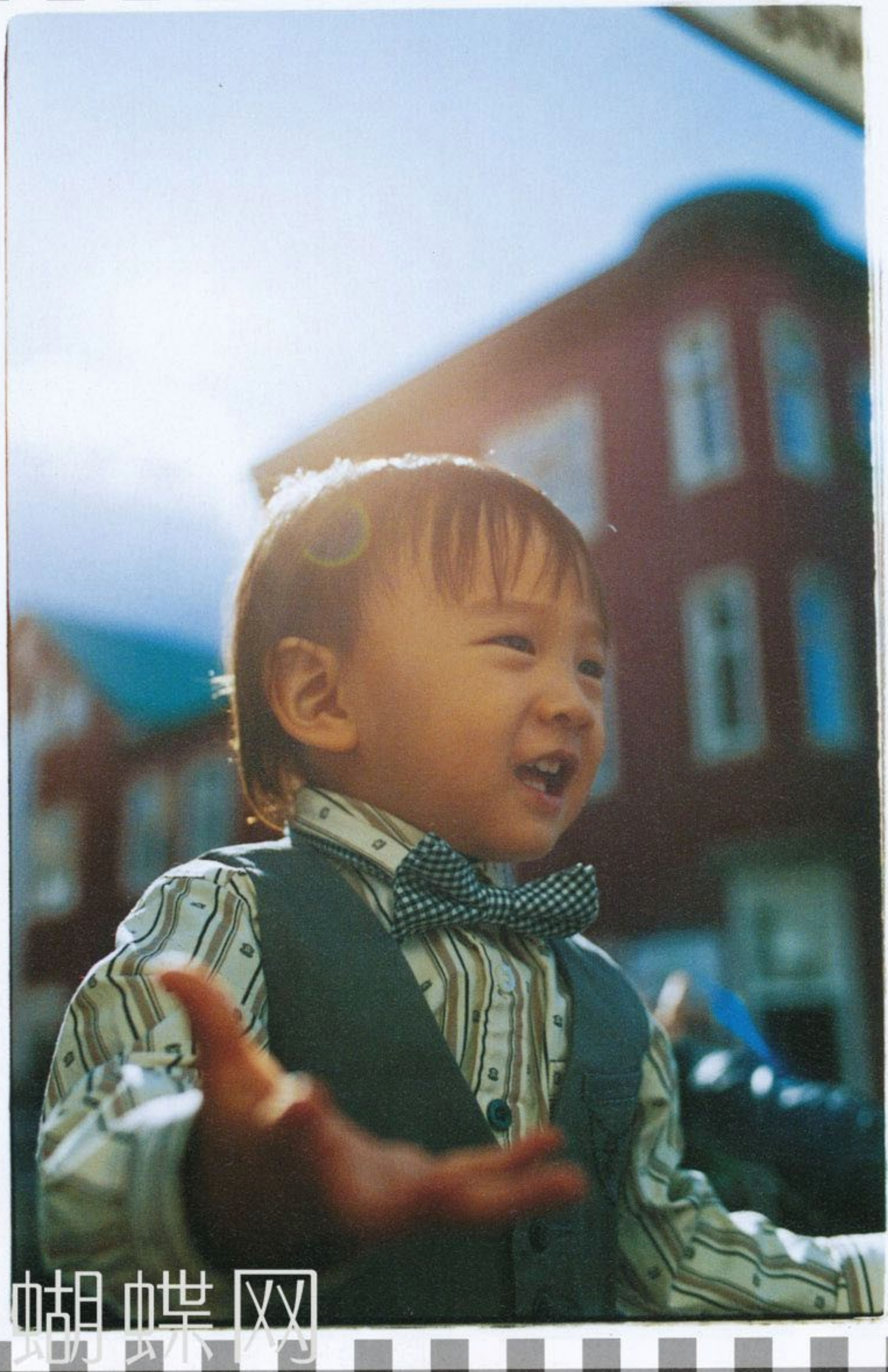
in ICELAND

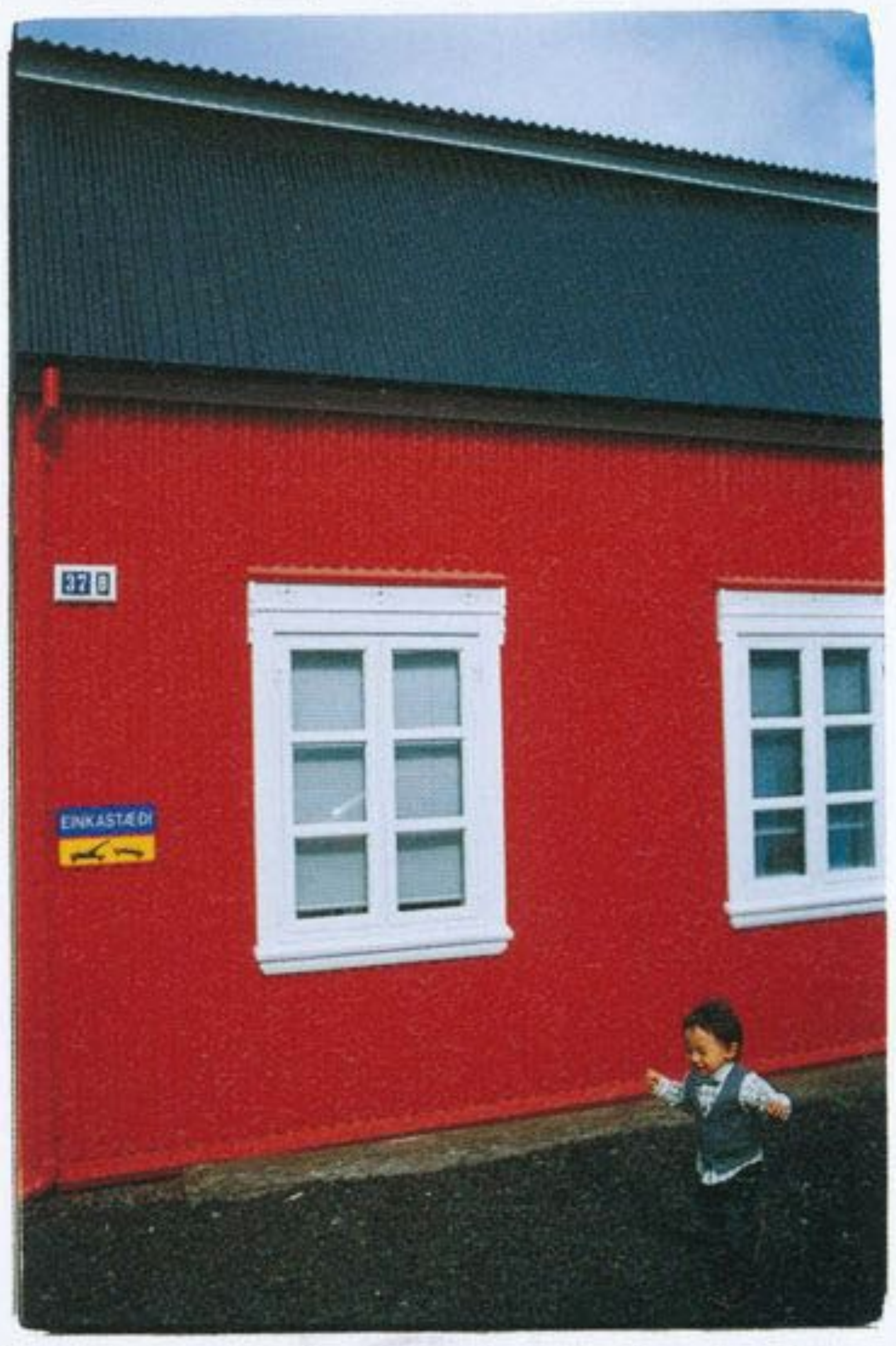


ベスト¥7,140、シャツ¥5,040、パンツ¥3,990、蝶ネクタイ、ブーツ参考商品（ポール・フランク／ナルミヤ・インターナショナル）

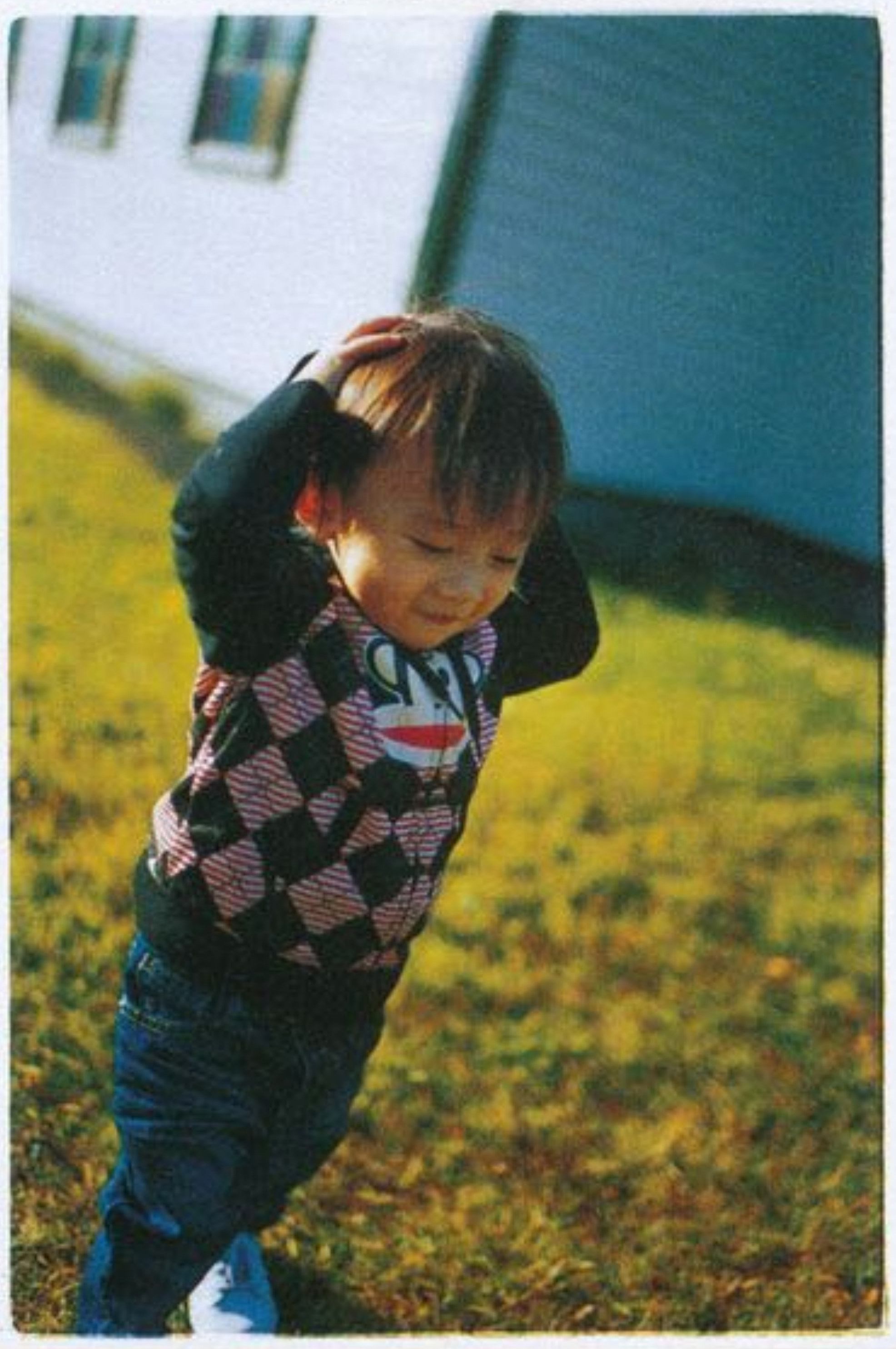


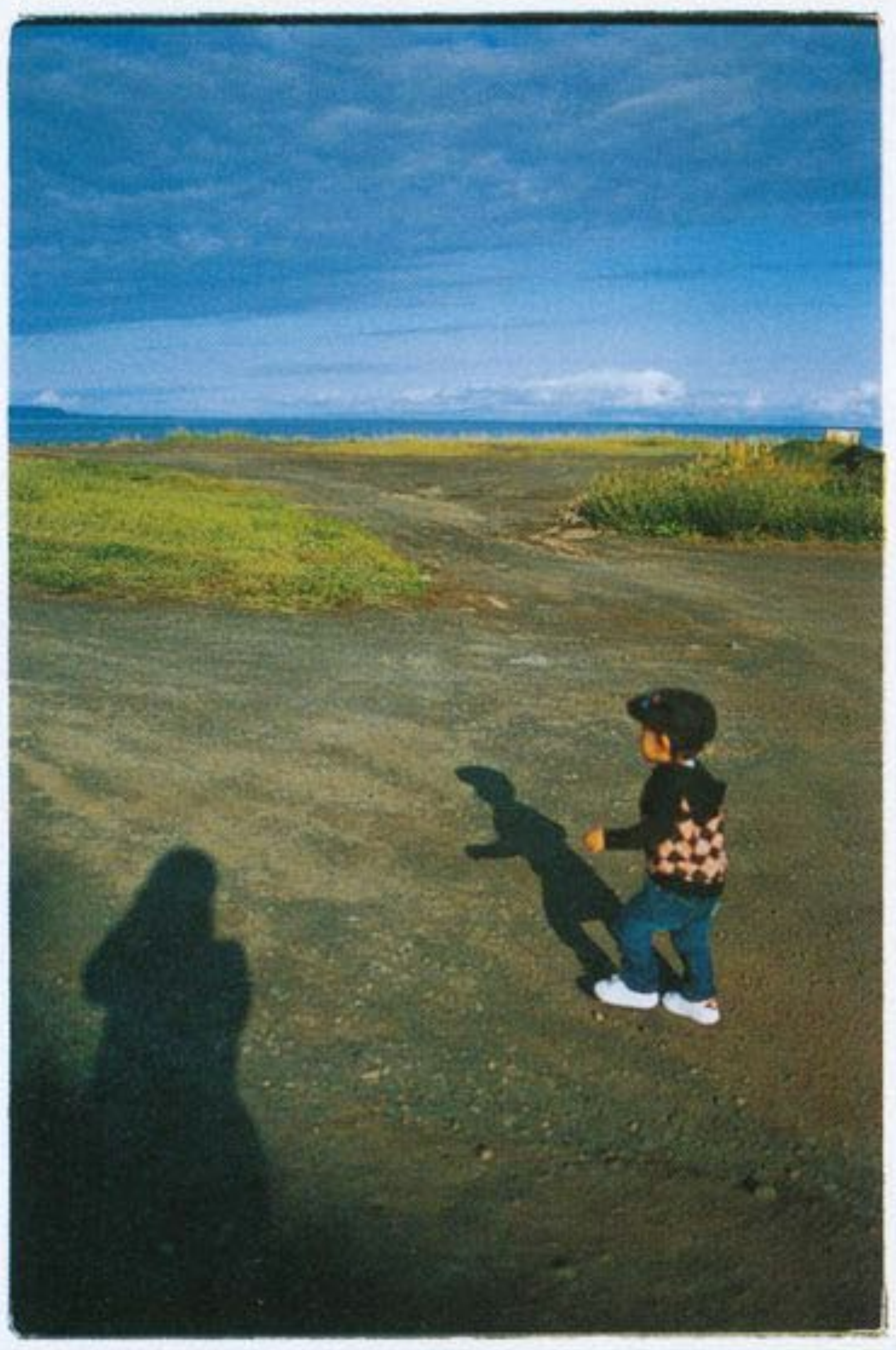


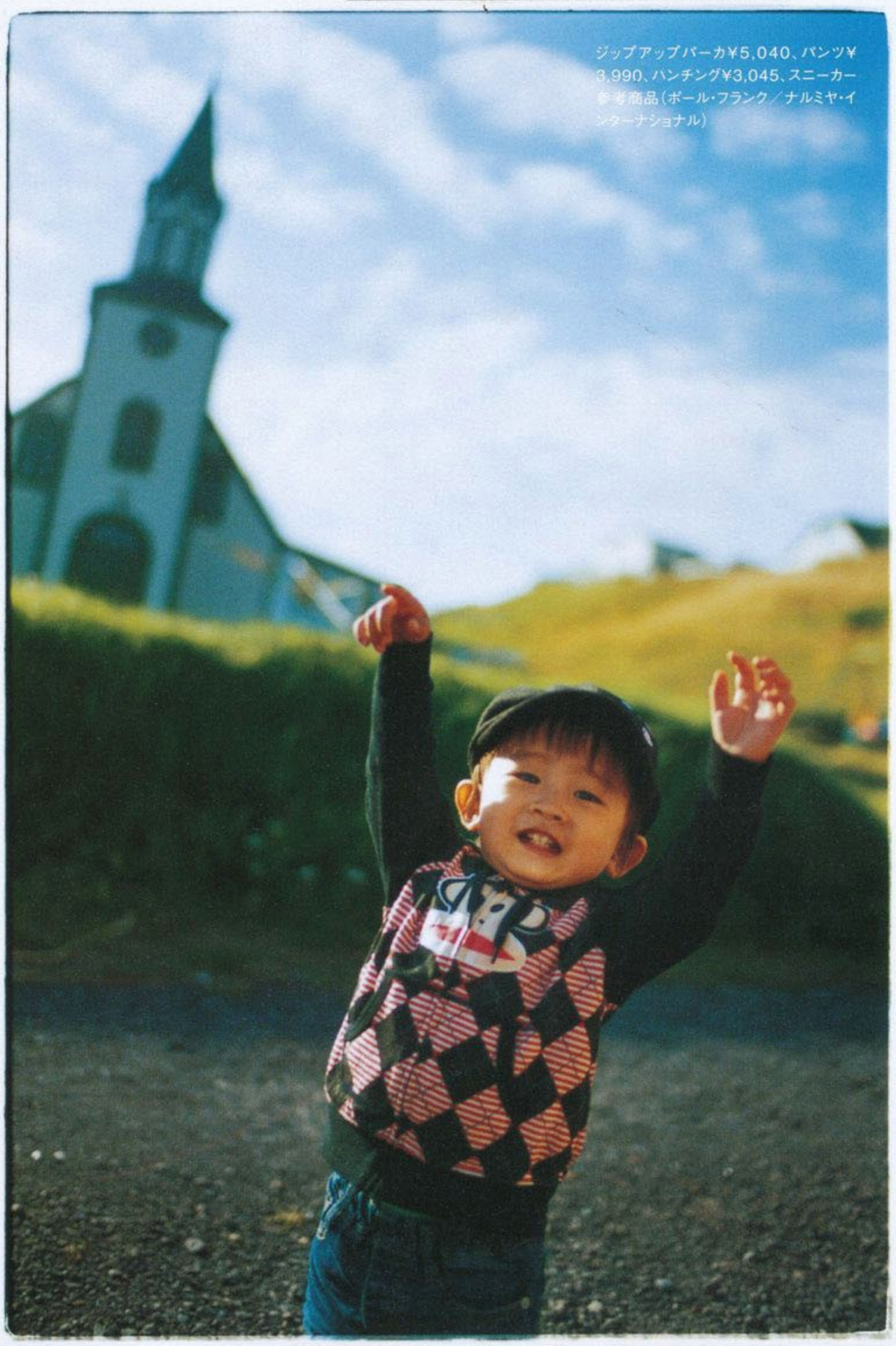






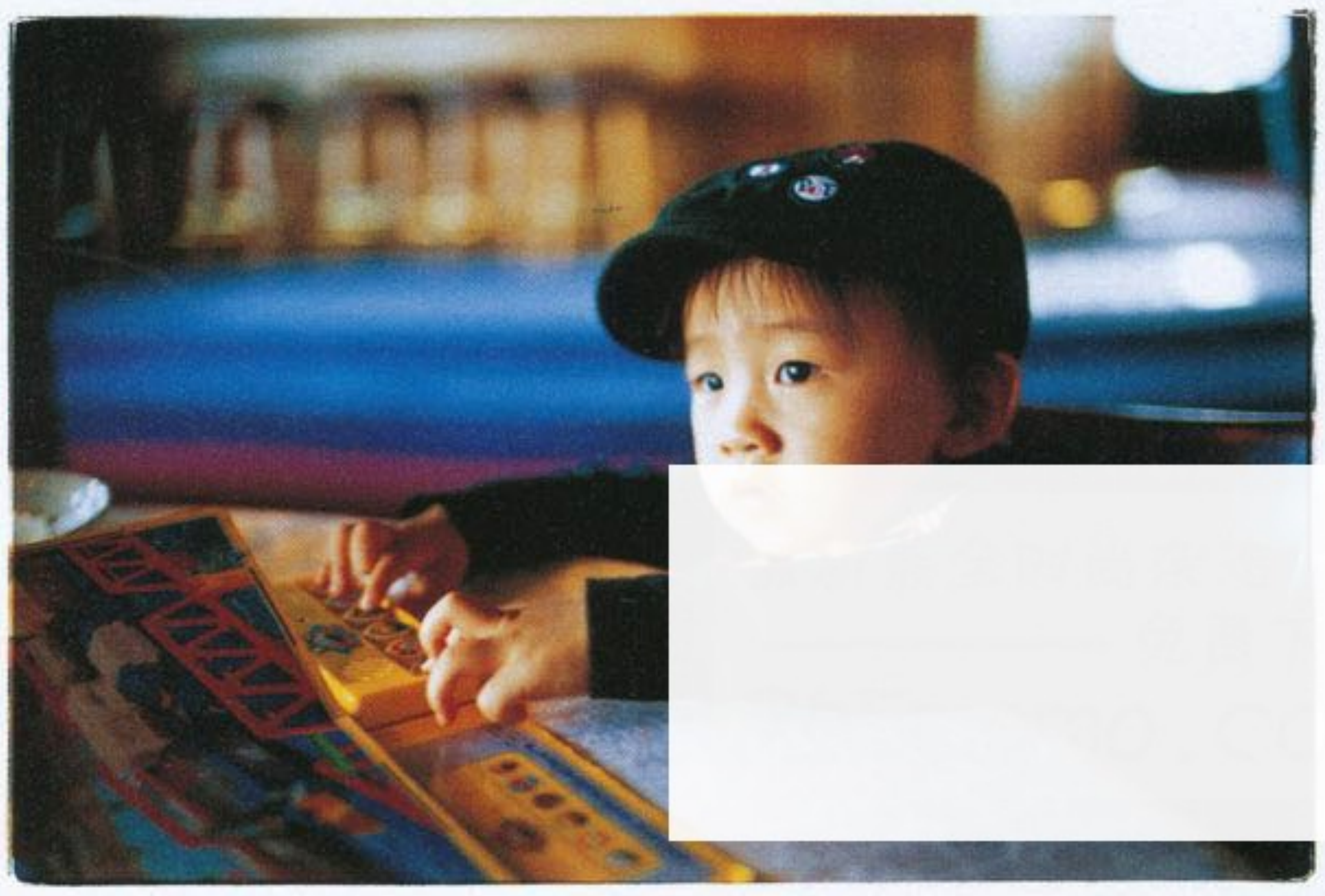






ジップアップパーカ¥5,040、パンツ¥3,990、ハンチング¥3,045、スニーカー参考商品（ポール・フランク／ナルミヤ・インターナショナル）







leather jacket ¥115,500
(URBAN RESEARCH iD×KEITH AND THOMAS/
URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA),
parka ¥14,700 (URBAN RESEARCH iD×SURD/
URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA),
pants ¥10,500 (URBAN RESEARCH iD×DENIMSUCKISS/
URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA),
others stylist's own


M boy



溝端淳平

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: KENJI NOTOMO
Hair&make-up: ShinYa for SHINYA salon (PRIMAL)
Model: JUNPEI MIZOBATA

URBAN RESEARCH iD × MIZOBATA
INTERSPACE *for* BAROQUE

jacket ¥46,200 (URBAN RESEARCH iD×GB Sports/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *pants* ¥10,290 (URBAN RESEARCH iD×Wilson/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *shoes* ¥27,300 (URBAN RESEARCH iD×CAMINANDO/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *others stylist's own*



blue shirts ¥17,850 (URBAN RESEARCH iD×MHL/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *striped shirts ¥15,750* (URBAN RESEARCH iD×BEATITUDE/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *pants ¥15,540* (URBAN RESEARCH iD×ATESPEXS/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *shoes ¥17,850* (URBAN RESEARCH iD×SPRING COURT/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *belt ¥3,675* (HAWK/ URBAN RESEARCH SHIBUYA), *others stylist's own*



all (URBAN RESEARCH iD×SCYE/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *cardigan ¥13,650* (URBAN RESEARCH iD×ROSSO/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *shirts ¥13,650* (URBAN RESEARCH iD×B.D.BAGGIES/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *belt ¥7,140* (HAWK/URBAN RESEARCH SHIBUYA), *shoes ¥17,850* (URBAN RESEARCH iD×SPRING COURT/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *others stylist's own*

knit ¥10,290 (URBAN RESEARCH iD×
DREAMING OF THE SHINING STARS/
URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA),
pants ¥18,690 (URBAN RESEARCH iD×MADE IN ITALY/
URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA),
neckwarmer ¥9,240 (URBAN RESEARCH iD×Rohw/
URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA),
shoes ¥16,590 (URBAN RESEARCH iD×maccheronian/
URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA),
others stylist's own





『Mgirl』編集部（以下、M）: 『ブザービート』、そろそろクランクアップですか?

溝端順平（以下、溝端）: 明後日くらいです。『ブザービート』は共演してる人がみんな年上だから、基本現場ではいじられてましたね。本当の僕以上に子どもになってました（笑）。もともと子どもですけど。

M: 溝端さんはどういう性格なんですか?

溝端: うーん、甘えたがりで、冷静なタイプではないかも。周りからはアツいヤツって言われますね。あとは、単純……かな。思ってることがすぐ顔に出るし、短気だし、負けず嫌いだし、ちっちゃいこと気にするし。でもプラス思考です。その日は落ちるんだけど、次の日目が覚めたら忘れてるみたいな。あとは、お喋り好き（笑）。毎月『JUNON』のインタビューが1時間半くらいあるんですけど、ずーっとしゃべってます。口に出すことで、自分の中で考えてることが整理できるんですよね。

M: 今日の撮影はいかがでしたか?

溝端: 楽しかったです! 最初緊張してたんですけど。やっぱり、初めてのスタッフさんばかりだったので。最初は皆さん、怖かったです（笑）。もう大丈夫ですけど。でもこんなオシャレな感じ、初めてだから新鮮でした。レザーのジャケットはちょうど今年の秋冬にデビューしようかなと思ってて。でも、レザージャケットってちょっと勇気がいるんですよね。今日着たスタジャンもいいですよね。欲しいなぁ。……いや、それにしても蜷川さんの写真すごいっすね。（前号のMgirlを見ながら）夏帆ちゃんとか衝撃です! 目が重そうだけど（笑）。いいな～。こういう作り込んだ撮影、僕もやってみたいです。

M: 最近の調子はどうですか?

溝端: 最近は……ぶっちゃけちょっと休みたいですね（笑）。ずーっとドラマやってたんで、休みという休みがなくて。毎年秋にお休みもらって、実家に帰ってたんですよ。去年も一昨年もそうだったから、今年もてっきりせめて3、4日くらいはゆっくりできると思ってたんですけど、いろんな仕事がかぶってきちゃって、とれそうもないんです（涙）。

M: NEWSの山下智久さんがインフルエンザで倒れられた時は、少しお休みできたんじゃないですか?

溝端: そうそう、山下さんのインフルエンザが発覚する前日のSET収録で、すき焼きを食べるシーンがあったんですけど、その時僕、同じ箸ですき焼き食べてたんですよ! だからもう絶対僕もかかったと思って、いつ発熱するかなーと思ってたぐらいだったんです。結果的には大丈夫だったんですけど。

M: オフの日は何してるんですか?

溝端: 友達とメシ食いに行ったり、友達を家に呼んだり……。

M: 趣味はありますか?

溝端: うーん、趣味ってなかなか続けられなくて難しいですね。まずは車の免許を取らないとと思ってます。免許取って、サーフィンとかやってみたいですね。モノ集めるのとかはできないんで（笑）。

M: ちなみに血液型は何型ですか?
溝端: A型です。よくB型っぽいとか言われます。飽きっぽいし、短気だし。あと、イライラがすぐ顔に出ちゃうんです。お腹空いてる時とか(笑)。僕、車で移動中に食べる移動メシが大っ嫌いなんですよ。だってメシって3食しっかり食べるべきだし、楽しく喋ったり、机に座ってあったかいもの食べるのが正しいと思うんですよ! 弁当を急いで食べてるのは、ただ胃に食べものを詰め込んでるだけで、食べた気がしないし。他のことではイラ立ったりしないんですけど、食事と睡眠がおろそかになるとダメですね。食は大事ですよー。モチベーションがけっこう変わったります。それくらいかな。あと、自分が合ってるのに怒られたりすると腹が立ちますね。まぁ、それは20歳ならではの若さだと思うんですけど(笑)。
M: 睡眠はちゃんととれてますか?
溝端: 最近はおろそかかもしれません。車の移動中は常に寝てって感じです。家帰ってからは、とりあえずゆっくりTV観たり、一服したりする"なごみの時間"がないと眠れないので、その分寝る時間も遅くなっちゃってます。僕、前世イタリア人とかフランス人なのかも(笑)。日本のカツカツな感じは嫌いですもん。
M: 素直でいいですね! 今後チャレンジしてみたいことは何ですか?
溝端: ちっちゃい野望ですけど、とりあえず免許持ちたいです。で、車乗ってサーフィンやりに行きたい。あと、地元の祭りに参加できたらいいな。「だんじり祭り」っていう、神輿を担いではっぴ着てやるような、血の騒ぐ感じの祭りなんですけど。
M: いいですね〜。お仕事でチャレンジしたいことは?
溝端: うーん、うーん、なんだろう……。大河ドラマの主役やってみたいですね! あとは月9主役。そしてハリウッド進出!! デカいこと言うとそんな感じです(笑)。
M: いいですねえ(笑)。そういえば、ラーメンがお好きなんですよね?
溝端: ラーメン、好きですね〜。
M: どこかオススメのお店ありますか?
溝端: 新橋にある、愛宕ってお店がうまかったです。カウンターに5、6人くらいしか入れないちっちゃいお店なんですけど。
M: 食の話になると、目の輝きが変わりますね(笑)。1番好きな食べものって何ですか?
溝端: うーん、3つくらいに絞ると、寿司と焼き肉とカレーかなぁ。あ、ラーメン入れると4つになっちゃう(笑)。
M: じゃあそろそろ……。
溝端: え! こんな話でよかったんですか?
M: 面白かったです。ありがとうございました。
溝端: ありがとうございました! また呼んでください!

溝端淳平 1989年6月14日生まれ。和歌山県出身。2006年度JUNONスーパーボーイ・コンテストにてグランプリを受賞。以降、TV、映画、雑誌などで活躍中。主なTVドラマ出演作に、「赤い糸」、「BOSS」、「ブザー・ビート〜崖っぷちのヒーロー〜」(フジテレビ)などがある。レギュラー司会を務める「誰だって波瀾爆笑」(日本テレビ)のほか、来年公開の主演映画「君が踊る、夏」も見逃せない。



jacket ¥15,750 (URBAN RESEARCH iD×LEE/ URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *pants* ¥12,600 (URBAN RESEARCH iD×J... / URBAN RESEARCH iD LUMINE MAN SHIBUYA), *shoes* ¥87,150 (STOKTON×Paraboot/ URBAN RESEARCH SHIBUYA), *others stylist's own*



瀬戸康史

Photography: MIKA NINAGAWA (Lucky Star)
Styling: KENJI NOTOMO
Hair&make-up: ShinYa for SHINYA salon (PRIMAL)
Model: KOJI SETO


UNiFAM × KOUJI SETO
RENCONTE GALATE

jacket ¥50,400 (Elephant Blanc/UNiFAM)
overalls ¥44,100 (LEH/UNiFAM)
t-shirts ¥5,145 (Dullard/UNiFAM)
sunglasses ¥18,690 (VERYNERD/UNiFAM)
others stylist's own



down vest ¥39,900, jacket ¥48,300,
gilet ¥27,300, pants ¥25,2000 all (n-s/UNiFAM)
shirts ¥15,750 (ACTS OF FAITH/UNiFAM)
others stylist's own



pants ¥18,900 (Elephant Blanc/UNiFAM)
others stylist's own

LUIET UNE DATE



jacket ¥61,950, shirts ¥21,000
(DIRAIN/STUDIOUS SHI
cardigan ¥15,750 (DUCK&COVE
pants ¥18,900 (wizard/STUDIOUS IBUYA)
belt ¥6,090 (STUDIOUS/STUDIO SHIBUYA)
others stylist's own



knit ¥25,200 (bexist/
bexist LUMINE MAN SHIBUYA)
gilet ¥8,295 (Casper John/
Casper John LUMINE SHIBUYA)
[illegible]ps ¥13,[illegible] (DIR[illegible]/
STUDIOUS SHIBUYA)
pants ¥9,[illegible] (STUDIOUS/
STUDIOUS SHIBUYA)
others stylist's own



M:girl編集部(以下、M): どうでしたか? 今日の撮影。

瀬戸: 髪型が新鮮でした! いつもは前髪下ろして可愛い感じのスタイリングが多いので。今日のコーディネイトもどれも好きでしたね。つなぎも可愛かったし、ヒョウ柄のカーディガンもよかったし。唯一残念だったのは、撮影の時に象がなかなかこっちを向いてくれなかったことかな(笑)。

M: 最後の方はこっち向いてくれてましたよ! 最近の瀬戸くんの1日ってどんな感じなんですか?

瀬戸: 「モンハン」(モンスター・ハンター)がやめられなくって。休みの日に12時間ぶっ通しでやったりしてます。そのあとDVD見たりとか。あとは『ONE PIECE』を読み返すっていう。

M: インドア派ですね(笑)。

瀬戸: かなりのインドア派です(笑)。

M: 『ONE PIECE』面白いんですか?

瀬戸: めっちゃ面白いです! 俺が5歳の時に連載がはじまって、人生変わりましたね。主人公がルフィっていうんですけど、そいつの生き方とか考え方とか、人間性が好きです。すごく器がデカくてかっこいい。作者の尾田先生は鳥山明さんに憧れてたみたいなんですけど、アクションでは鳥山さんに勝てないからストーリーでいこうって『ONE PIECE』を作ったらしいんです。ストーリーも伏線がたくさん張ってあって面白いです。

M: DVDはどんなジャンルが多いんですか?

瀬戸: 基本は何でも観ますよ。洋画が多いけど、ディズニーとか『人志松本のすべらない話』とかも観るし(笑)。他には……いつも俺、何やってたっけ(笑)。買い物も行きたいですね。今いろんな柄のシャツが欲しくって。上までボタンを留めて、蝶ネクタイとかしたり。

M: さっきの撮影で蝶ネクタイ付けてましたよね? お似合いでした。瀬戸さんのデビューのきっかけは?

瀬戸: 実は両親がこっそりオーディションに応募していて、最終選考まで残ってたから、「ここまで来たら、いっちょやっとくか!」みたいな。それが17の頃です。中学くらいまでは獣医になりたかったんですよ。

M: なんで獣医になりたかったんですか?

瀬戸: 動物が好きなんです。ムツゴロウさんの仲間になりたいと思ってましたもん(笑)。特にカメレオンが一番好きです。

M: 変わってますね(笑)。

瀬戸: 最初に出させてもらったのはドラマだったんですけど、その助監督さんがすごい怖くて、ホームシックだし、怒られるし、その時はほんと早く帰りたいと思ってました(笑)。

M: なんで耐えられたんですか?

瀬戸: 俺長男なんですけど、両親的には、やっぱり東京に行かせたくなかったというか、地元に残って欲しかったと思うんですよ。それでも行かせてくれたっていう。そういう親の想いを感じて、頑張ろうって思って。

M: まじめですね～。自己分析すると、瀬戸さんはどんな性格なんですか?

瀬戸: マイペースだと思います。人に流されない。あと、短気(笑)。表には出さないですけど、たまにルールを守れない人とかいるじゃないですか。そういう人にイラッときちゃって(笑)。でも、その時に『ONE PIECE』のルフィを思い出すんですよ。「ルフィはあんなに心が広いのに、俺は狭い! こんなんじゃダメだ!!」みたいな(笑)。

M: 『ONE PIECE』効果、すごいですね(笑)。

瀬戸: ほんとですね。『ONE PIECE』が10周年たった時に、『ONE PIECE』本が出たんですよ。その時ルフィとしてグラビアに出させてもらって、めっちゃ嬉しかったです。で、ルフィの声優さんとも対談させていただいて。ドラゴンボールのクリリンと一緒の方なんですよ。日曜日なんて『ドラゴンボール』のあとに『ONE PIECE』やってるから、クリリンとルフィ両方やってるんですよ(笑)!

M: ちなみに地元はどこ?

瀬戸: 福岡です。僕がいたとこは、ちょっとガラが悪いところで、ヤンキーとかがいっぱいいました(笑)

M: 『リアルクローズ』の世界っぽいですね(笑)。

瀬戸: でもメシもうまいし、いいとこですよ。人があったかいし。

M: 役者としての最近はいかがですか?

瀬戸: 楽しいですよ! いろんなことに挑戦出来るじゃないですか。役者だけにはとらわれたくないっていうか、何でも挑戦したいんですよね。歌ったりデザインだったり、いろんなことやりたいなあって。歌はライダーの時にちょっとやらせていただいたんですけど。1年間だけ、TETRA-FANGっていうバンドを結成して、国際フォーラムで歌わせてもらったりして、気持ちよかったですね。いろいろやっていく中で、それを役者の仕事に繋げていきたいです。

M: 座右の銘は何ですか?

瀬戸: 今は……「親孝行」ですかね(笑)。やっぱもう、21なんで。親を温泉に連れてってあげたりしたいです。あと、テレビにもっと出られるようになるのも親孝行なのかなって思ってます。

M: まじめですね～。マイペースで、まじめで、短気で……。

瀬戸: あと、亭主関白(笑)。

M: 「女の人は家にいてほしい」的な感じですか?

瀬戸: そうですね(笑)。早く結婚したいですね。めっっっちゃしたい(笑)。あと、子どもが欲しいです(笑)。

M: えぇ～っ! 早すぎませんか(笑)?

瀬戸: 田舎はもっと早いですよ。この間初恋の人ができちゃった結婚して、めっちゃショックでした。あんな純粋だったのに(笑)。なんか、娘が欲しいんですよね。娘の顔が見てみたい。どんな顔してんだろうって。だから、早く結婚したいです。

M: 今、瀬戸さんの恋愛事情はどうなんですか?

瀬戸: 恋してないですね～。外に出ると、危ない誘惑が待っていそうっていうのもあって、引きこもりがちになってるっていうのもあるんです(笑)。

M: 誘惑って!?

瀬戸: 東京って怖いじゃないですか。人も多いし。福岡と違った怖さみたいなのがあって。1人でいる方が楽ですし(笑)。「ハタチなんだから遊んどけ」とか言われるんですけど、もう遊びたいとも思わないし。男友達とか年上の人といる方が楽ですね。

M: お酒はいけるクチでしたっけ?

瀬戸: 飲めないんですよ、俺。九州男児なのに。(笑)。でも、飲めるようになりたいですよ。皆中学校くらいからお酒とか飲んでるじゃないですか。俺だけカルピスですもん(笑)。めっちゃ切ないです。お酒を飲む場は好きなんですけどね。

M: 1日に何時間くらい睡眠とってるんですか?

瀬戸: そうですね、モンハンやりすぎた時は1時間半とかですね。それでも現場で一番元気です(笑)。あんまり寝なくても平気。『恋空』とライダーやってた時は3分睡眠だったんですよ(笑)。

M: アドレナリン的なものが出てそうですね。

瀬戸: そうですね。仕事が楽しいから。

M: 今日はありがとうございました!

瀬戸康史　俳優。1988年5月18日生まれ。福岡県出身。2005年第2回D-BOYSオーディションで準グランプリを受賞。ミュージカル「テニスの王子様」に出演し、注目を浴びる。2008年には「仮面ライダーキバ」(テレビ朝日)、「恋空」(TBS)で主演を務めた。現在はドラマ「オトメン(乙男)」(CX系列10月より毎週火曜21:00〜)をはじめ、CM、映画、雑誌等で幅広く活躍中。



jacket ¥17,850 (bexist/ bexist LUMINE MAN SHIBUYA)
cardigan ¥4,725 (Casper John/ Casper John LUMINE SHIBUYA)
denim ¥15,540 (FROG DENIM/ Casper John LUMINE SHIBUYA)
others stylist's own

「渋谷に現わる、男のルミネ!!」



秋の訪れとともに、渋谷に誕生したのは、ルミネ初のメンズ館。その名も「LUMINE MAN」。若者男子に向けた初のメンズ館のコンセプトは「渋カジ復活」。現代サブカルチャーの発信地である渋谷で、感度の高い男の子達の集まるNEW SPOTになること間違いなし!! そんなLUMINE MANで、より磨きをかけてくれる、注目SHOPのSTAFFのみなさんに聞いた、今秋一押しアイテムと注目ファッションを一挙大公開!!

Photography: Sachi Kataoka (PPI)

LUMINE MAN SHIBUYA OPEN!!

RIMLETH by arenot
03-6416-9979

高橋遼平さん
21歳



1F

デザイン性の高いインテリア・雑貨を扱う、arenotがプロデュースする男性の為の雑貨店。普段から感度の高いインテリア雑貨を扱っている高橋さん、ダークカラーでお部屋をまとめたいそう。

MUST BUY



イタリア・日本の熟練した職人の手仕事による革製品を主としたブランド、「CRAFTWORK PRODUCTS」の使い込む程、艶やかな味がでてくるカードケース各¥5,040(CRAFTWORK PRODUCTS/RIMLETH by arenot)



Revelations/
03-3463-6127

川野辺 隆さん
33歳



2F

日本のサブカルチャーを通してメディアMIXのスタイルを提案するRevelations/。漫画家「永井豪さん」とのコラボアイテムに注目。店内には原画やデビルマンのフィギュアも!店長の川野辺さんは、今季サイクリングファッションに挑戦したいそう。

MUST BUY



彼女と一緒に着てもOK♡アウトドアとエレガンスが融合した上品なファーベスト¥28,350(Giacometti/Revelations/)



UNiFAM
03-3463-6521

松家啓太さん
23歳



2F

テーマは「ジャパンクリエイティブ」。日本デザイナーやメイドインジャパンをメインに新たなストリートファッションを提案するUNiFAM。マストバイのT.H.E.との別注アイテムはUNiFAMでしか買えないので要注目!!

MUST BUY



幾何学プリントに細身のシルエット、変形した裾がポイントのカットソー¥16,800(UNiFAM)



URBAN RESEARCH iD
03-6416-9766

2F

村松敏也さん
28歳



アイデンティティある服をユーモラスなアイディアで提案するURBAN RESEARCH iDからは、新たな価値を復活させる「RE-bilt」とのコラボレーションアイテムにも注目！ スタジャンで今年の冬を乗り切りたい!!と店長の村松さん。

MUST BUY



オールシーズンOKなRe-biltとのコラボパーカー各¥13,650（URBAN RESEARCH iD×Re-bilt/ URBAN RESEARCH iD）



Casper John
03-3463-5182

3F

須藤征典さん
21歳



その時代の等身大の自分のスタイルを確率し表現するブランド、Casper John。今秋はボヘミアンとロックモードで、デイリーでも個性の光るコーディネートを提案。アースカラーのボヘミアンとワークスタイルのMIXコーデを取り入れたいと須藤さん。

MUST BUY





「FREQUENCY」コラボジャガードカーデ¥10,290、「Harlem Rounge」コラボレザーブルゾン¥33,600（ともにCasper John）



STUDIOUS
03-5456-1150

3F

折橋豪さん
23歳

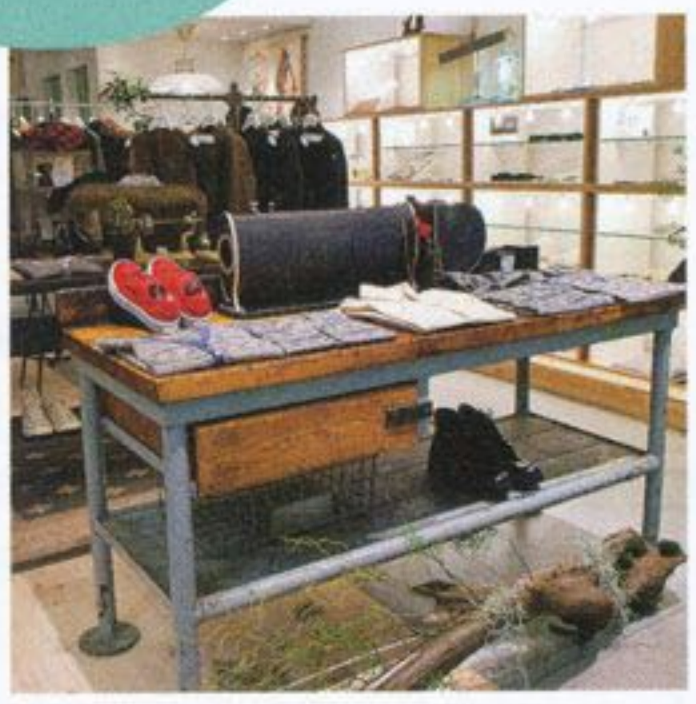
日本初ブランドを世界に発信する新世代の新感覚セレクトショップSTUDIOUS。今シーズンはフェアアイル柄のカーディガンなど、羽織ものが必須です。店長の折橋さんは、今季今まで着た事のない"豹柄"に挑戦したいそう。



MUST BUY



SHREEFのブルゾンはショート丈でちょっと可愛いデザイン。¥52,500（SHAREEF /STUDIOUS）



EROTICA
03-5456-3133

3F

田辺恭輔さん
25歳

ファッションとしてのアイウェアを提案するEROTICA。スタイリスト野友健二さんのブランド「rage」とのコラボモデルやEFFECTORとのコラボフレームにも要注目!! ストリートと'80sファッションを自分なりにアレンジして挑戦したいと田辺さん。



MUST BUY



スパイスの聞いたエッジーなフレームで知的な印象。マットな質感も艶っぽい。¥23,100（LESS By Less Than Human /EROTICA）



bexist
03-3770-0791

3F

平野雅人さん
28歳



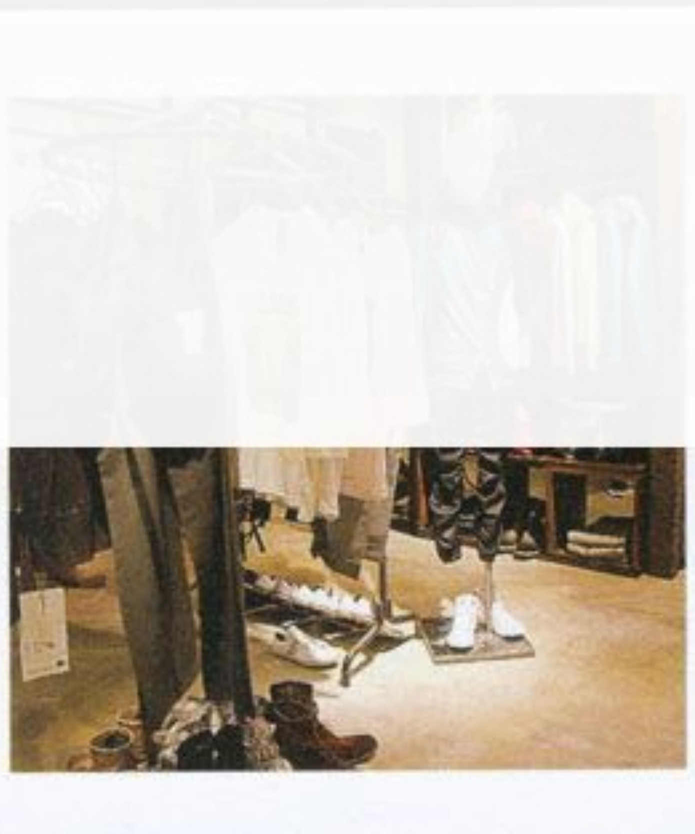
武骨さと繊細さとが共存するクリーンなモードを追求するオリジナルとセレクトで構成するbexist。長年着込んだ様なエイジング感を味わえるレザーアイテムがお勧め!! 今季は"武骨なイメージ"でスタイリングを楽しみたいと平野さん。

MUST BUY





格段に男度を上げる、シープスキンWプレストのライダースブルゾン¥55,650、MAGINEとのコラボスニーカー¥16,590（ともにbexist）



MIKA(以下M): 今、仕事は何をやっているの?

AZUMA(以下A): ミッドタウンで展覧会をやるんですよ。グループ展なんですけど、それに向けて準備をしています。

M: いろんなお花を取り扱う人と仕事をするけど、東くんが持ってきてくれる花って他の人がつくる花と全然違うんだよね。身近なものなのに、こんな見せ方があるのかって素直にすごく感動する。花そのものには感動することはあっても、誰かの手が加わったものに対してはそんなに素直に感動できないんだけど、こんな表現があるのねっていつも驚かせられる!

A: ありがとうございます! 特に意識しているというよりは、実験的なことを日々繰り返してやっている感じですかね。花っていうのはもともと野に咲いているもので、そこにあることがすでに最高に美しい。だからそれを認めつつ、そこに手を加えるからにはやっぱり、その自然界に存在する以上のものを作らないといけないなっていう思いがあるんで。そういう花への想いですかね。

M: 本当に、いちいち感動するっていうか。こないだ出産祝いで送ってくれた白い花も本当に衝撃的で。シンプルな白い花と白い容器だけの限られた素材の中で、あの潔さはすごい。本当に感動した!

A: ゆりを真ん中に一輪入れたんだよね。

M: そう! そういうシンプルなことってすごく難しいと思うんだけど、圧倒的でその存在感が。すごかったんだよね〜。あと、引っ越しのときに東くんが送ってきてくれた花輪! このセンスっていったら、もう最高!

A: うけるでしょ! 僕、花輪ってすごく興味があってリアルに花でつくるものもあったんですけど、これを見つけて、これは買いでしょ! と、思って送らせていただきました。今回もニューバージョンで、ミニの花輪をもってきました(笑)。

M: ありがとう! 超かわいい。すごく嬉しい。

A: 親子の花輪になりましたね。

M: 東くんっていろんな角度から聞きたいんだけど、サクセスストーリーを聞こうかな。まずは、外堀から埋めていこう。

A: もともと音楽をやりたくてバンドをずっと組んでいて、21歳のときにバンドのメンバー4人で東京にでてきて。よくMILKとかLOFTとかでライヴをやっていたんですけど、全然食べていけなくて。

M: 悪名高き北九州出身だよね(笑)。

A: そうです(笑)。現金2万8000円の所持金で上京して友達と相部屋で当時永福町に住んでいたんですけど、とりあえずアルバイトを見つけないと家賃も払えないなって思って、家の近くでアルバイトを探していたんです。そしたら募集しているお花屋さんを見つけて約2年間、そこで働いたんです。だから特にお花が好きとか当時は全然なくて、ほんと九州の田舎育ちなんで仏さまに飾るものとかそういう印象ぐらいしかなくて。それから兄貴が働いていた生花の会社がピーコックに吸収されるってことになって。お花屋がなかったので、そこに2トントラックを乗ってお花を売りに行っていたんですよ。そしたらピーコックの上司の方が、うちの一角の店舗を使ってお花屋を自分でやってみないかって言ってくれて。でもそのときはお金がなかったので、3ヶ月待ってもらって豊洲の集荷センターで働いて、150万ぐらい貯めたんです。

M: 150万!? それ、そうとう働いたでしょ。

A: そうですね。夜の8時から昼の1時ぐらいまで、その他の時間も他で働いて貯めましたね。その150万で、ピーコックでお花屋さんを出店したっていうのが23歳のときです。けっこう評判も良かったんですよ。相方がアフロで僕がロンゲだったんで、ロックなやつらが花屋をやっているって。

M: それはさ、そのときから売っている花に東くんのカラーはあったの?

A: 花は仏様の花だったりプレゼントする花だったりと、ふつうの花を売っていましたけど、こだわりはありましたね。値札はださないとか、安売りの花屋になりたくないとかスーパーでやっているのにも関わらず、ちょっとイキがっていたっていうものあるんですけど。いい花を置きたいとか、お客さまには丁寧に接したいという気持ちは強かったです。

M: それで、音楽を初めに目指していたっていうことだったけど、花でやっていこうと決めた分岐点はなんだったの?

A: 生きていくためには、とにかく花を売らないといけないでしょ? 花は1週間しかもたないから、枯れそうな花でも売らなきゃいけなくて。でもそれってどうなのかな? システムを変えなきゃなって思う時期があって、オーダーメイドという形に変えたいなって思っていたんです。嘘つきながら働くのは嫌なんで。その時期にたまたまお客さんからちょうどいいタイミングで、スペースが空いているから銀座でやってみない? と誘いがあって。そこから25歳の時に銀座に出るんです。分岐点はその銀座に出てからですかね。

M: すごいなぁーーー! スカウトされるってことは、やっぱり輝くものがあったんだね。

A: でも、そこからの2年間が地獄だったんですよ。オーダーメイドの花を注文する人なんて、なかなかいなくって……。2年間で1日、売上ゼロなんて何度もありましたからね。だからとにかく隣のライオンの方に、気に入らなかったらお金いらないからとにかくお花を創らせてって頼んでいましたね。片方が店番で、片方がまた豊洲の運送屋に戻ってアルバイトして。全然食べていけないから、交代交代で豊洲まで働きに行っていたんですよ。それでまた戻ってきたの? みたいなことになり、筋がいいからうちの社員になりなよとかスカウトされちゃったりして(笑)。家賃はただみたいな金額でやらせてもらっていたんですけど、それでも食べていけなくて。そんなときに、麻布で働いていたときにつるんでいた人は離れていき、当時の彼女にもふられ、いろんなことがあって。うわ〜、俺、本当に最悪ーって思って。

M: うわ〜!

A: でも何を取るかって考えた時に、音楽で一回挫折しているからここで花から逃げたら、俺一生何者にもなれないなって思って、そこでよし、こっからの5年は1日も休まず働こうと決めて腹を据えましたね。それから花屋とアルバイトの行き来で働いていたんですけど。で、一番大きい仕事が入ってきたのが、エルメスの仕事だったんです。テーブルに置くちょこっとした花が欲しいっていうことで頼まれて、またその作品を見た方がそれいいね〜みたいになって。そしたら、エルメスの全館やってよいみたいになって、そこからですね。それが「VOGUE」で小さい記事ですけど載って、さらに依頼が来るようになって。

M: 5年休みなしって……。で、ざっくり言うと今にいたるのね。でも、そうなんだよね。はじめは雑誌の小さいスペースとかに載った写真が、その雑誌内でまた頼まれ、それを見た他の雑誌社の人がまた依頼してきてみたいな。

A: 実花さんでも売り込みに行っていた時期があったっていうのに驚きました。

M: 私は公募展ででてきているんだけど、いろんな賞をいくつか獲って。でもさフォトグラファーって、今日からフォトグラファーって言って名刺つくっちゃえば、なれるから。最初に作ったフォトグラファーの名刺がスペル間違えちゃっていて。Hが抜けていて、フォトグラパーになっていたんだけど……。それから、自分が行きたいっていう雑誌社の電話番号を調べて「この雑誌をやりたんですけど是非ブックを見てください」って電話をするんだけどさ、とにかく電話に出てくれない。どこの誰だか分からないから、担当者いないんでとか、ごはん食べに行っているんで、今電話中です、もう帰りましたとかで1日終わっちゃったりして。そんな感じなんだけど懲りずにひとつひとつ電話をして1社1社、名刺とブックを持っ

MAKOTO AZUMA× MIKA NINAGAWA SPECIAL INTERVIEW

Photography: UcCHI(Lucky Star)

会いに行って、1社仕事が決まり、2社仕事が決まりとちょっとずつ増えていった感じかな。で、以前写真集をつくったときに、昔冷たくあしらわれた編集さんと一緒になって。「あのときは、冷たかったくせに」って心の中では思ってたりとか……。大人だから、いただいた仕事はもちろんやりますけど。

A: 僕の中では、ずっとが〜っと売れてらっしゃるイメージがあって、そういう時期もあったんだ〜とちょっとびっくりしましたね。

M: そうね。地道にひとつひとつやりながら、上り調子に昇っていったっていう感じかな。お金がなくても、取材とかはけっこう受けていたから、見え方的には派手だったのかもしれないね。

M: ところで東くんて、フラワーアレンジメントの学校出てとか、そういった普通の段階をふんだやり方ではないじゃない? それは、何か教育を受けてないからこそリアリティがでたとか、そういうことはあるの?

A: それはありますね。花屋でアルバイトをしていた時に茎を短く切って挿していたら、茎を短くするなんてもったいない! 茎は長くするほうが価値はでるとかで、花の挿し方が違うでしょって怒られたりしていて。

M: でも東くんは、かっこいい! と、思ったから茎を短くして挿していたんでしょ?

A: そうですね。自分がかっこいいと思ったことが全てですね。

M: でも何かを変えようとか、そういうのがあったわけではないんでしょ?

A: そういうのは全くないですね。

M: 私と一緒だわ。何かを変えたいとかない。自分がいいと思うとおりにやっているだけ。美大に入ろうと思って受験用の予備校に通っていていたら、あーしなきゃいけない、こうしなきゃいけないことばかりで、その中で写真だけは受験に関係がないから自由にやれていて。楽しかったから写真の学校に行こうと思ったんだけど、写真なんてカメラ押せば誰でも撮れるからに別に習う必要もないなって思って。そんなスタートだから私にとって何してもいいものなわけ未だに、人に迷惑がかからない限り。べつに写真学校も出ていないし、アシスタントにもついてないし、スタジオも経験してない。別にぶれていたって、ぼけていたっていいじゃん! 何が悪いの? いいじゃん、いいじゃんって写真を撮っていて。そこそこ人気はあったんだけど、いわゆるちゃんとした経験を積んでいるカメラマンは、あんなの写真じゃないとか、クレームがきたりとすごく激しかった。でも、何か新しい表現をして今までと違う表現をするぞっていうのがあったからとかじゃなくて、これがいいじゃん! これはかっこいいじゃん! ってことをただやっていたいだけで。

A: 僕も、よく狙っていた? とかそういうことを言われるんですけど、まったくそういうことってなくって、自分がかっこいいと思うことや、こういう世界もありかなっていうものをチャレンジしていくのみで。

M: でもさ、ものすごく情報がある中で自分のかっこいいものはかっこいいと言いきれたのは、なんでだったの?

A: 大きな勘違いですかね。でもそれを最後まで突き通すと、それは多分正しいものになるのじゃないかと思います。途中で諦めちゃうと、ただのほんとの勘違いで終わったと思うし。僕はずっと死ぬまで勘違いをして生きて行きたいなって。

M: 勘違い!! 分かる。私は、よくあの時期みんな仕事をくれたよなって思うよ。撮影の時って本番を撮る前にポラを切るじゃない? でもポラって、実際のフィルムで撮るものと違うわけ。撮っている物質も違えば、当然あがりも違うわけじゃない。だからポラ撮ってもしょうがないじゃん! とか思ってずっと撮んなかったのよ。

A: すごいですね、それ!

M: 私、写真を始めて7年間ぐらいポラって持ってなかったからね。広告とかちょっと大きい仕事とか、ポラとか見たいじゃん! って、言われるんだけど。違うから! って言って、撮らなくて。でも、あんまりにもポラがそれでも見たいっていうから、チェキを持っていて、それでポラを切ったっていう(笑)。しかもポラはフラッシュたいちゃって、本番はフラッシュをたかない。ね、違うでしょ! って、先方に確認をしたりして。じゃ、もういいです……みたいに諦めてもらうっていう(笑)。

A: 実花さんは、すごくラフですよね!

M: だって、そうなんだもん! でも親切さということでは、ポラを切ったほうがいいのかなっていうのはあるけどね。だから途中からポラを切ったほうが喜ばれるなら、サービスの一環としてということでポラを切るようにはなったね。今でも、ポラは意味がないって思っているけど。

A: でも大事ですよね。そういう風に突き通していくことって。

M: でもね、最近の私のテーマなんだけど、思考が停止している人が多いなと思って。ポラってさ、みんな切るもんだって思っているんだけどさ。決まりごとではないんだからさ、切らなくてもいいじゃん! って、思う人がいてもいいわけじゃん。でも、みんなが切るもんだって思っているわけじゃない? 例えば、茎は長いほうが高級感あっていいんだっていう、そのことを疑うことすらなくて、それがもしかしたら違うのかも? っていう思考が完全に停止している世の中だと思うの。そういうことに対して、けっこうイライラしたりする。東くんは、世の中に対して怒ったりすることって日々ないの? いつも怒っている印象だけどね(笑)

A: わりと、そうよくイライラしているよね。好意的に怒りを呼ぶようなことをしているわけじゃないんですけど、何かを見つけて常に怒ってないと上がらないっていうのもあるんですよ。大抵の人って30パーセントの力で生きていられるじゃないですか。でも、自分で完璧に何か創りあげたいと思う人は、100パーセント以上の力で戦っていかないと、何者かになれないと思うんですよ。そういうのもあって、自分を奮い立たせて従業員とかにも厳しく指導しますし。120パーセントで生きていかないと、絶対難しいよって言っていて。たまにどこかのブランドとかで働いていた子がうちに来たりすると、やっぱり30パーセントで働くことに慣れているから、うちで働くことが辛かったりするみたいで。

M: そういうのは、まず打ちのめす! 男の子は特にプライドが高いから、最初に上手に鼻をポキって折るかがポイント。君ははなくそですって言うところから始めるかな。私は、すごく異業種のほうが雇いやすくて。同じ業界でわたし業界知っているのでみたいな態度とられると、ムカーってくる。

A: 俺は、そういうの絶対雇わないもん。カーってきますもん。前のところではこうやっていたからとか言われちゃうと。だったら来んなよーっていう話ですよね。

M: じゃ、うちじゃなくていいんじゃないの? って、思うよね。

A: やっぱそういうのはありますね。でも、俺、実花さんからお仕事の依頼を受ける2日前に、実花さんの話をすごくしていたんですよ。表現は違いますけど実花さんは僕にとっては、フラワーアーティストなわけですよ。花や美しいものを撮るというところとか、僕にとって写真家というよりはアーティストっていう存在ですね。

M: 東さんと初めての仕事はいきなり大きい仕事で、映画『さくらん』だったよね。その映画で、お花を創ってほしいっていう依頼をさせてもらって。ちょうどその頃に東くんが情熱大陸に出演していて、この人がいいよねっていう話になって。そしたら、ちょうどそのオファーがくる2日前に私の話をしていたっていう。

A: 誰のお花の写真が好きかねえ? みたいな話をしていて、実花さんの写真はすごいよ! って。なんか、運命的ですよね。実花さんは、どういう気持ちで写真を撮っているんですか?

M: やっぱ、東くんが言っていた自然界の花は超美しいっていう。私もそれが前提で手





を加えるからには、これを超えたいねっていう。それと私もおんなじで。だってさ、花って誰がみても美しいわけじゃん! 写真なんかで言うと、おじさんでも若い女の子でもアマチュアの人が、最初に記念撮影以外で何撮ろうかってなると、花を撮ることがすごく多いでしょ。ものすごくみんなが撮る被写体だし、カメラも押せば撮れるもので。じゃあ、花を撮るって行為って私にとってどういうことなんだろうって。写真家としてもすごく難しいんですよね、花を自分のものにしていくって。でもそれって、まずこの恐れ多いものを、どれだけ多く感動して撮れるかで。この花を私が撮ってやるぞとかではなくて。でも、撮るからにはそのものをより超えたいし、最大限にその瞬間を引き出して記念として残しておきたい。お花に対する尊敬というか、いつもため息つきながら撮っている。は～ん、キレイ～って。

A: やっぱ、そこが他の方と違うんでしょうね。

M: でも蜷川実花的な写真って、一種のスタイルみたいになっているじゃない? だけど、それをスタイルみたいにして撮ると絶対よくない。それっぽくはなるんだけど、自分で撮っているときに、そこには震えるほどのキレイだなって思う感情がないと良いものが撮れない。東くんは、どういうふうに花と向き合っているの?

A: 僕は花をつくるときは、絶対入り込めないとだめだね。なんとなくキレイで、形式がキレイでというぐらいなら、誰にでもできるから。だから気持ちをそこにどれだけ入れられるかっていう、花とのセッションですかね。

M: 東くんは、それをどういう風に下の世代の子たちに伝えていくの? どうやって継承していくの?

A: やっぱり継承は難しいですね。言葉じゃ伝えられないんで。まずはお花をどう取り扱うかとか。花を誇ごうもんなら、もうボコボコですよ。お店もそうです。お花が主役なんだから、お花より目立つなといいますし。お花を扱っていくということを教えていくことはとても時間がかかりますよね。自分と花と共に生きていくっていう感覚的な問題で、本当に朝早くから夜遅くまで花を意識して生きていけるかとか。従業員の胸には必ずコサージュをつけさせるんですけど、それでも意識的に違うと思うし、とにかく花を意識して生きてけっていう。う～ん。でもどうやって伝えていきましょうかね? 難しいですよね。実花さんのところは、みなさんしっかりされていますもんね。

M: 仕事的なことで言えば、私が教えなくてもいいのかな? と思うんだけど、生き方っていうか、まず礼儀みたいなところは学んでもらいますね。

A: そういうことなんですよね。

M: 死ぬ気でやっていない人はやっぱり続けていけないんですよね。その温度差っていうのは、仕事をしていくうえで常に感じるよね。もちろん、その中でもいい人もいるけど。でもやっぱり全部が全部、東くんと私みたいのが集まった世の中っていうのも、息苦しいけど(笑)。編集者でも何かをつくるうえで、戦うとか向き合う人って本当にいないんだな～ってここ数年思う。そーか、そーかってクリエイティブなことを一緒にやっているかと思っていたのに、サラリーマンなんだってことにふと気づかされたりするっていう。

A: 僕も感じるときはありますね、やっぱり寂しいじゃないですか。確かに僕たちみたいな熱い人たちばっかりでも、息が詰まるかなって思うけど(笑)。少なくともこういうことを一緒にやってがんばったよね～みたいなときに、ひゅっと抜かれたりすると、は～ってなんか気が下ちたりしますね。でも実花さんのスタッフさんとか見ていても、ほんと礼儀正しくてちゃんと見習わんと! って、思います。ほんと実花さんのマネージャーさんは、海外に行かれているときに電話をしても即折り返してくれますからね。逆に僕のほうが、気が引けるぐらい。

M: 私たちには相方がいるじゃない? ここがいるっていうのはすごく楽なんですよ。私が厳しく怒らなくてもよくて、マネージャーがむっちゃ怒ってくれるから。こっちは、まあまあって言うほうに回れるっていう。そういうシステムが上のほうで上手く住み分けられているので、指導的なことはすごく楽だね。

A: でも本当にすごいですよね、実花さん。写真集とか展覧会とか、やっぱり一通り見させてもらっていますけど仕事も丁寧にやっていらっしゃるし、業種は違いますけど本当に憧れる。追いつけばいいな～って思うし気になる存在で、常に刺激をもらっています!

M: 私も東くんが創るお花から、ダイレクトにパワーをもらっているけどね。東くんに創ってもらった花をね、知り合いに送ったりすると本当に喜ばれるのよ。会場に置いてあっても、やっぱ一番いい! って思う。

こないだ楳図先生に送るお花を創ってもらったときも、かわいくとかそういうオーダーの仕方じゃなくて、楳図先生に差しあげるんでとお願いしただけなのに、思った以上のものを創ってくれたし。

A: ありがとうございます!

A: でも、実花さんのバイタリティは本当にすごいっすよね。ずーっとやり続けているじゃないですか。

M: でも、東くんもそうでしょ。

A: やっぱりやり続けなきゃ死んじゃうっていうことなんですかね。

M: そこは深刻だよね。

A: ですよね。

M: 妊娠していたときに、産む3日前まで撮影をしていたんだけど。1ヶ月間ぐらいの間はスケジュールがゆるいじゃない。だから超暇でどうしようとか思って、私がすることを事務所内で募集したぐらいで……。展覧会で使った額をデコって、こういうシリーズできたんだけど、どう? どこかで売れないかな? って、ギャラリーに写メ送ったりして(笑)。何かしてないと、本当無理なんですよ! 私はわりとアーティストっぽく見えるかもしれないけど、そんなエキセントリックじゃないと思うし、意外に日常生活は普通に送っていると思うの。でも写真撮らなかったら、絶対バランス崩す自信がある。やっている限りは精神的に安定しているからね。

A: 実花さんの手書きのスケジュールをどこかの雑誌で拝見しました。すごいな～って思って。

M: 年間のスケジュールを見るとね、もっとすごいのよ。10月は忙しいね! 東京に滞在しているのは10日間ぐらい。

A: ロケですか?

M: 撮影と個展。今度、西宮でオペラシティでやった個展が巡回するの。うちのスーパースタッフのうっちーが前乗りして、会場のセッティングからすべてやってくれるんだけど。うっち～宜しくね! うっちーは、よく働いてくれるんだけど、実は出戻りなのよ。

A: うちも出戻りいるんですよ。なんか実花さんのところと形態似ていますね! 僕は戻りたいって言ってきた子に、リアカーで花を毎日運ばせていて、必ずうちの前を通るっていう指示をだしていましたよ。ルート66っていう名前までつくって。2年間彼はやり遂げたんで、帰ってきていいよ! 武者修行終わり! って言って、戻ってきてもらいましたけど(笑)。

M: うちのウッチーは2年間2度寝していたんだよね。なんか自分の為にがんばれない子みたいで。そういう人っているんだなってけっこう驚きました!

A: いや、いますよ! 実花さんのサポートをしていくうちに、開花されるタイプなんじゃないですか?

M: 私は、帰ってくるなら、もう寝ないでねって言った(笑)東くんのところよりは、全然怖くないわ～。うちはマネージャーが怖いけど。だから、私が怒るのは年に2回ぐらいかな。でも、マネージャーとは怒る焦点が似てる。あの危機感のない歩き方はなんだ! って、ダラダ





ラ歩いている人を見ると怒ったりしますもん。

A: イライラしますよ〜。それ、分かります。

M: 最近、私が気になっていることを発表してもいい? なんか「自分らしく」って言葉が多くはびこりすぎていて嫌なの。こないだヨドバシカメラに行ってね、レジ横みたらドライヤーのパッケージに、"自分らしさアップ"って書いてあって、なんじゃそりゃ! って。だいたい私だって自分らしさってあるのか、ないのかも知らないしさ。そんなものどうでもいいのでは? って、思っちゃってさ。自分らしさとか言い過ぎじゃない? メディアって。

A: それすらも軽い言葉になっているんだね。

M: そう! セレブって言葉と一緒! 昨日もさ、イベントの楽屋の扉にセレブ待機場所って書いてあってさ。なんじゃ、セレブ待機場所って!! と思ってさ。それも汚い字で書いてあってさ。しかもほんと無理矢理作ったような隅っこの場所で、ひなのとかアンナとか、みんな立っているわけよ。なんか本来の意味からどんどんかけ離れているじゃない。そういうのをやっぱり誰も気にならないって世の中が、本当イライラするの。言葉も訳すな! みたいな(笑)

A: でも、多いですよね。それすらも右向け右みたいな。

M: なんか自分らしさっていうのも、もともとだめな人が自分らしさをアップしちゃったらどうするだろうって。ドライヤーだったら、きれいさアップとかさ、美人度アップとかさ。それでいいじゃん! なんじゃ自分らしさアップって、本当に思います。マネージャーにレジ横から電話しちゃったもん、「ねえ、ドライヤーに自分らしさってどう思う? 遂にここまで降りてきたよ」って。

A: 僕も、ありました! こないだひさびさに同級生と飲んで大げんかして帰ってきたんですけど、まさに自分らしさとか、俺はこれからこうやって生きていくとか、雇われている立場なのに偉そうにしていて。みすぼらしいじゃないですか、そういうの。そんなこと言うなら、さっさと独立して自分でやればいいのに。でも、今は景気がとか、そんな話題ばっかりでくだらん! とか思って。そのくせ、自分やっています感だすんですよね(笑)俺はやっているけど、世間はやってないみたいな。嘘をつけ! と。

M: (笑)!!!

A: そんなんで、ダメだ。これ以上あがんない! みたいになって帰りました。

M: 分かる。私も最近、そういうのが嫌だから飲みに行かないもん。

A: だから、だんだん友達減っちゃっていて……。

M: いいのよ。価値観が合わないんだもんね。そういう人に限って、こないだ東くんと飲んだんだよね。とか、言っているんだよね(笑)

A: 絶対言っているね(笑)

M: 今、電話してみようか。アレ、かかんないな。おかしいな、留守電だなとか言っちゃったりして。こっちは全然知らないのに、あ、実花ちゃんでしょ〜って、言っている人もけっこう居ると思うし。

A: そういう人、多いんですよね〜。

M: 東くんからさ、今の若者に対して伝えたいこととかってある?

A: やっぱ、死ぬ気で生きなきゃだめだよって思いますね。

M: つべこべ言わず、やれ! ってね。

A: いつも言うんですけど、迷う前に飛べ! って。やっぱりしっかりやっていく中にしか何も生まれないんですよ。

M: 何かをやった先にしか何もないからね。うちのアシスタントとかもさ、写真を撮る前にゴニョゴニョ言うのよ。この色が今、自分で流行っているとかさ。で、私が「知るか。何本撮ったんじゃ?」って言ったら、1本です……って。アホ! 何日あったんじゃ、ボケ! みたいな。まず、撮ればいいと思うんだよね。撮った中で撮れなくなったら、その時考えればいいし。自分らしさとか流行とか言っているまえに、圧倒的に手を動かさないとね。そういう風にしている人が少ないよね。情報が多いからかな。

A: それもあるかもしれないですね。

M: でも、情報が多くてもそれを鵜呑みにするほうがバカだよね。量を伴わない質はないっていう、森山大道さんの言葉があって、全くそうだな〜って思うもん。

A: 最近大口たたくわりには、すかしているだけであまり動かない人が多いですもんね。そしてすかしているやつは、すかしているやつに憧れをもつっていう、良くない連鎖……。

M: (笑)! でも、第一線で活躍している人は、まず努力を惜しまないでするっていう素質があるよね。その努力したことが恥ずかしいのか、それを隠す人が多いよね。だからそれを見た人が、努力しなくてもみたいな感じで勘違いしちゃう。たくさん撮ったからいいってわけでもないんだけど、みんなたくさん撮っていると思うんだよね。もしくは、それに伴うことをしていると思う。

A: 森山大道さんとかは、ずっと撮り続けていますもんね。そういう人って本当に素敵だな〜って思います。先日、大竹伸朗さんと仕事をしてきたんですけど、彼もずっと描き続けていますからね。

M: え〜すごい〜。彼の展覧会すごく良かった!大ファン、私。

A: 銭湯を創ってきたんですよ。そこに僕が植栽を飾ったんです。何も考えないで創り続けようっていうことで創らせてもらっていたんですけどすごく楽しかったです。本当に大竹伸朗さんは素晴らしい人ですね。

M: 私、大竹さんは学生のときから、すごく大好き。

A: あの人も創り続けている人なんですけど、常に世の中に怒りを抱くことが多いらしくて、心の中でよく"ファック"って叫ぶらしいです。その言葉がテーマになることもあるみたいで。

M: じゃあ、最後に東くんの今後の予定を教えて。あとは、将来的にこうなりたいっていうイメージとかはありますか?

A: やっぱりお花っていうスタンスを第一に考えて、大事にしながらも花の価値をあげるために、いろいろな花を使って、いろいろ発信していきたいなって思います。あと、これで良いなんてゴールはないんで、死ぬまでこうやって模索しながら生きていきたいなって思います。このままの状態で!

M: 私もよくこの質問聞かれるけど、「夢はこのまんま、このペースでやり続けることです。以上です」って言う。でも、それが一番難しいんだよね。

A: やっぱり年を重ねていくうちに、変わっていくことってあるじゃないですか。それに伴いながら続けていければいいですね。

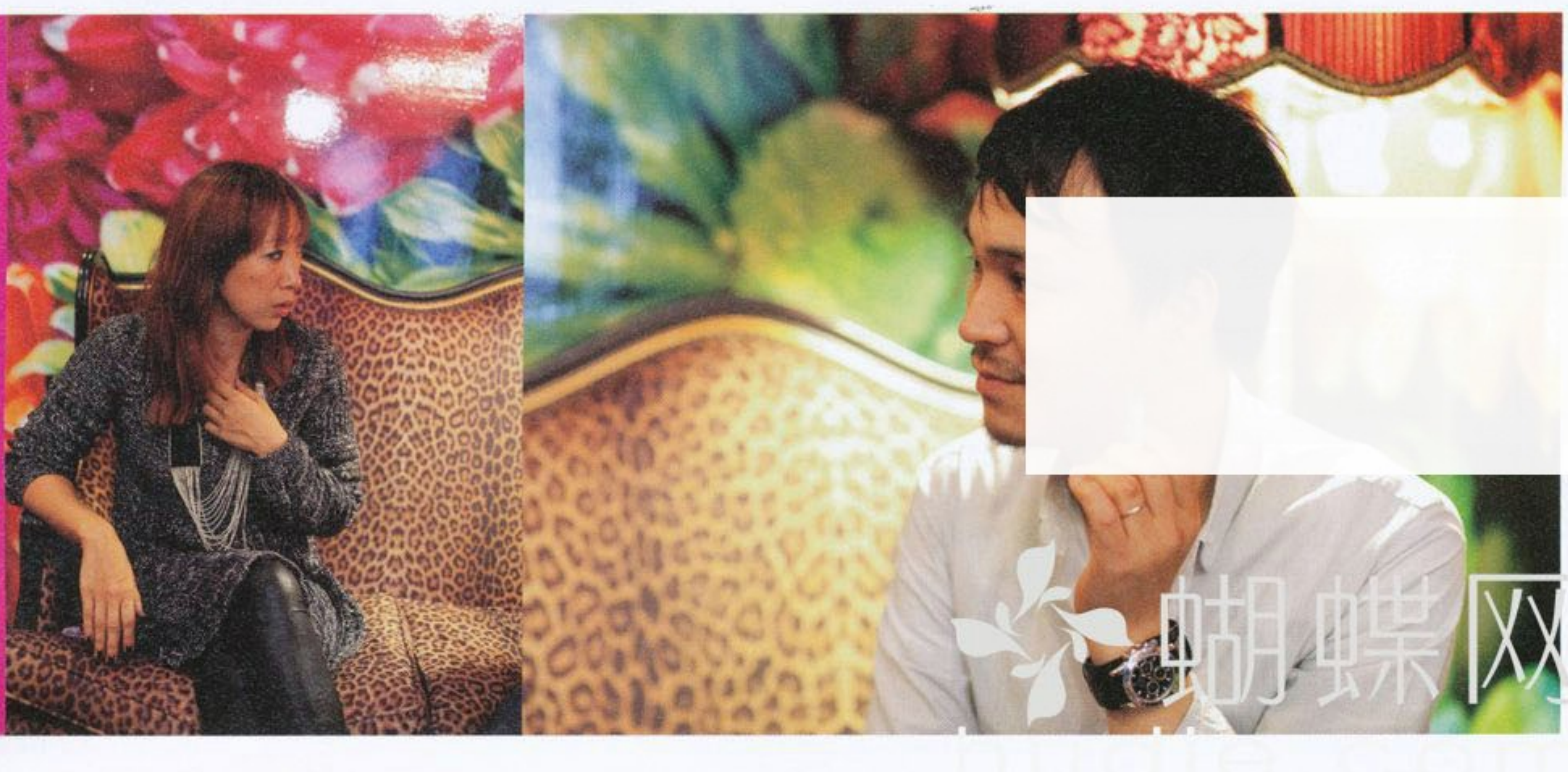
M: あとは総合的に赤字にならない程度に、できれば儲かったら嬉しいけど(笑)。そしてひとつひとつには、そんなギャラに固執せずだね。

A: 実花さんでもお金と割り切って仕事をされることがあるんですか?

M: うん。でも誠実にやるよ。求めらることに、どのぐらい返せるかってことに徹底する。やりたい仕事は、お金を求めない! いや〜、今日はたくさん話したな〜。東くんのサクセスストーリーが聞けて楽しかった!

東信　MAKOTO AZUMA　1976年福岡生まれ。花屋。フラワーアーティスト。2002年より花屋を営み続け、現在は東京・南青山にてオートクチュールの花屋「JARDINS des FLEURS」を構える。国内外問わず、フラワーアーティストとして数多くのエキシビションやディレククションを手がける。2010年2月には、POLA Museum Annexにて開催される「茶の湯:私の小宇宙展」にて新作を発表予定。

MAKOTO AZUMA × MIKA NINAGAWA
SPECIAL INTERVIEW





あー 全く
忙しい
くまもとでも展示
こんなお花あるのね!
超キレイ
un r
t mind
e mountain
a,Let it be
'cos I g
プライベートで
ハワイに
行きました!
やっぱ
ハワイは
いいね〜
この夏は
東京に殆りいませんでした.
ロンドン
上海
アイスランド
オーストラリア
….
あんまり夏っぽくなかった
オーストラリア
かごしまの個展オープニング


ぴよぴよ
ぴよぴよ
オーストラリアに移動遊園地です!
蜷川実花展
上の花、天上の色—
Mika Ninagawa: Earthly Flowers, Heavenly Colors
009.10.10sat–11.29su
西宮市大谷記念美術
かみを赤くしました。
パーっと あそびたいなぁ
ひっこしました!
愛車アウディ Q5
上海ロケです!!
楽しかった~
展示中~
ハデハデです!!
アイスランドに行きました!!
ブルーラグーン


paulfrank.com



SHOP LIST

クイーンズイースト (横浜) 045-212-3690
トレッサ横浜 045-534-2402
イオンモール川口キャラ 048-269-1556
イオン レイクタウン (越谷) 048-930-7493
スマーク 伊勢崎 0270-63-2220
イオンモール水戸内原 029-259-1326
名古屋パルコ 052-242-6808
アリオ鳳 (大阪) 072-271-3842
くずはモール (大阪) 072-800-7019
イオンモール神戸北 078-986-8220
阪急西宮ガーデンズ 0798-63-7097
エミフル MASAKI (愛媛) 089-985-2525
イオンモール福岡ルクル 092-939-7108
アミュプラザ鹿児島 099-254-5765
佐野プレミアム・アウトレット 0283-24-1564

NARUMIYA INTERNATIONAL Co.,Ltd.
TOKYO:03-6430-3179
OSAKA:06-6943-3201
HIROSHIMA:082-247-9274
FUKUOKA:092-473-0081

www.paulfrank.jp

PAUL FRANK
industries



MIKA NINAGAWA
SPECIAL DIRECTION!!
2009-2010AW

MASAKI AIBA

HINANO YOSHIKAWA

EMI SUZUKI
MARIE
AKI HOSHINO
SHIHO FUJITA
TSUBASA MASUWAKA
AKINA MINAMI

IMALU

KIKO MIZUHARA
ANNE
ANGELA BABY

JYUNPEI MIZOBATA
KOHJI SETO

SHU

MATOI PUBLISHING, INC